

お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日
ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

FM, MW, LWチューナ (車載) 用
PLL周波数シンセサイザおよびコントローラ

μ PD17012GF-011は全世界対応のPLL周波数シンセサイザ方式FM, MW, LWチューナ用に開発されたCMOS LSIです。

PLL周波数シンセサイザ・コントローラ、200 MHzプリスケラ、LCDコントローラ/ドライバおよび周波数カウンタを内蔵しているため、デタッチャブル・タイプの車載用ステレオをはじめとした高性能な時計付きFM, MW, LWチューナがコンパクトに構成できます。

特 徴

- 全世界のFM, MWバンドおよび欧州のLWバンドが受信可能
- マニュアル・チューニング、オートチューニング (シーク、スキャン) およびプリセット・メモリ・スキャンなどの豊富な選局機能
- 6 ボタンでFM18局 (FM1, FM2, FM3各6局) MAX., MW12局 (MW1, MW2各6局) MAX., LW6局MAX., およびVF6局の独立したプリセット・メモリ
- FM: 3, MW: 2, LW: 1, VF: 1のラスト・チャンネル・メモリ
- VF放送局 (交通情報) のオートチューニング (SK信号サーチ) およびDKスタンバイ機能
- “ST” (ステレオ) 表示 (MWバンド, “ST” 表示可能)
- MTL (METAL), NR (Noise Reduction) およびAMS (Auto Music Search) のコントロール出力と表示
- オートプリセット・メモリ機能
- “[CD]” (コンパクト・ディスク) 表示
- “TAPE” (カセット・テープ) 表示
- LOUD (ラウドネス) コントロール出力および表示
- 12時間または24時間表示の時計機能
- 外部LCDコントローラ/ドライバ (μ PD7225) 接続可能
- プリスケラ (200 MHz MAX., $V_{in} = 0.3 V_{P-P}$), 周波数カウンタ, LCDコントローラ/ドライバ内蔵
- リモコン受信機能 (μ PD6121使用時)
- KEY部分またはKEY, LCDパネル着脱可能

オーダー情報

オーダー名称	パッケージ	品質水準
μ PD17012GF-011-3BE	64ピン・プラスチックQFP (14×20 mm)	標準 (一般電子機器用)

品質水準とその応用分野の詳細については当社発行の資料「NEC 半導体デバイスの品質水準」(IEI-620)をご覧ください。

本資料の内容は、後日変更する場合があります。

機能の概要

受信周波数, チャンネル・スペース, 基準周波数, 中間周波数

地 域	バンド	受信周波数	チャンネル・スペース	基準周波数	中間周波数
東 欧	FM	87.5 - 108.0 MHz	50 KHz	25 kHz	10.7 MHz
	MW	522 - 1620 kHz	9 kHz	9 kHz	450 kHz
	LW	144 - 290 kHz	1 kHz	1 kHz	450 kHz
西 欧	FM	87.5 - 108.0 MHz	50 kHz	25 kHz	10.7 MHz
	MW	522 - 1620 kHz	9 kHz	9 kHz	450 kHz
	LW	144 - 290 kHz	1 kHz	1 kHz	450 kHz
中 国	FM	87.0 - 108.0 MHz	50 kHz	25 kHz	10.7 MHz
	MW	531 - 1602 kHz	9 kHz	9 kHz	450 kHz
豪 州 中近東	FM	87.5 - 108.0 MHz	100 kHz	25 kHz	10.7 MHz
	MW	531 - 1602 kHz	9 kHz	9 kHz	450 kHz
米 国 1	FM	87.5 - 108.0 MHz	100 kHz	25 kHz	10.7 MHz
	MW	530 - 1620 kHz	10 kHz	10 kHz	450 kHz
米 国 2	FM	87.5 - 107.9 MHz	200 kHz	25 kHz	10.7 MHz
	MW	530 - 1620 kHz	10 kHz	10 kHz	450 kHz
米 国 3	FM	87.5 - 107.9 MHz	200 kHz	25 kHz	10.7 MHz
	MW	530 - 1710 kHz	10 kHz	10 kHz	450 kHz
日 本	FM	76.0 - 90.0 MHz	100 kHz	25 kHz	— 10.7 MHz
	MW	522 - 1629 kHz	9 kHz	9 kHz	450 kHz

ラジオ機能

(1) マニュアル・チューニング

種 類	機 能
マニュアル・アップ マニュアル・ダウン	ステップ送りと早送りができます。

(2) オートチューニング

種 類	機 能
シーク・アップ シーク・ダウン	放送局を検出すると、その周波数を保持します。
スキャン・アップ スキャン・ダウン	放送局を5秒間ずつ受信します。

(3) プリセット・メモリ・スキャン…プリセット・メモリの内容を5秒間ずつ受信します。

(4) VFオートチューニング

種 類	機 能
SKシーク・アップ SKシーク・ダウン	交通情報放送局を検出すると、その周波数を保持します。
SKスキャン・アップ SKスキャン・ダウン	交通情報放送局を5秒間ずつ受信します。

(5) プリセット・メモリ

- FMバンド… FM1：6局、FM2：6局、FM3：6局
- MWバンド… MW1：6局、MW2：6局
- LWバンド… 6局
- VFバンド… 6局

(6) ラスト・チャンネル・メモリ… FM1、FM2、FM3、MW1、MW2、LW、VF独立に各1局

(7) LOC (ローカル) のコントロール出力と表示 (オートローカル機能選択可能)

(8) “ST” (ステレオ) 表示機能… FMおよびVFバンドで有効

MWバンドでも表示可能 (切り替え機能あり)

(9) オートストア・メモリ

(10) DKスタンバイ、SKアラーム機能

テープ機能

- (1) テープ走行方向表示… 早送り時は2.5 Hzで点滅可能
- (2) AMS (Auto Music Search) のコントロール出力と表示
- (3) MTL (METAL) のコントロール出力と表示
- (4) NR (Noise Reduction) のコントロール出力と表示
- (5) “TAPE” (カセット・テープ) 表示機能

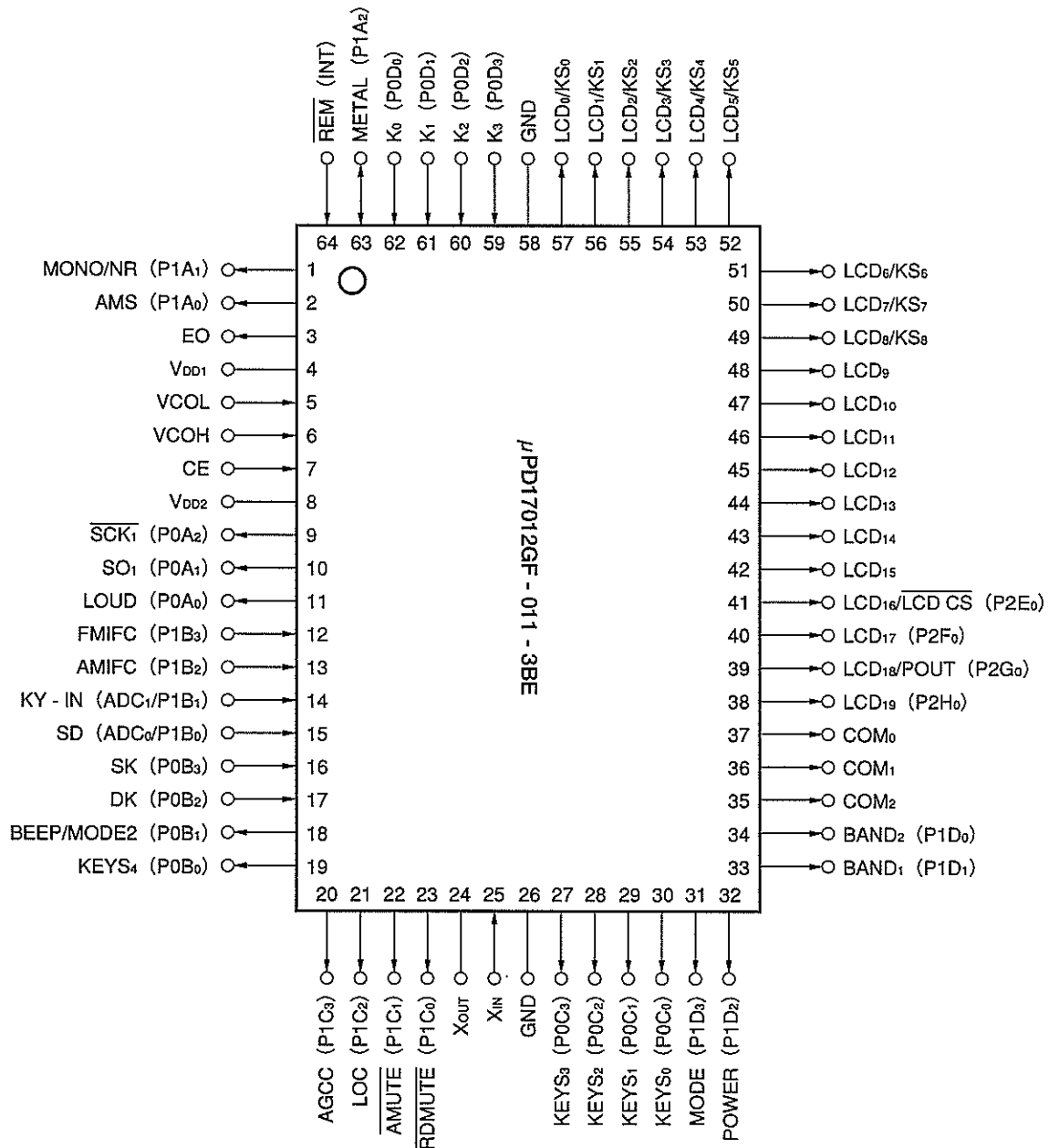
時計機能

- (1) 12時間表示 (“AM”, “PM” 表示付き) および24時間表示選択可能
- (2) コロン (“:”) のフラッシング (1 Hz) 選択可能
- (3) 時計なしモードでは低消費電流 (10 μA MAX.) でのバック・アップ可能

そ の 他

- (1) LOUD (ラウドネス) のコントロール出力と表示… ラジオ、テープ、CDモード共通
- (2) キー・アクノリッジ (ピープ) 出力… 有効モメンタリ・キー・オンで出力
- (3) 表示切り替えおよび優先表示機能
- (4) “[]” (コンパクト・ディスク) 表示
- (5) 外部LCDコントローラ/ドライバ (μPD7225) 接続可能
- (6) リモコン受信機能 (μPD6121使用時)
- (7) KEY部分またはKEY、LCDパネル着脱可能

端子接続図 (Top View)



目 次

1. 端子機能 … 7
2. キー・マトリクスの構成 … 16
 - 2.1 初期設定ダイオード、オルタネートまたはトランジスタ・スイッチ・マトリクスの配置 … 16
 - 2.2 スwitchの接続 … 16
 - 2.3 初期設定ダイオード、オルタネートまたはトランジスタ・スイッチ・マトリクスの接続 … 17
 - 2.4 モメンタリ・キー・マトリクスの配置 … 18
 - 2.5 モメンタリ・キー・マトリクスの接続 … 18
 - 2.6 キー・マトリクスの説明 … 19
 - 2.6.1 初期設定ダイオード・マトリクス … 19
 - 2.6.2 オルタネートまたはトランジスタ・スイッチ … 31
 - 2.6.3 モメンタリ・キー … 32
3. モード遷移 … 64
 - 3.1 初期設定ダイオードRDONが1のときのモード遷移
(CE端子状態の切り替えによるラジオのオン/オフ) … 64
 - 3.2 初期設定ダイオードRDONが0のときのモード遷移
(RDSETスイッチ状態の切り替えによるラジオのオン/オフ) … 74
4. 表 示 … 85
 - 4.1 LCDパネル … 85
 - 4.2 字 体 … 85
 - 4.3 表 示 例 … 85
 - 4.4 LCD割り当て … 86
 - 4.5 表示説明 … 87
5. リモート・コントロール … 89
 - 5.1 リモコン・キーの配置 (μPD6121Gを使用した場合) … 89
 - 5.2 リモコン・キーの説明 … 90
 - 5.3 リモコン・データ・コード一覧 … 90
 - 5.4 μPD6121G-002を用いたリモコン回路例 … 91
 - 5.5 μPC2800HAを用いたリモコン・プリアンプ回路例 … 91
6. ミュート出力タイミング・チャート … 92
 - 6.1 ラジオ・ミュート ($\overline{\text{RDMUTE}}$ 端子) 出力タイミング・チャート … 92
 - 6.2 ラジオ・ミュート ($\overline{\text{RDMUTE}}$ 端子) とオーディオ・ミュート ($\overline{\text{AMUTE}}$ 端子)
出力タイミング・チャート … 97
7. 端子の入出力回路 … 99
8. 応用回路例 … 103

9. 電気的特性 (暫定) … 104

10. 外形図 … 107

1. 端子機能

端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式																													
1	MONO/NR	モノラルおよびノイズ・リダクション出力	<p>モノラル信号出力端子またはノイズ・リダクション信号出力端子です。</p> <p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, テープDKオン・モード, CD・DKオン・モード時</p> <p>モノラル信号出力端子として動作します。</p> <p>選択バンドおよびMONOのオン/オフ状態により次のように端子の出力レベルを決定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>選択バンド</th> <th>MONO状態</th> <th>出力レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FM</td> <td>ON</td> <td>High</td> </tr> <tr> <td>VF</td> <td>OFF</td> <td>Low</td> </tr> <tr> <td>LW</td> <td>Don't care</td> <td>Low</td> </tr> </tbody> </table> <p>MWバンド選択時は, 初期設定ダイオードMWSの設定により, 次のように端子の出力レベルを決定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>MWS</th> <th>MONO状態</th> <th>出力レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td>ON</td> <td>High</td> </tr> <tr> <td>OFF</td> <td>Low</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>Don't care</td> <td>Low</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1: ダイオードでショート 0: オープン)</p> <p>(2) テープ・モード, テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>ノイズ・リダクション信号出力端子として動作します。</p> <p>NRのオン/オフ状態により次のように端子の出力レベルを決定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>NR状態</th> <th>出力レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ON</td> <td>High</td> </tr> <tr> <td>OFF</td> <td>Low</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) CDモード, CD・DKスタンバイ・モード, パワーオフ・モード時</p> <p>ロウ・レベルを出力します。</p>	選択バンド	MONO状態	出力レベル	FM	ON	High	VF	OFF	Low	LW	Don't care	Low	MWS	MONO状態	出力レベル	1	ON	High	OFF	Low	0	Don't care	Low	NR状態	出力レベル	ON	High	OFF	Low	CMOS プッシュプル 出力
選択バンド	MONO状態	出力レベル																															
FM	ON	High																															
VF	OFF	Low																															
LW	Don't care	Low																															
MWS	MONO状態	出力レベル																															
1	ON	High																															
	OFF	Low																															
0	Don't care	Low																															
NR状態	出力レベル																																
ON	High																																
OFF	Low																																
2	AMS	AMS信号出力	<p>AMS (AUTO Music Search) 信号出力端子です。</p> <p>AMSのオン/オフ状態により次のように端子の出力レベルを決定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>AMS状態</th> <th>出力レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ON</td> <td>High</td> </tr> <tr> <td>OFF</td> <td>Low</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお端子からは, モードにかかわらずTPSETスイッチがオンのときAMS状態に対応したレベルを出力します。</p>	AMS状態	出力レベル	ON	High	OFF	Low	CMOS プッシュプル 出力																							
AMS状態	出力レベル																																
ON	High																																
OFF	Low																																

端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式
3	EO	エラー・アウト	PLLを構成する位相比較器のチャージ・ポンプ出力端子です。発振周波数を分周したものが基準周波数より高い場合は、これらの端子からハイ・レベルが出力され、逆に低い場合は、ロウ・レベルが出力されます。一致するとフローティングとなります。	CMOS 3ステート 出力
4 8	V _{DD1} V _{DD2}	電源端子	デバイスの電源端子です。 デバイス動作時には5V ± 10%の電圧を供給します。 V _{DD} の立ち上がり時間は、500ms以下(0 → 4.5V)であることが必要です。立ち上がり時間が極端に長い場合、また完全に0Vに落ちないでなおかつ動作電圧以下から3.5Vに立ち上がった場合には、初期設定用のダイオード・スイッチの状態を正常に読み込まないときがあります(このような場合はCE端子を使用して、初期設定用のダイオード・スイッチの状態を正常に読み込ませます)。 V _{DD} を最初に投入したときにCE端子をハイ・レベルにすると、FMバンドの最低周波数が呼び出されます。	—
5	VCOL	AM局部発振入力	AM (MW, LW) バンドの局部発振出力 (VCO) を入力する端子です。 MWおよびLWを受信しているときはアクティブとなり、そのほかのときは内部でプルダウンされます。 入力できる周波数は0.58 - 30 MHz (0.3 V _{p-p}) です。交流アンプを内蔵しているため、コンデンサで直流分をカットして入力してください。	入力
6	VCOH	FM局部発振入力	FM (FM, VF) バンドの局部発振出力 (VCO) を入力する端子です。 FMおよびVFを受信しているときはアクティブとなり、その他のときは内部でプルダウンされます。 入力できる周波数は9 - 150 MHz (0.3 V _{p-p}) です。交流アンプを内蔵しているため、コンデンサで直流分をカットして入力してください。	入力
7	CE	チップ・イネーブル	デバイスの選択信号入力端子です。 デバイスに通常の動作(ラジオ、テープ、CD、時計表示等)をさせる場合は、ハイ・レベルを入力し、デバイスを使用しない場合は、ロウ・レベルを入力します。ただし、165 μs以下のハイ・レベルおよびロウ・レベルは受けつけられません。 この端子がロウ・レベルのときは、ラジオ、テープ、CDおよび表示をすべてオフし、データ保持状態となります。このとき初期設定ダイオードNOCLKを1(ダイオードでショート、時計なしモード)にすると低消費電流でのデータ保持状態とすることができます(2.6.1 初期設定ダイオード・マトリクス参照)。	入力

端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式						
9	SCK ₁	シリアル・クロック出力	LCDコントローラ/ドライバ (μPD7225) 制御用のシリアル・クロック出力端子です。 ただし初期設定ダイオードFKLCDを0 (オープン、内部LCDコントローラ/ドライバ・モード) にすると、LCDコントローラ/ドライバ (μPD7225) の制御は行いません (2.6.1 初期設定ダイオード・マトリクス参照)。	CMOS プッシュプル 出力						
10	SO ₁	シリアル・データ出力	LCDコントローラ/ドライバ (μPD7225) 制御用のシリアル・データ出力端子です。 ただし初期設定ダイオードFKLCDを0 (オープン、内部LCDコントローラ/ドライバ・モード) にするとLCDコントローラ/ドライバ (μPD7225) の制御は行いません (2.6.1 初期設定ダイオード・マトリクス参照)。	CMOS プッシュプル 出力						
11	LOUD	ラウドネス出力	ラウドネス・コントロール信号出力端子です。 ラウドネス・オン時、ハイ・レベルを出力します。	CMOS プッシュプル 出力						
12	FMIFC	FM中間周波数入力	FMバンドの中間周波数 (IF) 入力端子です。 入力できる周波数は5 - 15 MHz (0.3 V _{p-p}) です。交流アンプを内蔵しているため、コンデンサで直流分をカットして入力してください。 この端子は初期設定ダイオードENFMIF=1のとき、オートチューニング中に放送局の有無を検出するために使用します。 放送局ありと判断させるための入力周波数範囲と入力条件は次のようになります	入力						
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>入力周波数 範囲①</th> <th>入力周波数 範囲②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FM, VF</td> <td>10.7 MHz ± 50 kHz</td> <td>10.7 MHz ± 12.5 kHz</td> </tr> </tbody> </table>	項目	入力周波数 範囲①	入力周波数 範囲②	FM, VF	10.7 MHz ± 50 kHz	10.7 MHz ± 12.5 kHz	
項目	入力周波数 範囲①	入力周波数 範囲②								
FM, VF	10.7 MHz ± 50 kHz	10.7 MHz ± 12.5 kHz								
			入力周波数範囲①は、PLLがロックしたあと20 ms以内に入力しなければならない周波数です。入力周波数範囲①と②が両方満たされたとき、放送局ありと判断され、オートチューニングをストップします。							

端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式																				
13	AMIFC	AM中間周波数入力	<p>AM (MW, LW) バンドの中間周波数 (IF) 入力端子です。</p> <p>入力できる周波数は0.3 - 1.0 MHz (0.3 V_{P-P}) です。交流アンプを内蔵しているため、コンデンサで直流分をカットして入力してください。</p> <p>この端子は初期設定ダイオードENAMIF = 1のとき、オートチューニング中に放送局の有無を検出するために使用します。</p> <p>放送局ありと判断させるための入力周波数範囲と入力条件は次のようになります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目 バンド</th> <th>入力周波数 範囲① [kHz]</th> <th>入力周波数 範囲② [kHz]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MW</td> <td>450 ± 5</td> <td>450 ± 2</td> </tr> <tr> <td>LW</td> <td>450 ± 5</td> <td>450 ± 0.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>入力周波数範囲①は、PLLがロックしたあと20 ms以内に入力しなければならない周波数です。入力周波数範囲①と②が両方満たされたとき、放送局ありと判断され、オートチューニングをストップします。</p>	項目 バンド	入力周波数 範囲① [kHz]	入力周波数 範囲② [kHz]	MW	450 ± 5	450 ± 2	LW	450 ± 5	450 ± 0.5	入力											
項目 バンド	入力周波数 範囲① [kHz]	入力周波数 範囲② [kHz]																						
	MW	450 ± 5	450 ± 2																					
LW	450 ± 5	450 ± 0.5																						
14	KY-IN	キー入力	<p>モメンタリ・キー・マトリクス用キー・リターン信号入力端子です。</p>	入力																				
15	SD	SD入力	<p>SD (Station Detector) 信号入力端子です。</p> <p>この端子に次に示す電圧が加わると、SDありと判断します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">バンド</th> <th rowspan="2">LOCAL/ DXモード</th> <th colspan="2">SDありと判断する電圧</th> </tr> <tr> <th colspan="2">V_{DD} = 5 V時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">FM VF</td> <td>LOCAL</td> <td>$\frac{28.5}{64} \times V_{DD}$以上</td> <td>2.227</td> </tr> <tr> <td>DX</td> <td>$\frac{12.5}{64} \times V_{DD}$以上</td> <td>0.977</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MW LW</td> <td>LOCAL</td> <td>$\frac{15.5}{64} \times V_{DD}$以上</td> <td>1.211</td> </tr> <tr> <td>DX</td> <td>$\frac{12.5}{64} \times V_{DD}$以上</td> <td>0.977</td> </tr> </tbody> </table> <p>SD信号は、放送局ありの判断に使用します。</p>	バンド	LOCAL/ DXモード	SDありと判断する電圧		V _{DD} = 5 V時		FM VF	LOCAL	$\frac{28.5}{64} \times V_{DD}$ 以上	2.227	DX	$\frac{12.5}{64} \times V_{DD}$ 以上	0.977	MW LW	LOCAL	$\frac{15.5}{64} \times V_{DD}$ 以上	1.211	DX	$\frac{12.5}{64} \times V_{DD}$ 以上	0.977	入力
バンド	LOCAL/ DXモード	SDありと判断する電圧																						
		V _{DD} = 5 V時																						
FM VF	LOCAL	$\frac{28.5}{64} \times V_{DD}$ 以上	2.227																					
	DX	$\frac{12.5}{64} \times V_{DD}$ 以上	0.977																					
MW LW	LOCAL	$\frac{15.5}{64} \times V_{DD}$ 以上	1.211																					
	DX	$\frac{12.5}{64} \times V_{DD}$ 以上	0.977																					
16	SK	SK信号入力	<p>VF放送局のSK信号入力端子です。</p> <p>FMバンドおよびVFバンド時、放送局あり (放送局ありの判定方法は初期設定ダイオードENFMIFにより決定します) の状態でこの端子にハイ・レベルを入力すると交通情報放送局ありと判断します。</p> <p>VFバンド時はオートチューニングのストップ信号として使用します。VFバンドのオートチューニング時には、放送局ありと判断したあと、この端子を400 ms後にチェックし、ハイ・レベルを入力すると交通情報放送局ありと判断し、オートチューニングをストップします。</p>	入力																				

端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式																
17	DK	DK信号入力	VF放送局のDK信号入力端子です。 テープDKスタンバイおよびCD・DKスタンバイ・モード中に、この端子に2秒以上のハイ・レベルを入力すると交通情報受信中となり、テープDKオンおよびCD・DKオン・モードになります。	入力																
18	BEEP/MODE2	ビーブ出力 またはCD モード出力	<p>モメンタリ・キーが押されたときのビーブ音出力端子またはCDモード出力端子として動作します。</p> <p>(1) 初期設定ダイオードENMODE2=0のとき モメンタリ・キーが押されたとき周波数3 kHz、デューティ50%の方形波を約40 ms出力します。この時間は先出しミュートの時間と等しくなります。 モメンタリ・キーを押し、LCDパネルの表示または出力ポートの状態が変化する場合(有効キー) およびプリセット・メモリ・スキャンとスキャン動作中の5秒間のホールドが終了したときにビーブ音を出力します。 またビーブ音出力はDKスタンバイ時のSKアラームにも使用できます。使用しない場合は、オープンにしてください。</p> <p>(2) 初期設定ダイオードENMODE2=1のとき CDモード出力端子として動作します。</p> <table border="1" data-bbox="686 1057 1215 1641"> <thead> <tr> <th>モード</th> <th>BEEP/MODE2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CE = ロウ・レベル時</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>CE = ハイ・レベルでラジオ、テープ、CDオフ時 (パワーオフ・モード)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ラジオ・モード時</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>テープ・モード時</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>CDモード時</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>●テープDKスタンバイ・モード時 ●テープDKオン・モード時 ●テープ・ラジオ・モニタ・モード時</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>●CD・DKスタンバイ・モード時 ●CD・DKオン・モード時 ●CDラジオ・モニタ・モード時</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	モード	BEEP/MODE2	CE = ロウ・レベル時	0	CE = ハイ・レベルでラジオ、テープ、CDオフ時 (パワーオフ・モード)	0	ラジオ・モード時	0	テープ・モード時	0	CDモード時	1	●テープDKスタンバイ・モード時 ●テープDKオン・モード時 ●テープ・ラジオ・モニタ・モード時	0	●CD・DKスタンバイ・モード時 ●CD・DKオン・モード時 ●CDラジオ・モニタ・モード時	1	CMOS プッシュプル 出力
モード	BEEP/MODE2																			
CE = ロウ・レベル時	0																			
CE = ハイ・レベルでラジオ、テープ、CDオフ時 (パワーオフ・モード)	0																			
ラジオ・モード時	0																			
テープ・モード時	0																			
CDモード時	1																			
●テープDKスタンバイ・モード時 ●テープDKオン・モード時 ●テープ・ラジオ・モニタ・モード時	0																			
●CD・DKスタンバイ・モード時 ●CD・DKオン・モード時 ●CDラジオ・モニタ・モード時	1																			
19	KEYS ₄	キー・ソース 信号出力	モメンタリ・キー・マトリクス用キー・ソース出力端子です。	CMOS プッシュプル 出力																
27	KEYS ₃			N - ch オープン・ ドレイン出力																
30	KEYS ₀																			

端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式											
20	AGCC	AGCカット 出力	<p>ラジオ・モード時のAGC (Auto Gain Control) カット信号出力端子です。</p> <p>オートチューニング中に次のようにハイ・レベルを出力します。</p> <p style="text-align: center;">①: キー・オン・チャタリング待ち ②: 先出しミュート ③: 後出しミュート</p>	CMOS プッシュプル 出力											
21	LOC	ローカル信号 出力	<p>ラジオ・モード時のローカル信号出力端子です。</p> <p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, テープDKオン・モード, CD・DKオン・モード, テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時</p> <p>ローカル状態でオートチューニング時のみ, ハイ・レベルを出力します。</p> <p>チューニング状態およびLOCAL/DX状態により次のように端子の出力レベルを決定します。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>オートチューニング状態</th> <th>LOCAL/DX状態</th> <th>出力レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">動作中</td> <td>LOCAL</td> <td>High</td> </tr> <tr> <td>DX</td> <td>Low</td> </tr> <tr> <td>動作外</td> <td>Don't care</td> <td>Low</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 上記モード以外</p> <p>ロウ・レベルを出力します。</p>	オートチューニング状態	LOCAL/DX状態	出力レベル	動作中	LOCAL	High	DX	Low	動作外	Don't care	Low	CMOS プッシュプル 出力
オートチューニング状態	LOCAL/DX状態	出力レベル													
動作中	LOCAL	High													
	DX	Low													
動作外	Don't care	Low													
22	AMUTE	オーディオ・ ミュート出力	<p>テープおよびCDのミュート信号出力端子です。</p> <p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, テープDKオン・モード, CD・DKオン・モード, パワーオフ・モード時</p> <p>ロウ・レベルを出力します。</p> <p>(2) CDモード, テープ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>ハイ・レベルを出力します。</p> <p>詳しくは6. ミュート出力タイミング・チャートを参照してください。</p>	CMOS プッシュプル 出力											

端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式																
23	RDMUTE	ラジオ・ ミュート出力	ラジオのミュート信号出力端子です。 モードにより動作が次のように異なります。 (1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, テープDKオン・モード, CD・DKオン・モード時 ラジオ・オン/オフ時 バンド切り替え時 受信周波数切り替え時 ロウ・レベルを出力します。 (2) CDモード, テープ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープDKスタンバイ・モード時 初期設定ダイオードMUTESELにより出力方法を選択できます(2.6.1 初期設定ダイオード・マトリクス参照)。ただしDKスタンバイまたはラジオ・モニタ機能を使用するときはMUTESELを0にしてロウ・レベル出力を選択してください。 詳しくは6. ミュート出力タイミング・チャートを参照してください。	CMOS プッシュプル 出力																
24	Xout	水晶振動子	水晶振動子を接続するための端子です。	—																
25	Xin		4.5 MHzの水晶振動子を接続します。	入力																
26 58	GND	グラウンド	グラウンド端子です。 26番ピンと58番ピンは必ず同電位に接続してください。	—																
31	MODE	モード信号 出力	モード切り替え信号出力端子です。 各モードのときに次のように出力されます。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>モード</th> <th>MODE</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CE = ロウ・レベル時</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>CE = ハイ・レベルでラジオ, テープ, CDオフ時 (パワーオフ・モード)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ラジオ・モード時</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>テープ・モード時</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>CDモード時</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>●テープDKスタンバイ・モード時 ●CD・DKスタンバイ・モード時 ●DKオン・モード時</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>●テープ・ラジオ・モニタ・モード時 ●CDラジオ・モニタ・モード時</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	モード	MODE	CE = ロウ・レベル時	0	CE = ハイ・レベルでラジオ, テープ, CDオフ時 (パワーオフ・モード)	0	ラジオ・モード時	1	テープ・モード時	0	CDモード時	0	●テープDKスタンバイ・モード時 ●CD・DKスタンバイ・モード時 ●DKオン・モード時	1	●テープ・ラジオ・モニタ・モード時 ●CDラジオ・モニタ・モード時	1	CMOS プッシュプル 出力
モード	MODE																			
CE = ロウ・レベル時	0																			
CE = ハイ・レベルでラジオ, テープ, CDオフ時 (パワーオフ・モード)	0																			
ラジオ・モード時	1																			
テープ・モード時	0																			
CDモード時	0																			
●テープDKスタンバイ・モード時 ●CD・DKスタンバイ・モード時 ●DKオン・モード時	1																			
●テープ・ラジオ・モニタ・モード時 ●CDラジオ・モニタ・モード時	1																			
32	POWER	パワー出力	<input type="checkbox"/> POWER キーを押すごとに出力を反転します。 この端子はセットの電源のオン/オフなどに使用してください。	CMOS プッシュプル 出力																

端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式																					
33 34	BAND ₁ BAND ₂	バンド切り替え信号出力	<p>ラジオ・モード時のバンド切り替え信号出力端子です。 モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時</p> <p>バンド切り替えキーにより受信バンドを切り替えると各バンドにおいて次のように出力します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>端子 バンド</th> <th>BAND₁</th> <th>BAND₂</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MW</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>LW</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>FM</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>VF</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>(0:ロウ・レベル, 1:ハイ・レベル)</p> <p>(2) テープDKオン・モード, CD・DKオン・モード, テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>端子 バンド</th> <th>BAND₁</th> <th>BAND₂</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>VF</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1:ハイ・レベル)</p> <p>(3) テープ・モード, CDモード, パワーオフ・モード時 ロウ・レベルを出力します。</p>	端子 バンド	BAND ₁	BAND ₂	MW	0	0	LW	0	1	FM	1	0	VF	1	1	端子 バンド	BAND ₁	BAND ₂	VF	1	1	CMOS プッシュプル 出力
端子 バンド	BAND ₁	BAND ₂																							
MW	0	0																							
LW	0	1																							
FM	1	0																							
VF	1	1																							
端子 バンド	BAND ₁	BAND ₂																							
VF	1	1																							
35 37	COM ₂ COM ₀	LCDコモン 信号出力	LCDパネルへのコモン信号出力端子です。	CMOS 3値出力																					
38 40 42 48	LCD ₁₉ LCD ₁₇ LCD ₁₅ LCD ₉	LCDセグメント 信号出力	LCDパネルへのセグメント信号出力端子です。	CMOS プッシュプル 出力																					
39	LCD ₁₈ /POUT	LCDセグメント 信号出力/ 着脱信号出力	<p>LCDパネルへのセグメント信号出力端子またはデタッチャブル状態信号出力端子として動作します。</p> <p>初期設定ダイオードKLCDの状態により次のように動作が異なります。</p> <p>(1) KLCD=0のとき LCDパネルへのセグメント信号出力端子です。</p> <p>(2) KLCD=1のとき DTHスイッチがオフのとき着脱信号出力端子として1Hz, 1/2デューティの信号を出力します。</p>	CMOS プッシュプル 出力																					

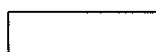
端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式						
41	LCD ₁₆ / LCD CS	LCDセグメント信号出力/ LCDチップ・セレクト信号出力	LCDパネルへのセグメント信号出力端子またはチップ・セレクト信号出力端子として動作します。 初期設定ダイオードKLCDの状態により次のように動作が異なります。 (1) KLCD = 0のとき LCDパネルへのセグメント信号出力端子です。 (2) KLCD = 1のとき 外部LCDコントローラ/ドライバ (μPD7225) に対するチップ・セレクト信号出力端子として動作します。 ロウ・レベルを出力時、外部LCDコントローラ/ドライバがチップ・セレクト状態になります。	CMOS プッシュプル 出力						
49 57	LCD ₀ /KS ₀ LCD ₀ /KS ₀	LCDセグメント信号出力/ キー・ソース信号出力	LCDパネルへのセグメント信号出力端子およびキー・マトリクスのキー・ソース信号出力端子です。 キー・マトリクスのキー・ソース信号とLCDセグメント信号を共用しているため、キー・ソース信号として使用するために逆流防止用のダイオードが必要となります。	CMOS プッシュプル 出力						
59 62	K ₃ K ₀	キー・リターン信号入力	キー・マトリクスのキー・リターン信号入力端子です。 キー・ソース信号出力は、LCDセグメント信号と共用しているため、このキー・リターン信号入力端子にはプルダウン抵抗を接続しないでください。	入力						
63	METAL	メタル信号出力	メタル信号出力端子です。 METALのオン/オフ状態により次のように端子の出力レベルを決定します。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>METAL状態</th> <th>出力レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ON</td> <td>High</td> </tr> <tr> <td>OFF</td> <td>Low</td> </tr> </tbody> </table> なお端子からは、モードにかかわらずTPSETスイッチがオンのときMETAL状態に対応したレベルを出力します。	METAL状態	出力レベル	ON	High	OFF	Low	CMOS プッシュプル 出力
METAL状態	出力レベル									
ON	High									
OFF	Low									
64	REM	リモコン入力	赤外線リモコン信号入力端子です。リモコン・プリアンプ (μPC2800HAなど) の出力を接続します。リモコン送信機ICには、μPD6121Gを使用します。	入力						

注意 外部LCDコントローラ/ドライバ μPD7225を使用する場合、μPD7225のC/D₀端子をμPD7225のV_{DD}端子と接続してください。

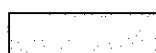
2. キー・マトリクス構成

2.1 初期設定ダイオード，オルタネートまたはトランジスタ・スイッチ・マトリクスの配置

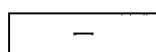
入力端子 (端子番号) 出力端子 (端子番号)	K ₃ (59)	K ₂ (60)	K ₁ (61)	K ₀ (62)
LCD ₆ /KS ₆ (49)	RDSET	ST	DTH	ENMODE2
LCD ₇ /KS ₇ (50)	FF	RL	CDSET	TPSET
LCD ₆ /KS ₆ (51)	—	M2S	VF1	MWS
LCD ₅ /KS ₅ (52)	AUTO500	MUTESEL	AUTOLOC	KLCD
LCD ₄ /KS ₄ (53)	CKHLT	KAMS	KNR	KMTL
LCD ₃ /KS ₃ (54)	NOCLK	CLK DISP	FLASH	DISMEMO
LCD ₂ /KS ₂ (55)	ENFMIF	ENAMIF	PRIO2	PRIO1
LCD ₁ /KS ₁ (56)	ENFM	DISFM3	ENMW2	DISLW
LCD ₀ /KS ₀ (57)	RDON	AREA3	AREA2	AREA1



初期設定ダイオード・マトリクス



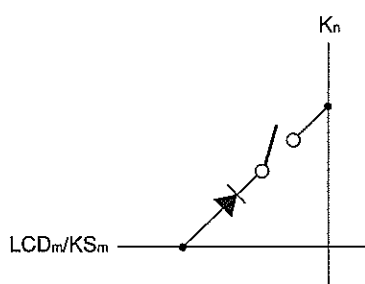
オルタネート・スイッチまたはトランジスタ・スイッチ



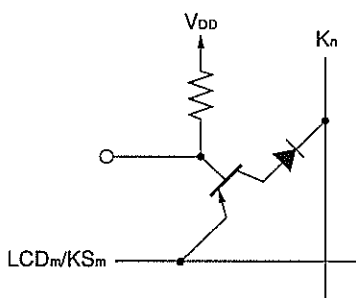
オープン

2.2 スwitchの接続

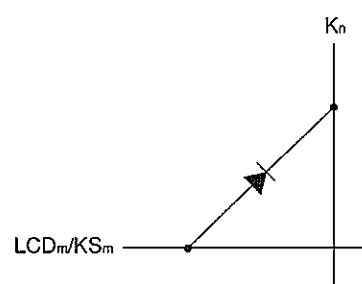
オルタネート・スイッチ



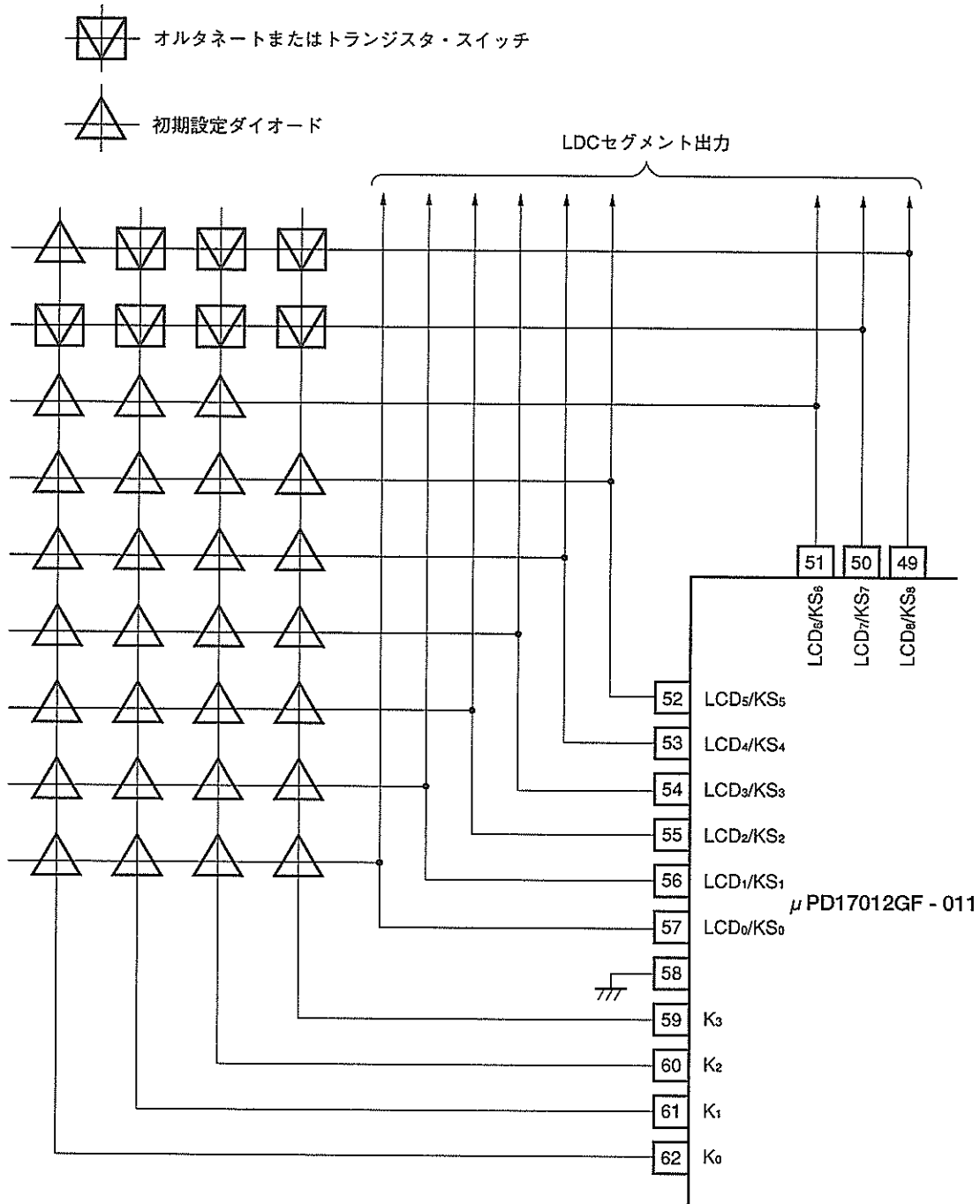
トランジスタ・スイッチ



初期設定ダイオード



2.3 初期設定ダイオード，オルタネートまたはトランジスタ・スイッチの接続

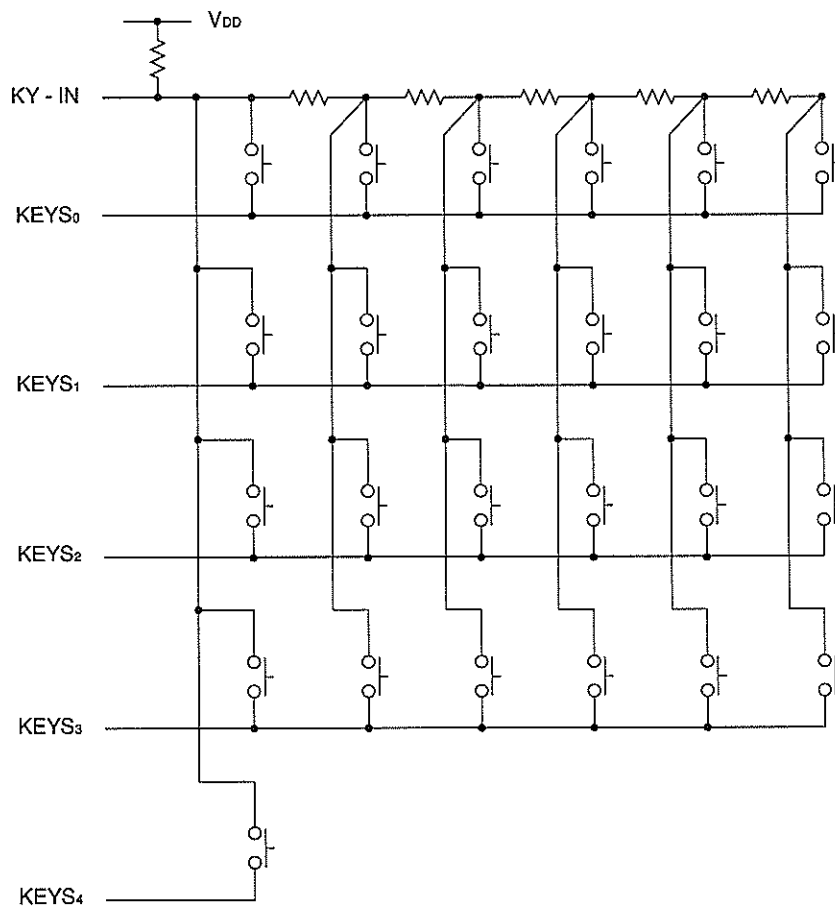


2.4 モメンタリ・キー・マトリクス配置

入力電圧 選択端子 (端子番号)	0 ~ 0.07 V _{DD}	~ 0.16 V _{DD}	~ 0.32 V _{DD}	~ 0.52 V _{DD}	~ 0.73 V _{DD}	~ 0.87 V _{DD}
KEYS ₀ (30)	M1 (TP1)	M2 (TP2)	M3 (TP3)	M4	M5	M6
KEYS ₁ (29)	ME	DISP	P. SCAN	LOUD	LOC	MTL
KEYS ₂ (28)	MAN UP	MAN DWN	SEEK UP	SCAN UP	BAND	VF
KEYS ₃ (27)	SEEK DWN	SCAN DWN	MONO	AMS	NR	RDMONI
KEYS ₄ (19)	POWER	—	—	—	—	—

— : オープン

2.5 モメンタリ・キー・マトリクス接続



2.6 キー・マトリクスの説明

2.6.1 初期設定ダイオード・マトリクス

初期設定ダイオード・マトリクスには次の17種類があります。これらはすべて最初にV_{DD}端子に電源を投入したとき（パワーオン・リセット）と、CE端子がロウ・レベルからハイ・レベルに変化したとき（CEリセット）のみ読み込まれ、そのほかの期間では無視されます。

- (1) 受信地域を設定するためのスイッチ
AREA1, AREA2, AREA3
- (2) 受信バンドを設定するためのスイッチ
DISFM3, ENMW2, DISLW, ENFM
- (3) オート・メモリの使用を設定するためのスイッチ
DISAMEMO
- (4) 放送局検出に周波数カウンタの使用の有無を設定するためのスイッチ
ENFMIF, ENAMIF
- (5) プリセット・メモリ動作を設定するためのスイッチ
M2S
- (6) チューニング動作を設定するためのスイッチ
AUTO500
- (7) 表示の優先度を設定するためのスイッチ
PRIO1, PRIO2
- (8) ラジオのオン/オフを設定するためのスイッチ
RDON
- (9) 時計機能を設定するためのスイッチ
NOCLK, CLKDISP, FLASH
- (10) テープ機能を設定するためのスイッチ
KAMS, KNR, KMTL
- (11) ミュート出力を設定するためのスイッチ
MUTESEL
- (12) ローカル動作を設定するためのスイッチ
AUTOLOC

- (13) 使用するLCDドライバを設定するためのスイッチ

KLCD

- (14) VFバンドのオートリチューン（受信状態の悪化を検出して自動的にシーク・アップ動作を行う）機能の有無を設定するためのスイッチ

VF1

- (15) MWバンドのステレオ受信機能の有無を設定するスイッチ

MWS

- (16) BEEP/MODE2端子の機能を設定するためのスイッチ

ENMODE2

- (17) 時計なしのときのスタンバイ・モードを設定するためのスイッチ

CKHLT

これらのスイッチの設定はマトリクス上をダイオードでショートするか、またはオープンにして設定してください。次に、初期設定ダイオード・マトリクスの機能について説明します。

記号	機能説明																																																																															
<p>AREA1 AREA2 AREA3</p>	<p>受信地域を設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。 各地域における受信周波数などは、機能の概要を参照してください。</p> <table border="1" data-bbox="385 338 1033 741"> <thead> <tr> <th>AREA3</th> <th>AREA2</th> <th>AREA1</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>西欧</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>豪州, 中近東</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>日本</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>米国1</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>米国2</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>東欧</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>米国3</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>中国</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1:ダイオードでショート 0:オープン)</p>	AREA3	AREA2	AREA1	地域	0	0	0	西欧	0	0	1	豪州, 中近東	0	1	0	日本	0	1	1	米国1	1	0	0	米国2	1	0	1	東欧	1	1	0	米国3	1	1	1	中国																																											
AREA3	AREA2	AREA1	地域																																																																													
0	0	0	西欧																																																																													
0	0	1	豪州, 中近東																																																																													
0	1	0	日本																																																																													
0	1	1	米国1																																																																													
1	0	0	米国2																																																																													
1	0	1	東欧																																																																													
1	1	0	米国3																																																																													
1	1	1	中国																																																																													
<p>DISFM3 ENMW2 DISLW ENFM</p>	<p>受信バンドを設定するためのスイッチです。 各スイッチにより次のように設定されます。</p> <p>○DISFM3……1にすることによりFM3バンドを禁止します。 ○ENMW2……1にすることによりMW2バンドを有効にします。 ○DISLW ……西欧, 東欧において1にすることによりLWバンドを禁止します。 DISLWスイッチは西欧, 東欧以外の地域では無効となります。 ○ENFM ……1にすることにより受信バンドをFMバンドのみにします。</p> <p>これらのスイッチにより各地域における受信バンドは次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="385 1144 1365 1816"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>ENFM</th> <th>DISFM3</th> <th>ENMW2</th> <th>DISLW</th> <th>受信バンド</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">西欧 東欧</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2, FM3</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>FM1, FM2, FM3, MW1, LW</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>FM1, FM2, FM3, MW1</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2, FM3, MW1, MW2</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>FM1, FM2, MW1, LW</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>FM1, FM2, MW1</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">その他の地域</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2, MW1, MW2</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2, FM3</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2, FM3, MW1,</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2, FM3, MW1, MW2</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2, MW1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2, MW1, MW2</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1:ダイオードでショート 0:オープン —:Don't care)</p>	地域	ENFM	DISFM3	ENMW2	DISLW	受信バンド	西欧 東欧	1	0	—	—	FM1, FM2, FM3	1	1	—	—	FM1, FM2	0	0	0	0	FM1, FM2, FM3, MW1, LW	0	0	0	1	FM1, FM2, FM3, MW1	0	0	1	—	FM1, FM2, FM3, MW1, MW2	0	1	0	0	FM1, FM2, MW1, LW	0	1	0	1	FM1, FM2, MW1	その他の地域	0	1	0	—	FM1, FM2, MW1, MW2	1	0	—	—	FM1, FM2, FM3	1	1	—	—	FM1, FM2	0	0	0	—	FM1, FM2, FM3, MW1,	0	0	1	—	FM1, FM2, FM3, MW1, MW2	0	1	0	—	FM1, FM2, MW1		0	1	1	—	FM1, FM2, MW1, MW2
地域	ENFM	DISFM3	ENMW2	DISLW	受信バンド																																																																											
西欧 東欧	1	0	—	—	FM1, FM2, FM3																																																																											
	1	1	—	—	FM1, FM2																																																																											
	0	0	0	0	FM1, FM2, FM3, MW1, LW																																																																											
	0	0	0	1	FM1, FM2, FM3, MW1																																																																											
	0	0	1	—	FM1, FM2, FM3, MW1, MW2																																																																											
	0	1	0	0	FM1, FM2, MW1, LW																																																																											
	0	1	0	1	FM1, FM2, MW1																																																																											
その他の地域	0	1	0	—	FM1, FM2, MW1, MW2																																																																											
	1	0	—	—	FM1, FM2, FM3																																																																											
	1	1	—	—	FM1, FM2																																																																											
	0	0	0	—	FM1, FM2, FM3, MW1,																																																																											
	0	0	1	—	FM1, FM2, FM3, MW1, MW2																																																																											
	0	1	0	—	FM1, FM2, MW1																																																																											
	0	1	1	—	FM1, FM2, MW1, MW2																																																																											

記号	機能説明						
M2S	<p>プリセット・メモリの書き込み方法を設定するスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="385 293 1370 472"> <thead> <tr> <th data-bbox="385 293 539 338">M2S</th> <th data-bbox="539 293 1370 338">書き込み方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="385 338 539 427">0</td> <td data-bbox="539 338 1370 427"> ME キーによる 5 秒間書き込み可能状態中に M1(TP1) ~ M6 キーを押すことにより書き込みます。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="385 427 539 472">1</td> <td data-bbox="539 427 1370 472"> M1(TP1) ~ M6 キーを 2 秒以上押し続けることにより書き込みます。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p> <p>詳しくは ME , M1(TP1) ~ M6 の項を参照してください。</p>	M2S	書き込み方法	0	ME キーによる 5 秒間書き込み可能状態中に M1(TP1) ~ M6 キーを押すことにより書き込みます。	1	M1(TP1) ~ M6 キーを 2 秒以上押し続けることにより書き込みます。
M2S	書き込み方法						
0	ME キーによる 5 秒間書き込み可能状態中に M1(TP1) ~ M6 キーを押すことにより書き込みます。						
1	M1(TP1) ~ M6 キーを 2 秒以上押し続けることにより書き込みます。						
AUTO500	<p>MAN UP および MAN DWN キーの機能を設定するスイッチです。このスイッチにより、MAN UP , MAN DWN キーを、オートチューニング (シーク動作) キーとして兼用することができます。次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="385 696 1370 1055"> <thead> <tr> <th data-bbox="385 696 539 741">AUTO500</th> <th data-bbox="539 696 1370 741">MAN UP , MAN DWN キーの機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="385 741 539 875">0</td> <td data-bbox="539 741 1370 875"> マニュアル・チューニングのみ行います。 1 回押すごとに 1 チャンネルだけアップまたはダウンし、0.5 秒以上押し続けることによりマニュアル早送りを行います。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="385 875 539 1055">1</td> <td data-bbox="539 875 1370 1055"> マニュアル・チューニングおよびオートチューニングを行います。 1 回押すごとに 1 チャンネルだけアップまたはダウンし、0.5 秒以上押し続けると、次のチャンネルからオートチューニング (シーク動作) を行います。 SEEK UP キーおよび SEEK DWN キーは無効となります。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p>	AUTO500	MAN UP , MAN DWN キーの機能	0	マニュアル・チューニングのみ行います。 1 回押すごとに 1 チャンネルだけアップまたはダウンし、0.5 秒以上押し続けることによりマニュアル早送りを行います。	1	マニュアル・チューニングおよびオートチューニングを行います。 1 回押すごとに 1 チャンネルだけアップまたはダウンし、0.5 秒以上押し続けると、次のチャンネルからオートチューニング (シーク動作) を行います。 SEEK UP キーおよび SEEK DWN キーは無効となります。
AUTO500	MAN UP , MAN DWN キーの機能						
0	マニュアル・チューニングのみ行います。 1 回押すごとに 1 チャンネルだけアップまたはダウンし、0.5 秒以上押し続けることによりマニュアル早送りを行います。						
1	マニュアル・チューニングおよびオートチューニングを行います。 1 回押すごとに 1 チャンネルだけアップまたはダウンし、0.5 秒以上押し続けると、次のチャンネルからオートチューニング (シーク動作) を行います。 SEEK UP キーおよび SEEK DWN キーは無効となります。						
AUTOLOC	<p>ローカル機能を設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="385 1189 1370 2040"> <thead> <tr> <th data-bbox="385 1189 539 1234">AUTOLOC</th> <th data-bbox="539 1189 1370 1234">ローカル機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="385 1234 539 1413">0</td> <td data-bbox="539 1234 1370 1413"> キー入力による LOCAL/DX の切り替えを行います (オートローカル機能なし)。 LOC キーを押すごとにローカル状態と DX 状態を反転します。 ローカル出力は、オートチューニング (シーク、スキャン、オートストア) 中のローカル時のみハイ・レベルを出力します。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="385 1413 539 2040">1</td> <td data-bbox="539 1413 1370 2040"> オートローカルを行います (オートローカル機能あり)。 LOC キーは無効になります。 SEEK UP , SEEK DWN , SCAN UP , SCAN DWN キー、または P.SCAN キーを 2 秒以上押し続けることにより、オートチューニングになると "LOC" 表示を点灯し、ローカル出力をハイ・レベルにしてオートチューニングを行います。オートチューニングが 1 周すると、DX モード ("LOC" 表示オフ、ローカル出力=ロウ・レベル) でサーチします。 オートチューニング中以外は "LOC" 表示を消灯し、ローカル出力はロウ・レベルになります。オートチューニング中に同一キー (シーク・アップ中に SEEK UP キーなど) を押すと、ローカル中であればオートチューニングを始めたときの周波数から DX でサーチし、DX 中であれば、オートチューニングをストップし、オートチューニングを始めたときの周波数に戻ります。 AUTO500 スイッチを 1 (MAN UP , MAN DWN キーを 0.5 秒押すことによるオートチューニング) に設定したときの動作も上記と同様になります。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p>	AUTOLOC	ローカル機能	0	キー入力による LOCAL/DX の切り替えを行います (オートローカル機能なし)。 LOC キーを押すごとにローカル状態と DX 状態を反転します。 ローカル出力は、オートチューニング (シーク、スキャン、オートストア) 中のローカル時のみハイ・レベルを出力します。	1	オートローカルを行います (オートローカル機能あり)。 LOC キーは無効になります。 SEEK UP , SEEK DWN , SCAN UP , SCAN DWN キー、または P.SCAN キーを 2 秒以上押し続けることにより、オートチューニングになると "LOC" 表示を点灯し、ローカル出力をハイ・レベルにしてオートチューニングを行います。オートチューニングが 1 周すると、DX モード ("LOC" 表示オフ、ローカル出力=ロウ・レベル) でサーチします。 オートチューニング中以外は "LOC" 表示を消灯し、ローカル出力はロウ・レベルになります。オートチューニング中に同一キー (シーク・アップ中に SEEK UP キーなど) を押すと、ローカル中であればオートチューニングを始めたときの周波数から DX でサーチし、DX 中であれば、オートチューニングをストップし、オートチューニングを始めたときの周波数に戻ります。 AUTO500 スイッチを 1 (MAN UP , MAN DWN キーを 0.5 秒押すことによるオートチューニング) に設定したときの動作も上記と同様になります。
AUTOLOC	ローカル機能						
0	キー入力による LOCAL/DX の切り替えを行います (オートローカル機能なし)。 LOC キーを押すごとにローカル状態と DX 状態を反転します。 ローカル出力は、オートチューニング (シーク、スキャン、オートストア) 中のローカル時のみハイ・レベルを出力します。						
1	オートローカルを行います (オートローカル機能あり)。 LOC キーは無効になります。 SEEK UP , SEEK DWN , SCAN UP , SCAN DWN キー、または P.SCAN キーを 2 秒以上押し続けることにより、オートチューニングになると "LOC" 表示を点灯し、ローカル出力をハイ・レベルにしてオートチューニングを行います。オートチューニングが 1 周すると、DX モード ("LOC" 表示オフ、ローカル出力=ロウ・レベル) でサーチします。 オートチューニング中以外は "LOC" 表示を消灯し、ローカル出力はロウ・レベルになります。オートチューニング中に同一キー (シーク・アップ中に SEEK UP キーなど) を押すと、ローカル中であればオートチューニングを始めたときの周波数から DX でサーチし、DX 中であれば、オートチューニングをストップし、オートチューニングを始めたときの周波数に戻ります。 AUTO500 スイッチを 1 (MAN UP , MAN DWN キーを 0.5 秒押すことによるオートチューニング) に設定したときの動作も上記と同様になります。						

記号	説明		
PRIO1	優先表示を設定するためのスイッチです。		
PRIO2	優先表示とは、表示が切り替わったあと何もしなければ、5秒後にその表示に復帰する表示の事です。 なお初期設定ダイオードNOCLK=0（時計あり）のときのみ、PRIO1およびPRIO2スイッチの状態により優先表示を決定します。NOCLK=1（時計なし）のときはPRIO1およびPRIO2スイッチの状態を無視します。		
PRIO1	PRIO2	優先表示	<p style="text-align: center;">説明</p> <p>表示の切り替えは <input type="checkbox"/> DISP キーおよび選局キー（時計表示中）を操作したときに行います。</p> <p>○ラジオ・モード時 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すごとに周波数表示と時計表示を切り替えます。 時計表示中に選局キーを押すと周波数表示となります。</p> <p>○テープ・モード時 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すごとに“TAPE”表示と時計表示を切り替えます。</p> <p>○CDモード時 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すごとに“[]”表示と時計表示を切り替えます。</p> <p>○テープDKスタンバイ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード時 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すごとに、“TAPE”表示、周波数表示および時計表示を切り替えます。 “TAPE”および時計表示中に選局キーを押すと、周波数表示になります。 最初にテープDKスタンバイ・モードおよびテープ・ラジオ・モニタ・モードになったときは周波数表示となります。</p> <p>○CD・DKスタンバイ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すごとに、“[]”表示、周波数表示および時計表示を切り替えます。 “[]”および時計表示中に選局キーを押すと、周波数表示になります。 最初にCD・DKスタンバイ・モードおよびCDラジオ・モニタ・モードになったときは周波数表示になります。</p> <p>○テープDKオン・モード、CD・DKオン・モード時 周波数表示となります。 <input type="checkbox"/> DISP キーは無効となります。</p>
0	0	なし	

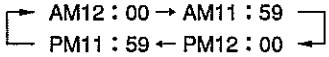
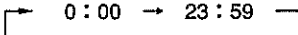
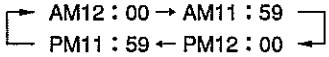
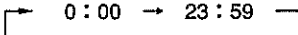
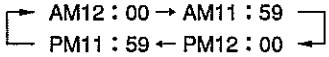
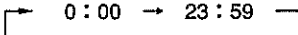
(0 : オープン)

記号	説明			
PRIO1				
PRIO2	PRIO1	PRIO2	優先表示	説明
	1	0	周波数 [F] TAPE	<p>周波数または“[F]”または“TAPE”表示から DISP キーにより時計表示にすると、何の操作もしなければ5秒後に元の表示に戻ります。</p> <p>○ラジオ・モード時 通常周波数表示をしており、DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。 5秒間の時計表示中に再度 DISP キーを押すか、選局キーを押すと、周波数表示に戻ります。</p> <p>○テープ・モード時 通常“TAPE”表示をしており、DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。 5秒間の時計表示中に再度 DISP キーを押すと、“TAPE”表示に戻ります。</p> <p>○CDモード時 通常“[F]”表示をしており、DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。 5秒間の時計表示中に再度 DISP キーを押すと、“[F]”表示に戻ります。</p> <p>○テープDKスタンバイ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード時 通常“TAPE”表示をしており、DISP キーを押すと、5秒間周波数表示となります。 5秒間の周波数表示中に再度 DISP キーを押すと、時計表示となります。 5秒間の時計表示中に再度 DISP キーを押すと、“TAPE”表示に戻ります。 “TAPE”および時計表示中に選局キーを押すと、5秒間周波数表示になります。</p> <p>○CD・DKスタンバイ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 通常“[F]”表示をしており、DISP キーを押すと、5秒間周波数表示となります。 5秒間の周波数表示中に再度 DISP キーを押すと、時計表示となります。 5秒間の時計表示中に再度 DISP キーを押すと、“[F]”表示に戻ります。 “[F]”および時計表示中に選局キーを押すと、5秒間周波数表示になります。</p> <p>○テープDKオン・モード、CD・DKオン・モード時 周波数表示になります。 DISP キーは無効となります。</p>

(1:ダイオードでショート 0:オープン)

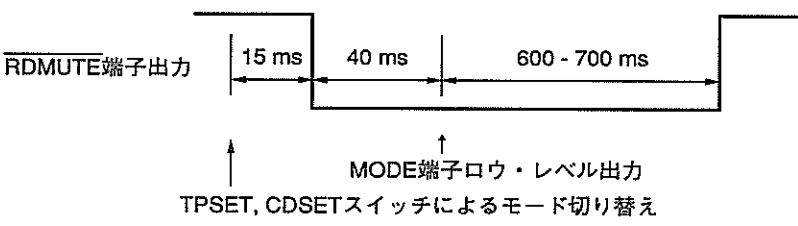
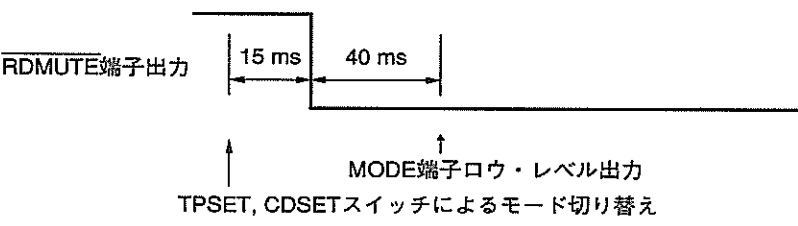
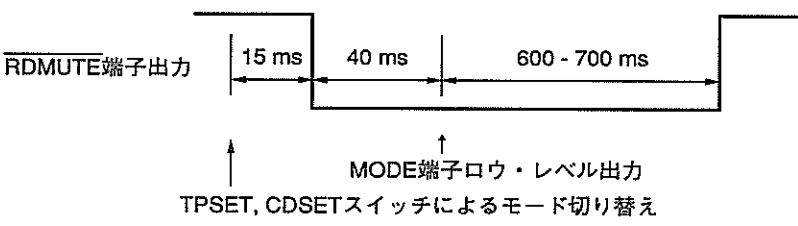
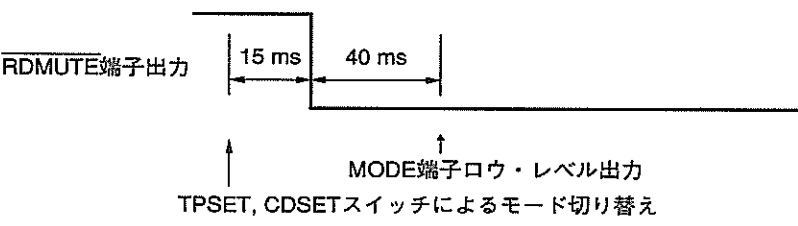
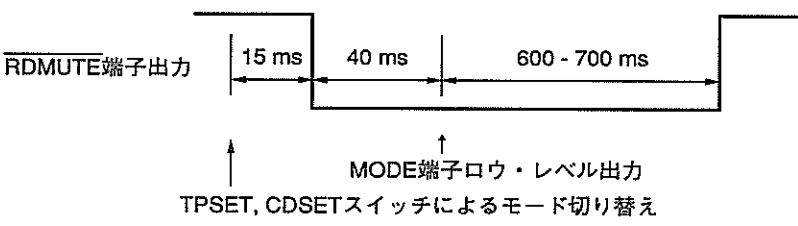
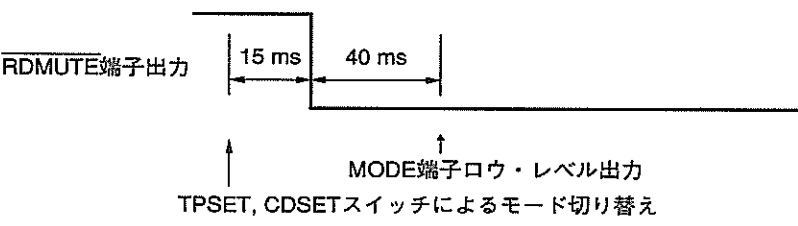
記号	説明			
PRIO1				
PRIO2				
	PRIO1	PRIO2	優先表示	<p data-bbox="733 304 978 331">時計表示優先となります。</p> <p data-bbox="749 349 947 376">○ラジオ・モード時</p> <p data-bbox="771 394 1370 465">通常時計表示をしており、<input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、5秒間周波数表示となります。</p> <p data-bbox="771 483 1370 555">5秒間の周波数表示中に再度 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、時計表示に戻ります。</p> <p data-bbox="749 573 947 600">○テープ・モード時</p> <p data-bbox="771 618 1370 689">通常時計表示をしており、<input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、5秒間“TAPE”表示となります。</p> <p data-bbox="771 707 1354 779">5秒間の“TAPE”表示中に再度 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、時計表示に戻ります。</p> <p data-bbox="749 797 890 824">○CDモード時</p> <p data-bbox="771 842 1370 913">通常時計表示をしており、<input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、5秒間“<input type="checkbox"/> ”表示となります。</p> <p data-bbox="771 931 1370 1003">5秒間の“<input type="checkbox"/> ”表示中に再度 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、時計表示に戻ります。</p> <p data-bbox="749 1021 1370 1093">○テープDKスタンバイ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード時</p> <p data-bbox="771 1111 1370 1317">通常時計表示をしており、<input type="checkbox"/> DISP キーを押すことにより5秒間“TAPE”表示となります。5秒間の“TAPE”表示中に再度 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、周波数表示になります。</p> <p data-bbox="771 1245 1370 1317">5秒間の周波数表示中に再度 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、時計表示に戻ります。</p> <p data-bbox="771 1335 1370 1406">“TAPE”および時計表示中に選局キーを押すと、5秒間周波数表示になります。</p> <p data-bbox="749 1424 1176 1451">○CD・DKスタンバイ・モード、CDモード時</p> <p data-bbox="771 1469 1370 1541">通常時計表示をしており、<input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、5秒間“<input type="checkbox"/> ”表示となります。</p> <p data-bbox="771 1559 1370 1630">5秒間の“<input type="checkbox"/> ”表示中に再度 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、周波数表示になります。</p> <p data-bbox="771 1648 1370 1720">5秒間の周波数表示中に再度 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、時計表示に戻ります。</p> <p data-bbox="771 1738 1370 1809">“<input type="checkbox"/> ”および時計表示中に選局キーを押すと、5秒間周波数表示になります。</p> <p data-bbox="749 1827 1238 1854">○テープDKオン・モード、CD・DKオン・モード時</p> <p data-bbox="771 1872 997 1899">周波数表示になります。</p> <p data-bbox="771 1917 1110 1944"><input type="checkbox"/> DISP キーは無効となります。</p> <p data-bbox="432 1962 1125 1989">1 1 - このモードに設定しないでください。</p>
	1	1	時計	

(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)

記号	説明										
PRIO1 PRIO2	<p>時計なし (NOCLK=1) のときは、PRIO1, PRIO2スイッチに関係なく次の表示になります。また DISP キーは無効になります。</p> <table border="1" data-bbox="381 295 1059 741"> <thead> <tr> <th>モード</th> <th>表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ラジオ・モード</td> <td>周波数</td> </tr> <tr> <td>テープ・モード</td> <td>TAPE</td> </tr> <tr> <td>CDモード</td> <td>CD</td> </tr> <tr> <td> ●テープDKスタンバイ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード ●テープDKオン・モード ●CD・DKオン・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード </td> <td>周波数</td> </tr> </tbody> </table>	モード	表示	ラジオ・モード	周波数	テープ・モード	TAPE	CDモード	CD	●テープDKスタンバイ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード ●テープDKオン・モード ●CD・DKオン・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード	周波数
モード	表示										
ラジオ・モード	周波数										
テープ・モード	TAPE										
CDモード	CD										
●テープDKスタンバイ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード ●テープDKオン・モード ●CD・DKオン・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード	周波数										
RDON	<p>ラジオのオン/オフの方法を設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="381 880 1158 1055"> <thead> <tr> <th>RDON</th> <th>ラジオ・オン/オフの方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>RDSETスイッチをオンすることによりラジオがオンします。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>CE端子をハイ・レベルにすることによりラジオがオンします。 RDSETスイッチは無効となります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p>	RDON	ラジオ・オン/オフの方法	0	RDSETスイッチをオンすることによりラジオがオンします。	1	CE端子をハイ・レベルにすることによりラジオがオンします。 RDSETスイッチは無効となります。				
RDON	ラジオ・オン/オフの方法										
0	RDSETスイッチをオンすることによりラジオがオンします。										
1	CE端子をハイ・レベルにすることによりラジオがオンします。 RDSETスイッチは無効となります。										
NOCLK	<p>時計の有無を設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="381 1193 796 1323"> <thead> <tr> <th>NOCLK</th> <th>時計の有無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>あり</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p> <p>時計なしモードではCE端子をロウ・レベルにすることにより低消費電流 (10 μA MAX.) でのバックアップが可能となります。</p>	NOCLK	時計の有無	0	あり	1	なし				
NOCLK	時計の有無										
0	あり										
1	なし										
CLKDISP	<p>時計の時間制を設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="381 1552 948 1865"> <thead> <tr> <th>CLKDISP</th> <th>時間制</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td> 12時間制  </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td> 24時間制  </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p>	CLKDISP	時間制	0	12時間制 	1	24時間制 				
CLKDISP	時間制										
0	12時間制 										
1	24時間制 										

記号	説明						
FLASH	<p>時計のコロン（:）表示を設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="377 293 984 517"> <thead> <tr> <th>FLASH</th> <th>コロン（:）表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>常灯</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>点滅 ●周波数；1 Hz ●デューティ；6（点灯）：4（消灯）</td> </tr> </tbody> </table> <p>（1：ダイオードでショート 0：オープン）</p>	FLASH	コロン（:）表示	0	常灯	1	点滅 ●周波数；1 Hz ●デューティ；6（点灯）：4（消灯）
FLASH	コロン（:）表示						
0	常灯						
1	点滅 ●周波数；1 Hz ●デューティ；6（点灯）：4（消灯）						
CKHLT	<p>初期設定ダイオードNOCLK=1でCE=ロウ・レベルとなったときに、STOPモードかHALTモードのどちらのスタンバイ・モードを使用するかを設定するためのスイッチです。</p> <table border="1" data-bbox="377 651 832 786"> <thead> <tr> <th>CKHLT</th> <th>CE=ロウ・レベル時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>STOPモード</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>HALTモード</td> </tr> </tbody> </table> <p>（1：ダイオードでショート 0：オープン）</p>	CKHLT	CE=ロウ・レベル時	0	STOPモード	1	HALTモード
CKHLT	CE=ロウ・レベル時						
0	STOPモード						
1	HALTモード						
ENMODE2	<p>BEEP/MODE2端子を、BEEP端子とCDモードの切り替え端子のどちらとして使用するかを設定するためのスイッチです。</p> <table border="1" data-bbox="377 920 832 1055"> <thead> <tr> <th>ENMODE2</th> <th>BEEP/MODE2端子の機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>BEEP端子</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>CDモードの切り替え端子</td> </tr> </tbody> </table> <p>（1：ダイオードでショート 0：オープン）</p>	ENMODE2	BEEP/MODE2端子の機能	0	BEEP端子	1	CDモードの切り替え端子
ENMODE2	BEEP/MODE2端子の機能						
0	BEEP端子						
1	CDモードの切り替え端子						

記号	説明				
KAMS KNR KMTL	テープ機能 (AMS, NR, MTL) をラジオ機能キーと共用させるためのキーです。 次のように共用できるキーを選択できます。				
			共用キー		
KAMS	KNR	KMTL	M1 (TP1)	M2 (TP2)	M3 (TP3)
1	1	1	AMS	NR	MTL
1	1	0	AMS	NR	—
1	0	1	AMS	MTL	—
1	0	0	AMS	—	—
0	1	1	NR	MTL	—
0	1	0	NR	—	—
0	0	1	MTL	—	—
0	0	0	—	—	—
(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)					
これらのテープ兼用機能を使用すると、テープDKスタンバイ・モードでの M1 (TP1) ~ M6 キーの動作は次のようになります。					
KAMS	KNR	KMTL	説明		
0	0	0	M1 (TP1) ~ M6 キーはプリセット・メモリ呼び出しおよび書き込みキーとして動作します (ラジオ機能)。		
どれか1つでも1のとき			M1 (TP1) ~ M6 キーはラジオ機能キーとして動作しません。 なお、テープ機能を共用している M1 (TP1) ~ M3 (TP3) キーはテープ機能キーとして動作します。		
(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)					
なお、KAMS, KNRおよびKMTLの状態にかかわらず、次のモードでは、プリセット・メモリ呼び出しおよび書き込みキーとして動作します。					
<ul style="list-style-type: none"> ●テープDKオン・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CD・DKオン・モード ●CD・DKスタンバイ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード 					

記号	説明																																								
MUTESEL	<p>テープ・モード時およびCDモード時のRDMUTE端子出力方法を設定します。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="384 293 1370 1055"> <thead> <tr> <th data-bbox="384 293 536 338">MUTESEL</th> <th data-bbox="536 293 1370 338">RDMUTE端子出力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="384 338 536 741">1</td> <td data-bbox="536 338 1370 741"> <p>テープ、CDモード時にミュートはオフします。</p>  <p>MUTESEL=1としたときは、DKスタンバイおよびラジオ・モニタ機能は使用しないでください。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 741 536 1055">0</td> <td data-bbox="536 741 1370 1055"> <p>テープ、CDモード時にミュートはオンしたままとなります。</p>  </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1：ダイオードでショート 0：オープン)</p> <p>詳しくは、6. ミュート出力タイミング・チャートを参照してください。</p>	MUTESEL	RDMUTE端子出力	1	<p>テープ、CDモード時にミュートはオフします。</p>  <p>MUTESEL=1としたときは、DKスタンバイおよびラジオ・モニタ機能は使用しないでください。</p>	0	<p>テープ、CDモード時にミュートはオンしたままとなります。</p> 																																		
MUTESEL	RDMUTE端子出力																																								
1	<p>テープ、CDモード時にミュートはオフします。</p>  <p>MUTESEL=1としたときは、DKスタンバイおよびラジオ・モニタ機能は使用しないでください。</p>																																								
0	<p>テープ、CDモード時にミュートはオンしたままとなります。</p> 																																								
ENFMIF ENAMIF	<p>放送局検出に周波数カウンタの使用の有無を設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="384 1234 1213 1682"> <thead> <tr> <th data-bbox="384 1234 536 1323">ENFMIF</th> <th data-bbox="536 1234 688 1323">ENAMIF</th> <th colspan="2" data-bbox="688 1234 1213 1323">放送局検出方法</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th data-bbox="688 1323 840 1368">バンド</th> <th data-bbox="840 1323 1213 1368"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="384 1323 536 1413">1</td> <td data-bbox="536 1323 688 1413">1</td> <td data-bbox="688 1323 840 1368">FM, VF</td> <td data-bbox="840 1323 1213 1368">周波数カウンタとSD方式</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td data-bbox="688 1368 840 1413">MW, LW</td> <td data-bbox="840 1368 1213 1413">周波数カウンタとSD方式</td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 1413 536 1503">1</td> <td data-bbox="536 1413 688 1503">0</td> <td data-bbox="688 1413 840 1458">FM, VF</td> <td data-bbox="840 1413 1213 1458">周波数カウンタとSD方式</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td data-bbox="688 1458 840 1503">MW, LW</td> <td data-bbox="840 1458 1213 1503">SD方式</td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 1503 536 1592">0</td> <td data-bbox="536 1503 688 1592">1</td> <td data-bbox="688 1503 840 1547">FM, VF</td> <td data-bbox="840 1503 1213 1547">SD方式</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td data-bbox="688 1547 840 1592">MW, LW</td> <td data-bbox="840 1547 1213 1592">周波数カウンタとSD方式</td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 1592 536 1682">0</td> <td data-bbox="536 1592 688 1682">0</td> <td data-bbox="688 1592 840 1637">FM, VF</td> <td data-bbox="840 1592 1213 1637">SD方式</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td data-bbox="688 1637 840 1682">MW, LW</td> <td data-bbox="840 1637 1213 1682">SD方式</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1：ダイオードでショート 0：オープン)</p>	ENFMIF	ENAMIF	放送局検出方法				バンド		1	1	FM, VF	周波数カウンタとSD方式			MW, LW	周波数カウンタとSD方式	1	0	FM, VF	周波数カウンタとSD方式			MW, LW	SD方式	0	1	FM, VF	SD方式			MW, LW	周波数カウンタとSD方式	0	0	FM, VF	SD方式			MW, LW	SD方式
ENFMIF	ENAMIF	放送局検出方法																																							
		バンド																																							
1	1	FM, VF	周波数カウンタとSD方式																																						
		MW, LW	周波数カウンタとSD方式																																						
1	0	FM, VF	周波数カウンタとSD方式																																						
		MW, LW	SD方式																																						
0	1	FM, VF	SD方式																																						
		MW, LW	周波数カウンタとSD方式																																						
0	0	FM, VF	SD方式																																						
		MW, LW	SD方式																																						
DISAMEMO	<p>オートストア・メモリ機能を禁止するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="384 1816 1370 2040"> <thead> <tr> <th data-bbox="384 1816 536 1861">DISAMEMO</th> <th data-bbox="536 1816 1370 1861">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="384 1861 536 1951">0</td> <td data-bbox="536 1861 1370 1951"> <p>オートストア・メモリ機能を使用できます。 P.SCAN キーを2秒以上押し続けるとオートストア・メモリ動作を始めます。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 1951 536 2040">1</td> <td data-bbox="536 1951 1370 2040"> <p>オートストア・メモリ機能を禁止します。 P.SCAN キーはプリセット・スキャン機能のみとなります。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1：ダイオードでショート 0：オープン)</p>	DISAMEMO	説明	0	<p>オートストア・メモリ機能を使用できます。 P.SCAN キーを2秒以上押し続けるとオートストア・メモリ動作を始めます。</p>	1	<p>オートストア・メモリ機能を禁止します。 P.SCAN キーはプリセット・スキャン機能のみとなります。</p>																																		
DISAMEMO	説明																																								
0	<p>オートストア・メモリ機能を使用できます。 P.SCAN キーを2秒以上押し続けるとオートストア・メモリ動作を始めます。</p>																																								
1	<p>オートストア・メモリ機能を禁止します。 P.SCAN キーはプリセット・スキャン機能のみとなります。</p>																																								

記号	説明						
KLCD	<p>使用するLCDコントローラ／ドライバを設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="392 293 1376 427"> <thead> <tr> <th data-bbox="392 293 503 338">KLCD</th> <th data-bbox="503 293 1376 338">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="392 338 503 383">0</td> <td data-bbox="503 338 1376 383">内蔵のLCDコントローラ／ドライバを使用します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="392 383 503 427">1</td> <td data-bbox="503 383 1376 427">外付けLCDコントローラ／ドライバ（μPD7225）を使用します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>（1：ダイオードでショート 0：オープン）</p>	KLCD	説明	0	内蔵のLCDコントローラ／ドライバを使用します。	1	外付けLCDコントローラ／ドライバ（μPD7225）を使用します。
KLCD	説明						
0	内蔵のLCDコントローラ／ドライバを使用します。						
1	外付けLCDコントローラ／ドライバ（μPD7225）を使用します。						
VF1	<p>VFバンドのオートリチューン（受信状態の悪化を検出して自動的にシーク・アップ動作を行う）機能の有無を設定するスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="392 607 1376 831"> <thead> <tr> <th data-bbox="392 607 503 651">VF1</th> <th data-bbox="503 607 1376 651">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="392 651 503 696">1</td> <td data-bbox="503 651 1376 696">VFバンドのオートリチューン機能を使用します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="392 696 503 831">0</td> <td data-bbox="503 696 1376 831">VFバンドのオートリチューン機能を禁止します。 ただしVFバンド選択時に交通情報局を受信していなかった場合のみシーク・アップ動作を行い、交通情報局の検出を行います。</td> </tr> </tbody> </table> <p>（1：ダイオードでショート 0：オープン）</p>	VF1	説明	1	VFバンドのオートリチューン機能を使用します。	0	VFバンドのオートリチューン機能を禁止します。 ただしVFバンド選択時に交通情報局を受信していなかった場合のみシーク・アップ動作を行い、交通情報局の検出を行います。
VF1	説明						
1	VFバンドのオートリチューン機能を使用します。						
0	VFバンドのオートリチューン機能を禁止します。 ただしVFバンド選択時に交通情報局を受信していなかった場合のみシーク・アップ動作を行い、交通情報局の検出を行います。						
MWS	<p>MWバンドのステレオ受信機能の有無を設定するスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="392 965 1376 1099"> <thead> <tr> <th data-bbox="392 965 503 1010">MWS</th> <th data-bbox="503 965 1376 1010">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="392 1010 503 1055">1</td> <td data-bbox="503 1010 1376 1055">MWバンドのステレオ受信機能を使用します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="392 1055 503 1099">0</td> <td data-bbox="503 1055 1376 1099">MWバンドのステレオ受信機能を禁止します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>（1：ダイオードでショート 0：オープン）</p>	MWS	説明	1	MWバンドのステレオ受信機能を使用します。	0	MWバンドのステレオ受信機能を禁止します。
MWS	説明						
1	MWバンドのステレオ受信機能を使用します。						
0	MWバンドのステレオ受信機能を禁止します。						

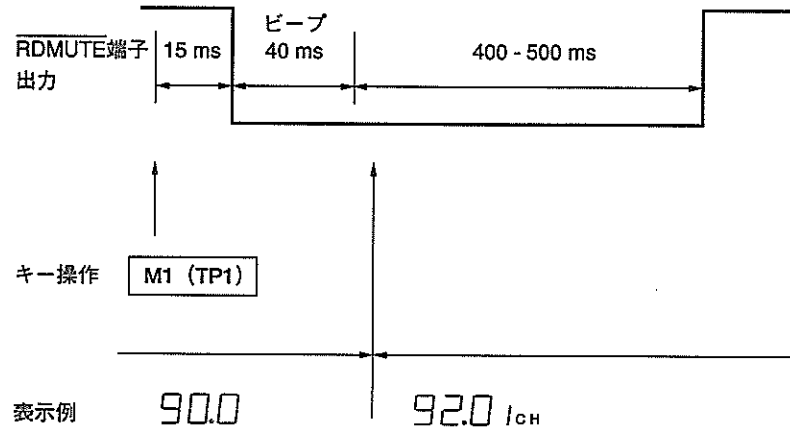
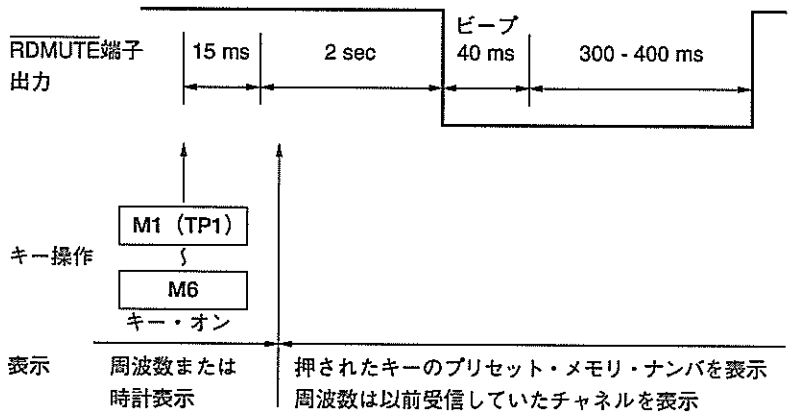
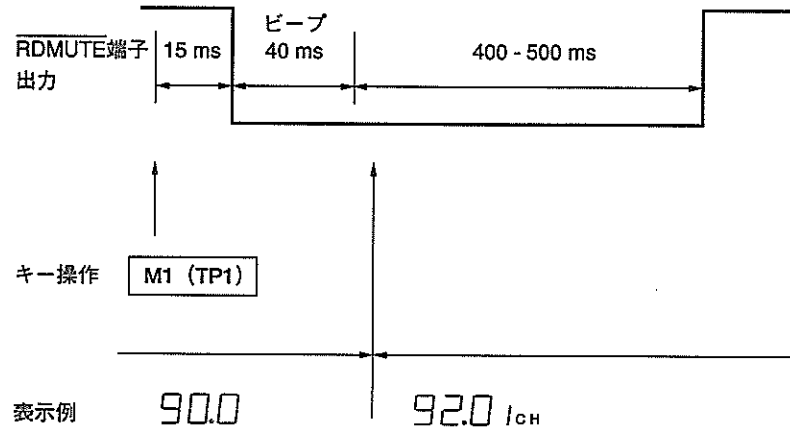
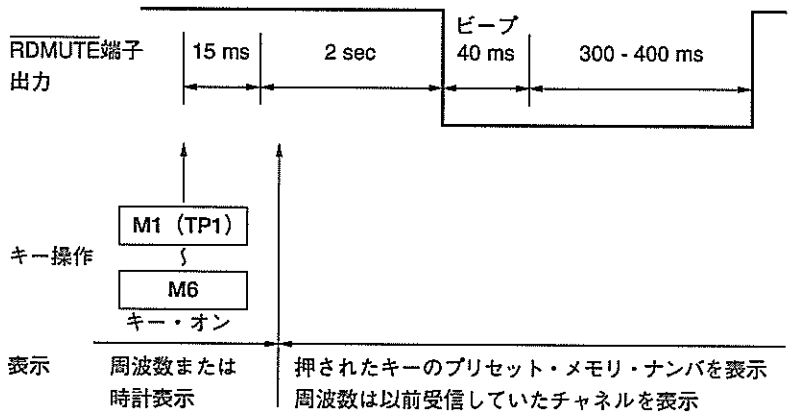
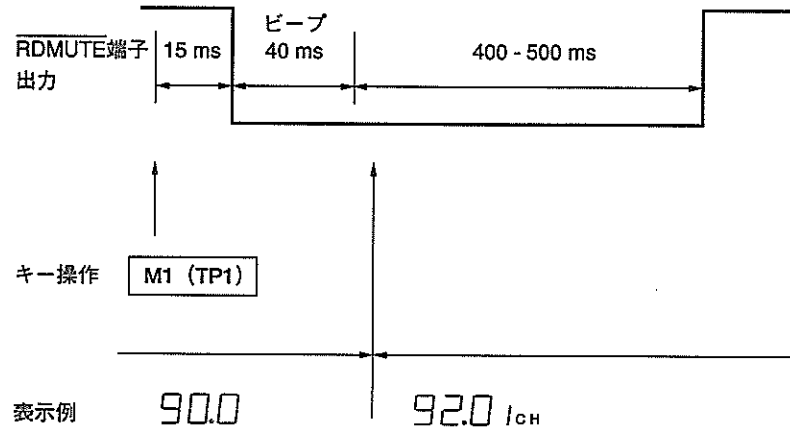
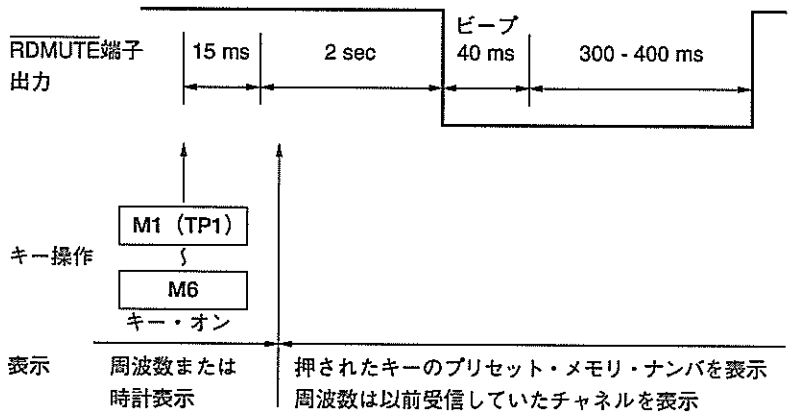
2.6.2 オルタネートまたはトランジスタ・スイッチ

次の表の説明で、スイッチのオンはハイ・レベルが入力されていることを示し、スイッチのオフはロウ・レベルが入力されていることを示します。

記号	説明													
CDSET	CDモードにするためのスイッチです。 CE端子がハイ・レベルのときのみ有効になります。 このスイッチをオンすることにより、CDモードになります。													
TPSET	テープ・モードにするためのスイッチです。 CE端子がハイ・レベルのときのみ有効となります。 CDSETスイッチがオフのときに、このスイッチがオンしているとテープ・モードになります。													
RDSET	ラジオ・モードにするためのスイッチです。 CE端子がハイ・レベルのときのみ有効となります。 CDSET, TPSETスイッチがともにオフのとき、このスイッチがオンしているとラジオ・モードになります。 このスイッチは、初期設定ダイオードRDON=0のとき有効となり、RDON=1のときは無効となります。													
FF	テープ・モードの早送り信号入力スイッチです。 RLスイッチの状態により次のようにテープ走行表示 (◀▶) を点灯します。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>FF</th> <th>RL</th> <th>表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">0</td> <td>0</td> <td>◀▶</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>◀▶</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td>0</td> <td>◀▶</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>◀▶</td> </tr> </tbody> </table> <p>(▶:消灯 ▶:点灯 ▶:点滅 (2.5Hz)) 0:オフ 1:オン</p>	FF	RL	表示	0	0	◀▶	1	◀▶	1	0	◀▶	1	◀▶
FF	RL	表示												
0	0	◀▶												
	1	◀▶												
1	0	◀▶												
	1	◀▶												
RL	テープ・モード時の走行方向信号入力スイッチです。 FFスイッチの状態によりテープ走行方向 (◀▶) を点灯します。点灯内容はFFスイッチの項を参照してください。													
DTH	着脱式パネルの着脱状態の入力スイッチです。 このスイッチがオフしているとき、着脱式パネルが脱状態となります。 初期設定ダイオードKLCD=0のとき、無効となります。													
ST	ラジオ・モード時のステレオ信号入力スイッチです。 ラジオ・モードでFMまたはVFバンド時、このスイッチがオンすると、“ST”表示を点灯します。 またMWバンドがステレオ受信機能あり (初期設定ダイオードMWS=1) のとき、MWバンドでこのスイッチがオンしたときも“ST”表示を点灯します。 ただしモノラル・オン状態では“ST”表示は消灯します。													

2.6.3 モメンタリ・キー

記号	説明				
M1(TP1)	ラジオ・モード時は、プリセット・メモリ呼び出しおよび書き込み用キーとして使用します。				
M2(TP2)	テープ・モード時は初期設定ダイオード (KAMS, KNR, KM TL) によりテープ機能キーとして使用することができます。				
M3(TP3)					
M4					
M5	(1) ラジオ・モード, テープDKスタンバイ・モード, CD-DKスタンバイ・モード, テープDKオン・モード, CD-DKオン・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時				
M6	プリセット・メモリ呼び出しおよび書き込み用のキーです。				
	1つのキーに対して、FM1, FM2, FM3, VF, MW1, MW2, LWバンドが独立に (MAX.6バンド) メモリで				
	きます。				
	初期設定ダイオードM2Sの状態により次のように動作します。				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="388 741 503 786">M2S</th> <th data-bbox="503 741 1375 786">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="388 786 503 1861">0</td> <td data-bbox="503 786 1375 1861"> <p>周波数表示中に ME キーを押すことにより、5秒間プリセット書き込み可能状態となります。この5秒間に M1(TP1) ~ M6 キーのいずれか1つを押すことにより現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>ME キーを押し続けていると書き込みは行えません。書き込み時はラジオ・ミュートは出力しません。</p> <p>“CH” 表示およびプリセット・ナンバ (プリセット・ナンバ表示状態のとき) を1 Hz、デューティ1/2で点滅します。</p> <p>例</p> <p>現在のプリセット・メモリの内容を受信中で、同一のプリセット・メモリ・キーを押したときは、ビープを出力しません。ただし時計表示中であれば、ビープを出力し、周波数表示に切り替えます。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	M2S	説明	0	<p>周波数表示中に ME キーを押すことにより、5秒間プリセット書き込み可能状態となります。この5秒間に M1(TP1) ~ M6 キーのいずれか1つを押すことにより現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>ME キーを押し続けていると書き込みは行えません。書き込み時はラジオ・ミュートは出力しません。</p> <p>“CH” 表示およびプリセット・ナンバ (プリセット・ナンバ表示状態のとき) を1 Hz、デューティ1/2で点滅します。</p> <p>例</p> <p>現在のプリセット・メモリの内容を受信中で、同一のプリセット・メモリ・キーを押したときは、ビープを出力しません。ただし時計表示中であれば、ビープを出力し、周波数表示に切り替えます。</p>
M2S	説明				
0	<p>周波数表示中に ME キーを押すことにより、5秒間プリセット書き込み可能状態となります。この5秒間に M1(TP1) ~ M6 キーのいずれか1つを押すことにより現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>ME キーを押し続けていると書き込みは行えません。書き込み時はラジオ・ミュートは出力しません。</p> <p>“CH” 表示およびプリセット・ナンバ (プリセット・ナンバ表示状態のとき) を1 Hz、デューティ1/2で点滅します。</p> <p>例</p> <p>現在のプリセット・メモリの内容を受信中で、同一のプリセット・メモリ・キーを押したときは、ビープを出力しません。ただし時計表示中であれば、ビープを出力し、周波数表示に切り替えます。</p>				
	(0 : オープン)				

記号	説明						
<p>M1 (TP1)</p> <p>M2 (TP2)</p> <p>M3 (TP3)</p> <p>M4</p> <p>M5</p> <p>M6</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="368 248 493 293">M2S</th> <th data-bbox="493 248 1361 293">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="368 293 493 1055">0</td> <td data-bbox="493 293 1361 1055"> <p>呼び出し</p> <p>プリセット書き込み可能状態でないとき、M1 (TP1) ~ M6 キーを押すことにより、押したキーに対応するプリセット・メモリの内容呼び出します。</p> <p>例</p>  <p>表示例 90.0 92.0 kHz</p> <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であり、同一のプリセット・メモリ・キーが押されると、何の動作も行いません。ただし時計表示中であれば、ビープを出力し、周波数表示に切り替えます。ラジオ・ミュートは出力しません。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="368 1055 493 2049">1</td> <td data-bbox="493 1055 1361 2049"> <p>書き込み</p> <p>M1 (TP1) ~ M6 キーを2秒以上押し続けると、押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>プリセット・メモリへの書き込みを終了すると、アクノリッジとしてラジオ・ミュートを出力します。</p> <p>例</p>  <p>表示 周波数または時計表示 押されたキーのプリセット・メモリ・ナンバを表示 周波数は以前受信していたチャンネルを表示</p> <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であるとき、同一のプリセット・メモリ・キーが押されると、何の動作も行いません。ただし、時計表示中であれば、キーが押された時点でビープを出力し、表示を周波数に切り替えます。このときラジオ・ミュートを出力しません。</p> <p>シーク動作中は、キーが押されると、ただちに（2秒のカウンタは無視されます）呼び出し動作を行います。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	M2S	説明	0	<p>呼び出し</p> <p>プリセット書き込み可能状態でないとき、M1 (TP1) ~ M6 キーを押すことにより、押したキーに対応するプリセット・メモリの内容呼び出します。</p> <p>例</p>  <p>表示例 90.0 92.0 kHz</p> <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であり、同一のプリセット・メモリ・キーが押されると、何の動作も行いません。ただし時計表示中であれば、ビープを出力し、周波数表示に切り替えます。ラジオ・ミュートは出力しません。</p>	1	<p>書き込み</p> <p>M1 (TP1) ~ M6 キーを2秒以上押し続けると、押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>プリセット・メモリへの書き込みを終了すると、アクノリッジとしてラジオ・ミュートを出力します。</p> <p>例</p>  <p>表示 周波数または時計表示 押されたキーのプリセット・メモリ・ナンバを表示 周波数は以前受信していたチャンネルを表示</p> <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であるとき、同一のプリセット・メモリ・キーが押されると、何の動作も行いません。ただし、時計表示中であれば、キーが押された時点でビープを出力し、表示を周波数に切り替えます。このときラジオ・ミュートを出力しません。</p> <p>シーク動作中は、キーが押されると、ただちに（2秒のカウンタは無視されます）呼び出し動作を行います。</p>
M2S	説明						
0	<p>呼び出し</p> <p>プリセット書き込み可能状態でないとき、M1 (TP1) ~ M6 キーを押すことにより、押したキーに対応するプリセット・メモリの内容呼び出します。</p> <p>例</p>  <p>表示例 90.0 92.0 kHz</p> <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であり、同一のプリセット・メモリ・キーが押されると、何の動作も行いません。ただし時計表示中であれば、ビープを出力し、周波数表示に切り替えます。ラジオ・ミュートは出力しません。</p>						
1	<p>書き込み</p> <p>M1 (TP1) ~ M6 キーを2秒以上押し続けると、押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>プリセット・メモリへの書き込みを終了すると、アクノリッジとしてラジオ・ミュートを出力します。</p> <p>例</p>  <p>表示 周波数または時計表示 押されたキーのプリセット・メモリ・ナンバを表示 周波数は以前受信していたチャンネルを表示</p> <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であるとき、同一のプリセット・メモリ・キーが押されると、何の動作も行いません。ただし、時計表示中であれば、キーが押された時点でビープを出力し、表示を周波数に切り替えます。このときラジオ・ミュートを出力しません。</p> <p>シーク動作中は、キーが押されると、ただちに（2秒のカウンタは無視されます）呼び出し動作を行います。</p>						

(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)

記号	説明																																																																																																													
M1(TP1)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">M2S</th> <th style="width: 90%;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td> <p>M1(TP1) ~ M6 キーを押し、2秒以内に離すと、キーを離れた時点でプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>例</p> <p>表示 周波数または時計表示 押されたキーのプリセット・メモリ・ナンバを表示 周波数は以前受信していたチャンネルを表示</p> <p>表示 押されたキーのプリセット・メモリ・ナンバを表示 周波数は呼び出したチャンネルの表示</p> <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であるとき、同一のプリセット・メモリ・キーを押したときは何の動作も行いません。ただし、時計表示中であればビープを出力し、周波数表示に切り替えます。ラジオ・ミュートを出力しません。</p> <p>シーク動作中は、キーが押されるとただちに呼び出し動作を行います。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1：ダイオードでショート)</p> <p>電源投入時は、セットの調整に便利なようにM1-M6に次の周波数が書き込まれています。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地域</th> <th>メモリ</th> <th>M1</th> <th>M2</th> <th>M3</th> <th>M4</th> <th>M5</th> <th>M6</th> </tr> <tr> <th>バンド</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">東欧</td> <td>FM1 (MHz)</td> <td>87.5</td> <td>87.7</td> <td>92.3</td> <td>96.3</td> <td>105.9</td> <td>87.5</td> </tr> <tr> <td>MW1 (kHz)</td> <td>522</td> <td>603</td> <td>954</td> <td>1386</td> <td>522</td> <td>522</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">西欧</td> <td>MW2 (kHz)</td> <td>522</td> <td>621</td> <td>1098</td> <td>1530</td> <td>522</td> <td>522</td> </tr> <tr> <td>LW (kHz)</td> <td>144</td> <td>155</td> <td>208</td> <td>256</td> <td>144</td> <td>144</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">米国1、米国2、米国3</td> <td>FM1 (MHz)</td> <td>87.5</td> <td>87.9</td> <td>97.1</td> <td>105.1</td> <td>87.5</td> <td>87.5</td> </tr> <tr> <td>MW1 (kHz)</td> <td>530</td> <td>620</td> <td>1010</td> <td>1490</td> <td>530</td> <td>530</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">濠州 中近東</td> <td>FM1 (MHz)</td> <td>87.5</td> <td>87.9</td> <td>97.1</td> <td>105.1</td> <td>87.5</td> <td>87.5</td> </tr> <tr> <td>MW1 (kHz)</td> <td>531</td> <td>612</td> <td>963</td> <td>1395</td> <td>531</td> <td>531</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">日本</td> <td>FM1 (MHz)</td> <td>76.0</td> <td>76.4</td> <td>85.6</td> <td>76.0</td> <td>76.0</td> <td>76.0</td> </tr> <tr> <td>MW1 (kHz)</td> <td>522</td> <td>603</td> <td>954</td> <td>1386</td> <td>522</td> <td>522</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中国</td> <td>FM1 (MHz)</td> <td>87.0</td> <td>87.7</td> <td>92.3</td> <td>87.0</td> <td>87.0</td> <td>87.0</td> </tr> <tr> <td>MW1 (kHz)</td> <td>531</td> <td>540</td> <td>585</td> <td>531</td> <td>531</td> <td>531</td> </tr> </tbody> </table> <p>FM2, FM3, VFおよび欧州1, 2以外のMW2バンドのM1-M6には、各地域の最低周波数が書き込まれています。</p> <p>○テープ・モード時の動作</p> <p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLにより、テープ機能キーとして共用できます。共用できるキーについては2.6.1 初期設定ダイオード・マトリクスを参照してください。また各キーの動作については</p> <p style="text-align: center;">AMS , NR , MTL キーの項を参照してください。</p>	M2S	説明	1	<p>M1(TP1) ~ M6 キーを押し、2秒以内に離すと、キーを離れた時点でプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>例</p> <p>表示 周波数または時計表示 押されたキーのプリセット・メモリ・ナンバを表示 周波数は以前受信していたチャンネルを表示</p> <p>表示 押されたキーのプリセット・メモリ・ナンバを表示 周波数は呼び出したチャンネルの表示</p> <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であるとき、同一のプリセット・メモリ・キーを押したときは何の動作も行いません。ただし、時計表示中であればビープを出力し、周波数表示に切り替えます。ラジオ・ミュートを出力しません。</p> <p>シーク動作中は、キーが押されるとただちに呼び出し動作を行います。</p>	地域	メモリ	M1	M2	M3	M4	M5	M6	バンド							東欧	FM1 (MHz)	87.5	87.7	92.3	96.3	105.9	87.5	MW1 (kHz)	522	603	954	1386	522	522	西欧	MW2 (kHz)	522	621	1098	1530	522	522	LW (kHz)	144	155	208	256	144	144	米国1、米国2、米国3	FM1 (MHz)	87.5	87.9	97.1	105.1	87.5	87.5	MW1 (kHz)	530	620	1010	1490	530	530	濠州 中近東	FM1 (MHz)	87.5	87.9	97.1	105.1	87.5	87.5	MW1 (kHz)	531	612	963	1395	531	531	日本	FM1 (MHz)	76.0	76.4	85.6	76.0	76.0	76.0	MW1 (kHz)	522	603	954	1386	522	522	中国	FM1 (MHz)	87.0	87.7	92.3	87.0	87.0	87.0	MW1 (kHz)	531	540	585	531	531	531
M2S		説明																																																																																																												
1		<p>M1(TP1) ~ M6 キーを押し、2秒以内に離すと、キーを離れた時点でプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>例</p> <p>表示 周波数または時計表示 押されたキーのプリセット・メモリ・ナンバを表示 周波数は以前受信していたチャンネルを表示</p> <p>表示 押されたキーのプリセット・メモリ・ナンバを表示 周波数は呼び出したチャンネルの表示</p> <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であるとき、同一のプリセット・メモリ・キーを押したときは何の動作も行いません。ただし、時計表示中であればビープを出力し、周波数表示に切り替えます。ラジオ・ミュートを出力しません。</p> <p>シーク動作中は、キーが押されるとただちに呼び出し動作を行います。</p>																																																																																																												
地域		メモリ	M1	M2	M3	M4	M5	M6																																																																																																						
		バンド																																																																																																												
東欧		FM1 (MHz)	87.5	87.7	92.3	96.3	105.9	87.5																																																																																																						
	MW1 (kHz)	522	603	954	1386	522	522																																																																																																							
西欧	MW2 (kHz)	522	621	1098	1530	522	522																																																																																																							
	LW (kHz)	144	155	208	256	144	144																																																																																																							
米国1、米国2、米国3	FM1 (MHz)	87.5	87.9	97.1	105.1	87.5	87.5																																																																																																							
	MW1 (kHz)	530	620	1010	1490	530	530																																																																																																							
濠州 中近東	FM1 (MHz)	87.5	87.9	97.1	105.1	87.5	87.5																																																																																																							
	MW1 (kHz)	531	612	963	1395	531	531																																																																																																							
日本	FM1 (MHz)	76.0	76.4	85.6	76.0	76.0	76.0																																																																																																							
	MW1 (kHz)	522	603	954	1386	522	522																																																																																																							
中国	FM1 (MHz)	87.0	87.7	92.3	87.0	87.0	87.0																																																																																																							
	MW1 (kHz)	531	540	585	531	531	531																																																																																																							
M2(TP2)																																																																																																														
M3(TP3)																																																																																																														
M4																																																																																																														
M5																																																																																																														
M6																																																																																																														

記号	説明
<p style="text-align: center;">VF</p>	<p>VF (交通情報) バンドを選択するためのキーです。 初期設定ダイオードVF1の状態により動作が異なります。</p> <p>(1) VF1=0 (オートリチューン機能なし) のとき</p> <p style="margin-left: 40px;">VF キーを押すごとに受信バンドを次のように切り替えます。 VFバンド↔FM, MW, LWのいずれかのバンド (VFバンドに切り替える前に受信していたバンドを受信します)</p> <p>VFバンドを選択すると、“VF”表示を点灯します。</p> <p>VFバンドを選択すると、VF放送局を受信しているか判断します。放送局を受信し (SDあり)、SK信号を受信しているときにはVF放送局の受信状態となります。</p> <p>VFバンド選択時、VF放送局を受信していない場合、自動的にシーク・アップ動作を行い、VF放送局の検出を行います。シーク・アップ動作については SEEK UP , SEEK DWN キーの項を参照してください。</p> <p>VFバンド受信中はSDおよびSK信号の検出を30 msごとに行い、512回の検出で256回以上SDまたはSK信号がオフしている状態になると、100 msオン、100 msオフのピーブを5回出力します。</p> <p>VF放送局受信中はDK信号の状態により次のように動作が異なります。</p> <p>(a) DK信号入力=ハイ・レベルの状態が2秒以上続いたとき (100 msごとに検出を行います) 交通情報放送受信中とします。</p> <p>(b) DK信号入力=ロウ・レベルの状態が3秒以上続いたとき (100 msごとに検出を行います) 交通情報放送がオフしたとします。</p> <p>(2) VF1=1 (オートリチューン機能あり) のとき</p> <p style="margin-left: 40px;">VF キーを押すごとに受信バンドを次のように切り替えます。 VFバンド↔FM, MW, LWのいずれかのバンド (VFバンドに切り替える前に受信していたバンドを受信します)</p> <p>VFバンドを選択すると、“VF”表示を点灯します。</p> <p>VFバンドを選択すると、VF放送局を受信しているか判断します。</p> <p>VFバンド選択時、VF放送局を受信していない場合、自動的にシーク・アップ動作を行い、VF放送局の検出を行います。シーク・アップ動作については SEEK UP , SEEK DWN キーの項を参照してください。</p> <p>VF放送局受信中はSDおよびSK信号の検出を30 msごとに行い、512回の検出で256回以上SDまたはSK信号がオフしている状態になると、VF放送局を受信していないとして、シーク・アップ動作を行います。</p> <p>VF放送局受信中はDK信号の状態により次のように動作が異なります。</p> <p>(a) DK信号入力=ハイ・レベルの状態が2秒以上続いたとき (100 msごとに検出を行います) 交通情報受信中とします。</p> <p>(b) DK信号入力=ロウ・レベルの状態が3秒以上続いたとき (100 msごとに検出を行います) 交通情報がオフしたとします。</p>

記号	説明				
P.SCAN	<p>プリセット・スキャンおよびオートストア・メモリ・キーです。 このキーの動作は初期設定ダイオードDISAMEMOの状態により異なります。</p> <p>(1) DISAMEMO=0 (オートストア・メモリ機能あり) のとき キーの操作タイミングにより動作が異なります。</p> <p>(a) 2秒以内にキーをオフしたとき キーを離した時点で、プリセット・スキャン動作を行います。</p> <p>(b) 2秒以上キーをオンしたとき 2秒経過した時点でオートストア・メモリ動作を行います。</p> <p>(2) DISAMEMO=1 (オートストア・メモリ機能なし) のとき キーを押した時点で、プリセット・スキャン動作を行います。</p> <p>プリセット・スキャンとオートストア・メモリ動作について次に示します。</p> <p>○プリセット・スキャン動作 プリセット・メモリの内容を5秒間ずつ自動的に呼び出します。 現在プリセット・メモリ以外を受信中であればM1から、プリセット・メモリを受信中ならその次 (たとえばM3受信中ならM4) のプリセット・メモリから順次5秒間ずつ呼び出します。この動作を次に示します。</p> <p>例 FM1バンドを受信中であるとき</p> <div style="text-align: center;"> <p>FM1</p> </div> <p>MWバンド (MW1, MW2) , LWバンド時も同様な動作になります。</p> <p>5秒間のホールドを終えて次のプリセット・メモリに移るときにビーブを出力します。</p> <p>5秒間のホールド中は、プリセット・メモリ・ナンバ表示を1 Hz (デューティ50%) で点滅します。“CH”表示は点滅しません。</p> <p>5秒間のホールド中にそのプリセット・メモリでとめるには、再度このキーを押すか、受信中のプリセット・メモリと同一のプリセット・メモリ・キーを押してください。またプリセット・メモリ書き込み (たとえばM1のホールド中にM5に書き込むようなとき) も可能ですが、書き込んだ時点でプリセット・スキャン動作は終了します。</p> <p>プリセット・スキャン中のプリセット・メモリの書き込み動作は次のようになります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%; text-align: center;">M2S</th> <th style="text-align: center;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: top;">0</td> <td> <p>ME キーを押すと、5秒間のメモリ書き込み可能状態となります。</p> <p>メモリ書き込み可能状態における M1 (TP1) ~ M6 キーの動作は、モードにより次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時 押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みを行い、プリセット・スキャンを終了します。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(0: オープン)</p>	M2S	説明	0	<p>ME キーを押すと、5秒間のメモリ書き込み可能状態となります。</p> <p>メモリ書き込み可能状態における M1 (TP1) ~ M6 キーの動作は、モードにより次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時 押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みを行い、プリセット・スキャンを終了します。</p>
M2S	説明				
0	<p>ME キーを押すと、5秒間のメモリ書き込み可能状態となります。</p> <p>メモリ書き込み可能状態における M1 (TP1) ~ M6 キーの動作は、モードにより次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時 押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みを行い、プリセット・スキャンを終了します。</p>				

記号	説明																		
<p>P.SCAN</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="388 248 503 293">M2S</th> <th data-bbox="503 248 1367 293">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="388 293 503 965">0</td> <td data-bbox="503 293 1367 965"> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLにより次のように動作が異なります。</p> <p>(a) KAMS, KNR, KMTLのいずれかがオンであるとき (テープ機能を兼用しているとき)</p> <p>M1(TP1) ~ M6 キーを押してもメモリ書き込みを行えません。プリセット・スキャンを継続します。</p> <p>(b) KAMS, KNR, KMTLのすべてがオフであるとき (テープ機能を兼用していないとき)</p> <p>押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みを行い、プリセット・スキャンを終了します。</p> <p>5秒間のメモリ書き込み可能状態において、M1(TP1) ~ M6 キーを押さなければ、プリセット・スキャンを再開し、次のプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>また、5秒間のメモリ書き込み可能状態において、ME キーを押すと、メモリ書き込み可能状態を解除し、キーを押して5秒後に次のプリセット・メモリを呼び出します。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 965 503 1099">1</td> <td data-bbox="503 965 1367 1099"> <p>M1(TP1) ~ M6 キーを2秒以上押し続けると、押されたキーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込みます。</p> <p>プリセット・スキャンは、キーを押した時点で終了します。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p> <p>プリセット・スキャン中の各キーの動作は次のようになります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="388 1234 539 1279">キー</th> <th data-bbox="539 1234 1367 1279">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="388 1279 539 1323">P.SCAN</td> <td data-bbox="539 1279 1367 1323">スキャン動作を中止し、その周波数を受信します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 1323 539 1368">SCAN UP</td> <td data-bbox="539 1323 1367 1368" rowspan="7">スキャン動作を中止し、現在受信中の周波数からキーの動作を行います。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 1368 539 1413">SCAN DWN</td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 1413 539 1458">SEEK UP</td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 1458 539 1503">SEEK DWN</td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 1503 539 1547">MAN UP</td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 1547 539 1592">MAN DWN</td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 1592 539 1637">VF</td> </tr> </tbody> </table>	M2S	説明	0	<p>(2) テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLにより次のように動作が異なります。</p> <p>(a) KAMS, KNR, KMTLのいずれかがオンであるとき (テープ機能を兼用しているとき)</p> <p>M1(TP1) ~ M6 キーを押してもメモリ書き込みを行えません。プリセット・スキャンを継続します。</p> <p>(b) KAMS, KNR, KMTLのすべてがオフであるとき (テープ機能を兼用していないとき)</p> <p>押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みを行い、プリセット・スキャンを終了します。</p> <p>5秒間のメモリ書き込み可能状態において、M1(TP1) ~ M6 キーを押さなければ、プリセット・スキャンを再開し、次のプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>また、5秒間のメモリ書き込み可能状態において、ME キーを押すと、メモリ書き込み可能状態を解除し、キーを押して5秒後に次のプリセット・メモリを呼び出します。</p>	1	<p>M1(TP1) ~ M6 キーを2秒以上押し続けると、押されたキーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込みます。</p> <p>プリセット・スキャンは、キーを押した時点で終了します。</p>	キー	説明	P.SCAN	スキャン動作を中止し、その周波数を受信します。	SCAN UP	スキャン動作を中止し、現在受信中の周波数からキーの動作を行います。	SCAN DWN	SEEK UP	SEEK DWN	MAN UP	MAN DWN	VF
M2S	説明																		
0	<p>(2) テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLにより次のように動作が異なります。</p> <p>(a) KAMS, KNR, KMTLのいずれかがオンであるとき (テープ機能を兼用しているとき)</p> <p>M1(TP1) ~ M6 キーを押してもメモリ書き込みを行えません。プリセット・スキャンを継続します。</p> <p>(b) KAMS, KNR, KMTLのすべてがオフであるとき (テープ機能を兼用していないとき)</p> <p>押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みを行い、プリセット・スキャンを終了します。</p> <p>5秒間のメモリ書き込み可能状態において、M1(TP1) ~ M6 キーを押さなければ、プリセット・スキャンを再開し、次のプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>また、5秒間のメモリ書き込み可能状態において、ME キーを押すと、メモリ書き込み可能状態を解除し、キーを押して5秒後に次のプリセット・メモリを呼び出します。</p>																		
1	<p>M1(TP1) ~ M6 キーを2秒以上押し続けると、押されたキーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込みます。</p> <p>プリセット・スキャンは、キーを押した時点で終了します。</p>																		
キー	説明																		
P.SCAN	スキャン動作を中止し、その周波数を受信します。																		
SCAN UP	スキャン動作を中止し、現在受信中の周波数からキーの動作を行います。																		
SCAN DWN																			
SEEK UP																			
SEEK DWN																			
MAN UP																			
MAN DWN																			
VF																			

記号	説明														
<p>P.SCAN</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="388 248 540 293">キー</th> <th data-bbox="540 248 1372 293">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="388 293 540 562"> <p>BAND</p> </td> <td data-bbox="540 293 1372 562"> <p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 スキャン動作を中止し, 現在受信中の周波数からキーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時 スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 562 540 831"> <p>RDMONI</p> </td> <td data-bbox="540 562 1372 831"> <p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード時 スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 スキャン動作を中止し, 現在受信中の周波数からキーの動作を行います。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 831 540 920"> <p>LOUD POWER</p> </td> <td data-bbox="540 831 1372 920"> <p>スキャン動作は継続します。押したキーの動作を行います。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 920 540 1144"> <p>LOC</p> </td> <td data-bbox="540 920 1372 1144"> <p>初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により, 次のように動作が異なります。</p> <p>(1) AUTOLOC=0のとき スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</p> <p>(2) AUTOLOC=1のとき スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 1144 540 1189"> <p>MONO</p> </td> <td data-bbox="540 1144 1372 1189"> <p>スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 1189 540 1771"> <p>M1 (TP1) M2 (TP2) M3 (TP3) M4 M5 M6</p> </td> <td data-bbox="540 1189 1372 1771"> <p>初期設定ダイオードM2Sの状態により次のように動作が異なります。</p> <p>(1) M2S=0のとき</p> <p>(a) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時 スキャン動作を中止し, 押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を受信します。</p> <p>(b) テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>○KAMS,KNR,KMTLのいずれかがオンされているとき スキャン動作を継続します。テープ機能を兼用しているキーは, テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効となります。</p> <p>○KAMS,KNR,KMTLのすべてがオフされているとき スキャン動作を中止し, 押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を受信します。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	キー	説明	<p>BAND</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 スキャン動作を中止し, 現在受信中の周波数からキーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時 スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>	<p>RDMONI</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード時 スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 スキャン動作を中止し, 現在受信中の周波数からキーの動作を行います。</p>	<p>LOUD POWER</p>	<p>スキャン動作は継続します。押したキーの動作を行います。</p>	<p>LOC</p>	<p>初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により, 次のように動作が異なります。</p> <p>(1) AUTOLOC=0のとき スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</p> <p>(2) AUTOLOC=1のとき スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>	<p>MONO</p>	<p>スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</p>	<p>M1 (TP1) M2 (TP2) M3 (TP3) M4 M5 M6</p>	<p>初期設定ダイオードM2Sの状態により次のように動作が異なります。</p> <p>(1) M2S=0のとき</p> <p>(a) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時 スキャン動作を中止し, 押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を受信します。</p> <p>(b) テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>○KAMS,KNR,KMTLのいずれかがオンされているとき スキャン動作を継続します。テープ機能を兼用しているキーは, テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効となります。</p> <p>○KAMS,KNR,KMTLのすべてがオフされているとき スキャン動作を中止し, 押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を受信します。</p>
キー	説明														
<p>BAND</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 スキャン動作を中止し, 現在受信中の周波数からキーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時 スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>														
<p>RDMONI</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード時 スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 スキャン動作を中止し, 現在受信中の周波数からキーの動作を行います。</p>														
<p>LOUD POWER</p>	<p>スキャン動作は継続します。押したキーの動作を行います。</p>														
<p>LOC</p>	<p>初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により, 次のように動作が異なります。</p> <p>(1) AUTOLOC=0のとき スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</p> <p>(2) AUTOLOC=1のとき スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>														
<p>MONO</p>	<p>スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</p>														
<p>M1 (TP1) M2 (TP2) M3 (TP3) M4 M5 M6</p>	<p>初期設定ダイオードM2Sの状態により次のように動作が異なります。</p> <p>(1) M2S=0のとき</p> <p>(a) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時 スキャン動作を中止し, 押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を受信します。</p> <p>(b) テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>○KAMS,KNR,KMTLのいずれかがオンされているとき スキャン動作を継続します。テープ機能を兼用しているキーは, テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効となります。</p> <p>○KAMS,KNR,KMTLのすべてがオフされているとき スキャン動作を中止し, 押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を受信します。</p>														

記号	説明				
<p>P.SCAN</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="388 248 540 293">キー</th> <th data-bbox="540 248 1372 293">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="388 293 540 1279"> <p>M1 (TP1)</p> <p>M2 (TP2)</p> <p>M3 (TP3)</p> <p>M4</p> <p>M5</p> <p>M6</p> </td> <td data-bbox="540 293 1372 1279"> <p>(2) M2S=1のとき</p> <p>(a) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時</p> <p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより, 次のように動作が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以内にキーを離したとき <p>キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> ● 2秒以上キーを押し続けたとき <p>現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>(b) テープDKスタンバイ・モード時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○KAMS,KNR,KMTLのいずれかがオンされているとき <p>スキャン動作を継続します。テープ機能を兼用しているキーは, テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効となります。</p> ○KAMS,KNR,KMTLのすべてがオフされているとき <p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより, 次のように動作が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以内にキーを離したとき <p>キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> ● 2秒以上キーを押し続けたとき <p>現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>○オートストア・メモリ</p> <p>放送局を自動的にサーチし, プリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>放送局の有無の判定方法は初期設定ダイオードENFMIF,ENAMIFにより決定します。</p> <p>放送局のサーチは現在受信中の周波数からアップ方向に行います。</p> <p>放送局を検出すると, その周波数をプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>VFバンドにおいては, VF放送局を受信したときのみ, その周波数をプリセット・メモリに書き込みます (VF放送局とは放送局ありで, かつSK信号オンの放送局のことです)。</p> <p>SDあり電圧については, 1. 端子機能 SDの項を参照してください。</p> <p>オートストア・メモリ動作は初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により次のように異なります。</p> <p>(1) AUTOLOC=0 (オートローカル機能なし) のとき</p> <p>オートストア・メモリ動作を開始するときのLOCAL/DX状態により動作が次のように異なります。</p>	キー	説明	<p>M1 (TP1)</p> <p>M2 (TP2)</p> <p>M3 (TP3)</p> <p>M4</p> <p>M5</p> <p>M6</p>	<p>(2) M2S=1のとき</p> <p>(a) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時</p> <p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより, 次のように動作が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以内にキーを離したとき <p>キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> ● 2秒以上キーを押し続けたとき <p>現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>(b) テープDKスタンバイ・モード時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○KAMS,KNR,KMTLのいずれかがオンされているとき <p>スキャン動作を継続します。テープ機能を兼用しているキーは, テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効となります。</p> ○KAMS,KNR,KMTLのすべてがオフされているとき <p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより, 次のように動作が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以内にキーを離したとき <p>キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> ● 2秒以上キーを押し続けたとき <p>現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p>
キー	説明				
<p>M1 (TP1)</p> <p>M2 (TP2)</p> <p>M3 (TP3)</p> <p>M4</p> <p>M5</p> <p>M6</p>	<p>(2) M2S=1のとき</p> <p>(a) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時</p> <p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより, 次のように動作が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以内にキーを離したとき <p>キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> ● 2秒以上キーを押し続けたとき <p>現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>(b) テープDKスタンバイ・モード時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○KAMS,KNR,KMTLのいずれかがオンされているとき <p>スキャン動作を継続します。テープ機能を兼用しているキーは, テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効となります。</p> ○KAMS,KNR,KMTLのすべてがオフされているとき <p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより, 次のように動作が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以内にキーを離したとき <p>キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> ● 2秒以上キーを押し続けたとき <p>現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> 				

記号	説明
<p>P.SCAN</p>	<p>(a) オートストア・メモリ開始時、DX状態のとき</p> <p>現在受信中の周波数からアップ方向にサーチしていきサーチ周波数が1周すると、動作を終了します。サーチ中にこのキーを押すと、オートストア・メモリ動作を終了し、オートストア・メモリを開始したときの周波数を受信します。</p> <p>サーチ周波数を1周して動作を終了し、1局でも放送局を検出するとプリセット・メモリの更新を行い、M1からプリセット・スキャンを開始します。</p> <p>プリセット・メモリの更新は検出した放送局数により次のように動作が異なります。</p> <p>○6局以上の放送局を検出したとき</p> <p>6局以上の放送局を検出した場合は、SDの入力レベルの高い順に6局を選択し、周波数の低いほうからプリセット・メモリ・ナンバの小さいメモリに書き込みを行います。</p> <p>○6局未満の放送局を検出したとき</p> <p>6局未満の放送局を検出した場合は、周波数の小さいほうからプリセット・メモリ・ナンバの小さいメモリに書き込みを行います。このとき、余ったプリセット・メモリの内容は変化しません。</p> <p>(b) オートストア・メモリ開始時、ローカル状態のとき</p> <p>現在受信中の周波数からローカル状態でアップ方向にサーチしていき、サーチ周波数が1周した時点で6局以上放送局を検出しなかったときは、DX状態に切り替えてサーチ動作を行います。ローカル状態で6局以上放送局を検出するか、またはDX状態でサーチ周波数を1周すると、オートストア・メモリ動作を終了します。</p> <p>なおサーチ中にこのキーを押すと、オートストア・メモリ動作を終了し、オートストア・メモリを開始したときの周波数を受信します。</p> <p>ローカル状態で6局以上放送局を検出するか、またはDX状態でサーチ周波数を1周してオートストア・メモリ動作を終了し、1局でも放送局を検出した場合のみ、プリセット・メモリを更新し、M1からプリセット・スキャンを開始します。</p> <p>プリセット・メモリの更新は検出した放送局数により次のように動作が異なります。</p> <p>○ローカル状態で6局以上の放送局を検出したとき</p> <p>ローカル状態で6局以上の放送局を検出した場合は、SDの入力レベルの高い順に6局を選択し、周波数の低いほうからプリセット・メモリ・ナンバの小さいメモリに書き込みを行います。</p> <p>○ローカル状態で6局未満の放送局を検出したあと、DX状態で放送局を検出し、あわせて6局以上検出したとき</p> <p>ローカル状態で検出した放送局数にDX状態で検出した放送局数を加えて6局になるように、DX状態で検出したSDの入力レベルの高い放送局を選択します。ただしローカル状態で検出した放送局をDX状態で選択する放送局には含まないようにします。</p> <p>6局の放送局を周波数の小さいほうからプリセット・メモリ・ナンバの小さいメモリに書き込みます。</p>

記号	説明
<p>P.SCAN</p>	<p>○ローカル状態で6局未満の放送局を検出したあと、DX状態で放送局を検出し、あわせて6局未満の放送局を検出したとき</p> <p>DX状態およびローカル状態で検出した放送局が同一周波数の場合は、同一の周波数を2つのメモリに書き込まないように、DX状態で検出した放送局を削除します。</p> <p>6局以下の放送局を周波数の小さいほうからプリセット・メモリ・ナンバの小さいメモリに書き込みます。このとき、余ったプリセット・メモリの内容は変化しません。</p> <p>(2) AUTOLOC=1 (オートローカル機能あり) のとき</p> <p>現在受信中の周波数からローカル状態でアップ方向にサーチしていき、サーチ周波数が1周した時点で6局以上放送局を検出できなかったときは、DX状態に切り替えてサーチ動作を行います。ローカル状態で6局以上放送局を検出するか、またはDX状態でサーチ周波数を1周すると、オートストア・メモリ動作を終了します。</p> <p>ローカル状態でサーチ中にこのキーを押すと、DX状態に切り替え、サーチを開始した周波数からサーチを行います。なおローカル状態で検出した放送局は無効とします (プリセット・メモリ更新時にはローカル状態で検出した放送局を含まないようにします)。</p> <p>なおDX状態でサーチ中にこのキーを押すと、オートストア・メモリ動作を終了し、オートストア・メモリを開始したときの周波数を受信します。</p> <p>ローカル状態で6局以上放送局を検出するか、またはDX状態でサーチ周波数を1周してオートストア・メモリ動作を終了し、1局でも放送局を検出した場合のみ、プリセット・メモリを更新し、M1からプリセット・スキャンを開始します。</p> <p>プリセット・メモリの更新は検出した放送局数により次のように動作が異なります。</p> <p>○ローカル状態で6局以上の放送局を検出したとき</p> <p>ローカル状態で6局以上の放送局を検出した場合は、SDの入力レベルの高い順に6局を選択し、周波数の低いほうからプリセット・メモリ・ナンバの小さいメモリに書き込みを行います。</p> <p>○ローカル状態で6局未満の放送局を検出したあと、DX状態で放送局を検出し、あわせて6局以上の放送局を検出したとき</p> <p>ローカル状態で検出した放送局数にDX状態で検出した放送局数を加えて6局になるように、DX状態で検出したSDの入力レベルの高い放送局を選択します。ただしローカル状態で検出した放送局をDX状態で選択する放送局には含まないようにします。</p> <p>6局の放送局を周波数の小さいほうからプリセット・メモリ・ナンバの小さいメモリに書き込みます。</p>

記号	説 明
<p>P.SCAN</p>	<p>○ローカル状態で6局未満の放送局を検出したあと、DX状態で放送局を検出し、あわせて6局未満の放送局を検出したとき</p> <p>DX状態およびローカル状態で検出した放送局が同一周波数の場合は、同一の周波数を2つのメモリに書き込まないように、DX状態で検出した放送局を削除します。</p> <p>6局以下の放送局を周波数の小さいほうからプリセット・メモリ・ナンバーの小さいメモリに書き込みます。このとき、余ったプリセット・メモリの内容は変化しません。</p> <p>オートストア・メモリ中の各キーの動作は次のようになります。</p>
<p>キー</p>	<p>説 明</p>
<p>P.SCAN</p>	<p>オートストア・メモリ動作を中止し、オートストア・メモリ動作を開始した周波数を受信します。</p> <p>ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。</p>
<p>BAND</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 オートストア・メモリ動作を中止し、オートストア・メモリ動作を開始した周波数からのキーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時 オートストア・メモリ動作は継続します。無効キーとなります。</p>
<p>SCAN UP SCAN DWN SEEK UP SEEK DWN MAN UP MAN DWN VF</p>	<p>オートストア・メモリ動作を中止し、オートストア・メモリ動作を開始した周波数からキーの動作を行います。</p>
<p>RDMONI</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 オートストア・メモリ動作を中止し、オートストア・メモリ動作を開始した周波数からキーの動作を行います。</p> <p>(2) ラジオ・モード時 オートストア・メモリ動作は継続します。無効キーとなります。</p>

記号	説 明																					
P.SCAN	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">キー</th> <th style="text-align: center;">説 明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">LOUD POWER</td> <td>オートストア・メモリ動作は継続します。押したキーの動作を行います。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">LOC</td> <td>初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により、次のように動作が異なります。 (1) AUTOLOC=0のとき LOCAL/DX状態を切り替えます。それまでに検出した放送局は無効となります。 (2) AUTOLOC=1のとき オートストア・メモリ動作は継続します。無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">MONO</td> <td>オートストア・メモリ動作は継続します。キーの動作を行います。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">M1 (TP1) S M6</td> <td> 初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">動 作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">注1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード </td> <td>オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">テープDKスタンバイ・モード</td> <td>オートストア・メモリ動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注2</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td>オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 10px;">注1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき</p> </td> </tr> </tbody> </table>	キー	説 明	LOUD POWER	オートストア・メモリ動作は継続します。押したキーの動作を行います。	LOC	初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により、次のように動作が異なります。 (1) AUTOLOC=0のとき LOCAL/DX状態を切り替えます。それまでに検出した放送局は無効となります。 (2) AUTOLOC=1のとき オートストア・メモリ動作は継続します。無効キーとなります。	MONO	オートストア・メモリ動作は継続します。キーの動作を行います。	M1 (TP1) S M6	初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">動 作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">注1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード </td> <td>オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">テープDKスタンバイ・モード</td> <td>オートストア・メモリ動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注2</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td>オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 10px;">注1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき</p>	KAMS KNR KMTL	モード	動 作	注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード 	オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。	テープDKスタンバイ・モード	オートストア・メモリ動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。	注2	-	オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。
キー	説 明																					
LOUD POWER	オートストア・メモリ動作は継続します。押したキーの動作を行います。																					
LOC	初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により、次のように動作が異なります。 (1) AUTOLOC=0のとき LOCAL/DX状態を切り替えます。それまでに検出した放送局は無効となります。 (2) AUTOLOC=1のとき オートストア・メモリ動作は継続します。無効キーとなります。																					
MONO	オートストア・メモリ動作は継続します。キーの動作を行います。																					
M1 (TP1) S M6	初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">動 作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">注1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード </td> <td>オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">テープDKスタンバイ・モード</td> <td>オートストア・メモリ動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注2</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td>オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 10px;">注1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき</p>	KAMS KNR KMTL	モード	動 作	注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード 	オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。	テープDKスタンバイ・モード	オートストア・メモリ動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。	注2	-	オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。										
KAMS KNR KMTL	モード	動 作																				
注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード 	オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。																				
	テープDKスタンバイ・モード	オートストア・メモリ動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。																				
注2	-	オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。																				

記号	説明						
SEEK UP	オートチューニング（シーク動作）用のキーです。						
SEEK DWN	周波数を1チャンネル・スペースずつアップ（SEEK UP キー）またはダウン（SEEK DWN キー）していき、各受信周波数ごとに放送局の有無（放送局の有無の判定方法は初期設定ダイオードENFMIF, ENAMIFにより決定します）を判定し、放送局あり（VFバンドではVF放送局あり）のときシーク動作を終了します。						
	<p>シーク動作は初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により次のように異なります。</p> <p>(1) AUTOLOC=0（オートローカル機能なし）のとき</p> <p>現在受信中の周波数からサーチ動作を行います。</p> <p>サーチ動作を開始したときのLOCAL/DXの状態ですサーチ動作を行います。なお放送局を検出するまで（VFバンドではVF放送局を検出するまで）はサーチ動作を行います。</p> <p>(2) AUTOLOC=1（オートローカル機能あり）のとき</p> <p>現在受信中の周波数からローカル状態でサーチしていき、サーチ周波数が1周すると、DX状態に切り替え、サーチ動作を行います。以後放送局を検出するまでDX状態でサーチ動作を行います。</p> <p>なおローカル状態でサーチ中にこのキーを押すと、LOCAL/DXはDX状態に、周波数はサーチ動作を開始した周波数になりサーチ動作を開始します。またDX状態でサーチ中にこのキーを押すとサーチ動作を終了し、サーチ動作を開始したときの周波数を受信します。</p>						
	<p>SEEK UP , SEEK DWN キーを使用する場合は初期設定ダイオードAUTO500を0にしてください。</p> <p>AUTO500を1にすると、SEEK UP , SEEK DWN キーは無効となります。</p> <p>シーク動作中の各キーの動作は次のようになります。</p>						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="396 1059 550 1104">キー</th> <th data-bbox="550 1059 1411 1104">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="396 1104 550 1283">SEEK UP</td> <td data-bbox="550 1104 1411 1283"> <p>●シーク・アップ中に SEEK UP キー、シーク・ダウン中に SEEK DWN キーを押したとき</p> <p>シーク動作を中止し、シークを始めたときの周波数に戻ります。</p> <p>ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えず。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="396 1283 550 1462">SEEK DWN</td> <td data-bbox="550 1283 1411 1462"> <p>●シーク・アップ中に SEEK DWN キー、シーク・ダウン中に SEEK UP キーを押したとき</p> <p>キーを押した時点の周波数から、押したキーの動作（シーク・アップ中ならシーク・ダウン）を開始します。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	キー	説明	SEEK UP	<p>●シーク・アップ中に SEEK UP キー、シーク・ダウン中に SEEK DWN キーを押したとき</p> <p>シーク動作を中止し、シークを始めたときの周波数に戻ります。</p> <p>ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えず。</p>	SEEK DWN	<p>●シーク・アップ中に SEEK DWN キー、シーク・ダウン中に SEEK UP キーを押したとき</p> <p>キーを押した時点の周波数から、押したキーの動作（シーク・アップ中ならシーク・ダウン）を開始します。</p>
キー	説明						
SEEK UP	<p>●シーク・アップ中に SEEK UP キー、シーク・ダウン中に SEEK DWN キーを押したとき</p> <p>シーク動作を中止し、シークを始めたときの周波数に戻ります。</p> <p>ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えず。</p>						
SEEK DWN	<p>●シーク・アップ中に SEEK DWN キー、シーク・ダウン中に SEEK UP キーを押したとき</p> <p>キーを押した時点の周波数から、押したキーの動作（シーク・アップ中ならシーク・ダウン）を開始します。</p>						

記号	説明
SEEK UP	
SEEK DWN	
キー	説明
<p>MAN UP</p> <p>MAN DWN</p>	<p>初期設定ダイオードAUTO500の状態により次のように動作が異なります。</p> <p>(1) AUTO500=0のとき キーを押した時点の周波数から、マニュアル・チューニング動作を開始します。</p> <p>(2) AUTO500=1のとき (a) シーク・アップ中に MAN UP キー、シーク・ダウン中に MAN DWN キーを押したとき シーク動作を中止し、シークを始めたときの周波数に戻ります。 ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。 (b) シーク・アップ中に MAN DWN キー、シーク・ダウン中に MAN UP キーを押したとき キーを押した時点の周波数から、押したキーの動作（シーク・アップ中ならシーク・ダウン）を開始します。</p>
<p>SCAN UP</p> <p>SCAN DWN</p> <p>P.SCAN</p>	シーク動作を中止し、キーを押した時点の周波数からキーの動作を行います。
VF	シーク動作を中止し、周波数をシーク動作を開始した周波数に戻し、キーの動作を行います。
BAND	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 シーク動作を中止し、周波数をシーク動作を開始した周波数に戻し、キーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時 シーク動作は継続します。無効キーとなります。</p>
RDMONI	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 シーク動作を中止し、周波数をシーク動作を開始した周波数に戻し、キーの動作を行います。</p> <p>(2) ラジオ・モード時 シーク動作は継続します。無効キーとなります。</p>

記号	説明												
SEEK UP													
SEEK DWN													
キー	説明												
LOUD	シーク動作は継続します。押したキーの動作を行います。												
POWER													
LOC	<p>初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により、次のように動作が異なります。</p> <p>(1) AUTOLOC=0のとき シーク動作は継続します。キーの動作を行います。</p> <p>(2) AUTOLOC=1のとき シーク動作は継続します。無効キーとなります。</p>												
MONO	シーク動作は継続します。キーの動作を行います。												
M1 (TP1)	<p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">注1</td> <td>●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD-DKスタンバイ・モード</td> <td>シーク動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> <tr> <td>テープDKスタンバイ・モード</td> <td>シーク動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注2</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>シーク動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき</p>		KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD-DKスタンバイ・モード	シーク動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。	テープDKスタンバイ・モード	シーク動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。	注2	—	シーク動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。
KAMS KNR KMTL	モード	動作											
注1	●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD-DKスタンバイ・モード	シーク動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。											
	テープDKスタンバイ・モード	シーク動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。											
注2	—	シーク動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。											
M6													

記号	説明				
<p>SCAN UP</p> <p>SCAN DWN</p>	<p>オートチューニング（スキャン動作）用のキーです。</p> <p>周波数を1チャンネル・スペースずつアップ（ SCAN UP キー）またはダウン（ SCAN DWN キー）していき、各受信周波数ごとに放送局の有無（周波数カウンタおよびSD信号）を検出し（シーク動作）、放送局ありと判断すると、その周波数を5秒間保持します。VFバンドではシーク動作と同様にSK信号の有無を検出します。この5秒の間に何の操作もされなければ再度シーク動作を行い、次の放送局を5秒間ずつ順次受信していきます（スキャン動作）。</p> <p>5秒間のホールド中は、周波数表示を1Hz（デューティ50%）で点滅します。</p> <p>5秒のホールドが終了するとピーブを出力します。</p> <p>シーク動作については SEEK UP , SEEK DWN キーと同様の動作になります。</p> <p>シーク動作（5秒のホールド時以外）中の各キーの動作は次のようになります。</p>				
<p>SCAN UP</p> <p>SCAN DWN</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="384 645 540 689">キー</th> <th data-bbox="540 645 1403 689">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="384 689 540 1008"> <p>SCAN UP</p> <p>SCAN DWN</p> </td> <td data-bbox="540 689 1403 1008"> <p>●スキャン・アップ中に SCAN UP キー、スキャン・ダウン中に SCAN DWN キーを押したとき</p> <p>スキャン動作を中止し、スキャンを始めたときの周波数に戻ります。</p> <p>ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。</p> <p>●スキャン・アップ中に SCAN DWN キー、スキャン・ダウン中に SCAN UP キーを押したとき</p> <p>キーが押されたときの周波数から、押されたキーの動作に移ります。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	キー	説明	<p>SCAN UP</p> <p>SCAN DWN</p>	<p>●スキャン・アップ中に SCAN UP キー、スキャン・ダウン中に SCAN DWN キーを押したとき</p> <p>スキャン動作を中止し、スキャンを始めたときの周波数に戻ります。</p> <p>ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。</p> <p>●スキャン・アップ中に SCAN DWN キー、スキャン・ダウン中に SCAN UP キーを押したとき</p> <p>キーが押されたときの周波数から、押されたキーの動作に移ります。</p>
キー	説明				
<p>SCAN UP</p> <p>SCAN DWN</p>	<p>●スキャン・アップ中に SCAN UP キー、スキャン・ダウン中に SCAN DWN キーを押したとき</p> <p>スキャン動作を中止し、スキャンを始めたときの周波数に戻ります。</p> <p>ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。</p> <p>●スキャン・アップ中に SCAN DWN キー、スキャン・ダウン中に SCAN UP キーを押したとき</p> <p>キーが押されたときの周波数から、押されたキーの動作に移ります。</p>				
<p>SEEK UP</p> <p>SEEK DWN</p> <p>MAN UP</p> <p>MAN DWN</p> <p>P.SCAN</p>	<p>スキャン動作を中止して、キーを押した時点の周波数からキーの動作を行います。</p>				
<p>VF</p>	<p>スキャン動作を中止し、周波数をシーク動作を開始した周波数に戻し、キーの動作を行います。</p>				
<p>BAND</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時</p> <p>スキャン動作を中止し、周波数をスキャン動作を開始した周波数（スキャン動作により放送局を検出し、ホールド動作を行った場合は、ホールドしたときの周波数）に戻し、キーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時</p> <p>スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>				
<p>RDMONI</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時</p> <p>スキャン動作を中止し、周波数をスキャン動作を開始した周波数（スキャン動作により放送局を検出し、ホールド動作を行った場合は、ホールドしたときの周波数）に戻し、キーの動作を行います。</p> <p>(2) ラジオ・モード時</p> <p>スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>				

記号	説明																							
SCAN UP	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th data-bbox="388 248 539 293">キー</th> <th data-bbox="539 248 1373 293">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="388 293 539 338">LOUD</td> <td data-bbox="539 293 1373 338">スキャン動作は継続します。押したキーの動作を行います。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 338 539 383">POWER</td> <td data-bbox="539 338 1373 383">スキャン動作は継続します。押したキーの動作を行います。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 383 539 607">LOC</td> <td data-bbox="539 383 1373 607"> 初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により、次のように動作が異なります。 (1) AUTOLOC=0のとき スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。 (2) AUTOLOC=1のとき スキャン動作は継続します。無効キーとなります。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 607 539 651">MONO</td> <td data-bbox="539 607 1373 651">スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="388 651 539 1458">M1 (TP1) S M6</td> <td data-bbox="539 651 1373 1458"> 初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th data-bbox="577 741 675 875">KAMS KNR KMTL</th> <th data-bbox="675 741 937 875">モード</th> <th data-bbox="937 741 1334 875">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="577 875 675 1279" rowspan="2">注1</td> <td data-bbox="675 875 937 1055"> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD-DKスタンバイ・モード </td> <td data-bbox="937 875 1334 1055">スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="675 1055 937 1279">テープDKスタンバイ・モード</td> <td data-bbox="937 1055 1334 1279">スキャン動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="577 1279 675 1368">注2</td> <td data-bbox="675 1279 937 1368">—</td> <td data-bbox="937 1279 1334 1368">スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 10px;">注1. いずれかのスイッチがオンのとき 注2. すべてのスイッチがオフのとき</p> </td> </tr> </tbody> </table>	キー	説明	LOUD	スキャン動作は継続します。押したキーの動作を行います。	POWER	スキャン動作は継続します。押したキーの動作を行います。	LOC	初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により、次のように動作が異なります。 (1) AUTOLOC=0のとき スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。 (2) AUTOLOC=1のとき スキャン動作は継続します。無効キーとなります。	MONO	スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。	M1 (TP1) S M6	初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th data-bbox="577 741 675 875">KAMS KNR KMTL</th> <th data-bbox="675 741 937 875">モード</th> <th data-bbox="937 741 1334 875">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="577 875 675 1279" rowspan="2">注1</td> <td data-bbox="675 875 937 1055"> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD-DKスタンバイ・モード </td> <td data-bbox="937 875 1334 1055">スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="675 1055 937 1279">テープDKスタンバイ・モード</td> <td data-bbox="937 1055 1334 1279">スキャン動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="577 1279 675 1368">注2</td> <td data-bbox="675 1279 937 1368">—</td> <td data-bbox="937 1279 1334 1368">スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 10px;">注1. いずれかのスイッチがオンのとき 注2. すべてのスイッチがオフのとき</p>	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD-DKスタンバイ・モード 	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。	テープDKスタンバイ・モード	スキャン動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。	注2	—	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。
キー		説明																						
LOUD		スキャン動作は継続します。押したキーの動作を行います。																						
POWER		スキャン動作は継続します。押したキーの動作を行います。																						
LOC		初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により、次のように動作が異なります。 (1) AUTOLOC=0のとき スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。 (2) AUTOLOC=1のとき スキャン動作は継続します。無効キーとなります。																						
MONO		スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。																						
M1 (TP1) S M6		初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th data-bbox="577 741 675 875">KAMS KNR KMTL</th> <th data-bbox="675 741 937 875">モード</th> <th data-bbox="937 741 1334 875">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="577 875 675 1279" rowspan="2">注1</td> <td data-bbox="675 875 937 1055"> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD-DKスタンバイ・モード </td> <td data-bbox="937 875 1334 1055">スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="675 1055 937 1279">テープDKスタンバイ・モード</td> <td data-bbox="937 1055 1334 1279">スキャン動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="577 1279 675 1368">注2</td> <td data-bbox="675 1279 937 1368">—</td> <td data-bbox="937 1279 1334 1368">スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 10px;">注1. いずれかのスイッチがオンのとき 注2. すべてのスイッチがオフのとき</p>	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD-DKスタンバイ・モード 	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。	テープDKスタンバイ・モード	スキャン動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。	注2	—	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。											
KAMS KNR KMTL		モード	動作																					
注1		<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD-DKスタンバイ・モード 	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。																					
		テープDKスタンバイ・モード	スキャン動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。																					
注2	—	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。																						

記号	説明
SCAN UP	5秒間のホールド中の各キーの動作は次のようになります。
SCAN DWN	
キー	説明
SCAN UP	<ul style="list-style-type: none"> ●スキャン・アップ中に SCAN UP キー、スキャン・ダウン中に SCAN DWN キーを押したとき
SCAN DWN	スキャン動作を中止し、ホールド中の周波数を保持します。
SCAN UP	<ul style="list-style-type: none"> ●スキャン・アップ中に SCAN DWN キー、スキャン・ダウン中に SCAN UP キーを押したとき
SCAN DWN	押ししたキーの動作に移ります。
SEEK UP	スキャン動作を中止して、ホールド中の周波数からキーの動作を行います。
SEEK DWN	
MAN UP	
MAN DWN	
P.SCAN	
VF	
BAND	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 スキャン動作を中止し、ホールド中の周波数からキーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時 スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>
RDMONI	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 スキャン動作を中止し、ホールド中の周波数からキーの動作を行います。</p> <p>(2) ラジオ・モード時 スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>
LOUD	スキャン動作は継続します。押ししたキーの動作を行います。
POWER	
LOC	<p>初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により、次のように動作が異なります。</p> <p>(1) AUTOLOC=0のとき スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</p> <p>(2) AUTOLOC=1のとき スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>

記号	説明
SCAN UP	
SCAN DWN	
MONO	<p>キー 説明</p> <p>スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</p>
ME	<p>初期設定ダイオードM2Sの状態により、次のように動作が異なります。</p> <p>(1) M2S=1のとき スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p> <p>(2) M2S=0のとき 次のようにキーを押すごとにメモリ書き込み可能状態を反転します。</p> <p>(a)</p> <p>表示例 90.0 90.1 90.1 90.1 90.2 局 点減 点減 点減</p> <p>(b)</p> <p>表示例 90.0 90.1 90.1 90.1 90.2 局 点減 点減 点減</p>
M1 (TP1)	<p>初期設定ダイオードM2Sの状態により、次のように動作が異なります。</p>
M6	<p>(1) M2S=0のとき メモリ書き込み可能状態、ホールド状態、初期設定ダイオードKAMS、KNR、KMTLの状態およびモードにより次のように動作が異なります。</p>

記号	説明																								
SCAN UP																									
SCAN DWN																									
<p>キー</p> <p>M1 (TP1)</p> <p>5</p> <p>M6</p>	<p>説明</p> <p>(a) ホールド中の動作</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="588 331 686 465">KAMS KNR KMTL</th> <th data-bbox="686 331 953 465">モード</th> <th data-bbox="953 331 1340 465">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="588 465 686 649">注1</td> <td data-bbox="686 465 953 649"> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード </td> <td data-bbox="953 465 1340 649"> スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="588 649 686 873">注1</td> <td data-bbox="686 649 953 873">テープDKスタンバイ・モード</td> <td data-bbox="953 649 1340 873"> スキャン動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="588 873 686 958">注2</td> <td data-bbox="686 873 953 958">—</td> <td data-bbox="953 873 1340 958">スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき</p> <p>(b) メモリ書き込み可能状態の動作</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="588 1142 686 1276">KAMS KNR KMTL</th> <th data-bbox="686 1142 953 1276">モード</th> <th data-bbox="953 1142 1340 1276">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="588 1276 686 1460">注1</td> <td data-bbox="686 1276 953 1460"> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード </td> <td data-bbox="953 1276 1340 1460"> キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、2秒後にスキャン動作を再開します。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="588 1460 686 1684">注1</td> <td data-bbox="686 1460 953 1684">テープDKスタンバイ・モード</td> <td data-bbox="953 1460 1340 1684"> メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="588 1684 686 1818">注2</td> <td data-bbox="686 1684 953 1818">—</td> <td data-bbox="953 1684 1340 1818"> キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、2秒後にスキャン動作を再開します。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>注1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき</p>	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード 	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。	注1	テープDKスタンバイ・モード	スキャン動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。	注2	—	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード 	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、2秒後にスキャン動作を再開します。	注1	テープDKスタンバイ・モード	メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。	注2	—	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、2秒後にスキャン動作を再開します。
KAMS KNR KMTL	モード	動作																							
注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード 	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。																							
注1	テープDKスタンバイ・モード	スキャン動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。																							
注2	—	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。																							
KAMS KNR KMTL	モード	動作																							
注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード 	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、2秒後にスキャン動作を再開します。																							
注1	テープDKスタンバイ・モード	メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。																							
注2	—	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、2秒後にスキャン動作を再開します。																							

記号	説明																				
SCAN UP	<table border="1" data-bbox="377 248 1357 2040"> <thead> <tr> <th data-bbox="377 248 529 293">キー</th> <th data-bbox="529 248 1357 293">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="377 293 529 696"> 例 シーク 5 sec未満 5 sec未満 2 sec シーク キー操作 局 あ ME M1 (TP1) り 表示例 90.0 90.1 90.11CH 90.11CH 90.2 点減 点減 点減 </td> <td data-bbox="529 293 1357 696"> (2) M2S=1のとき 初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="377 696 529 2040"> M1 (TP1) ↓ M6 </td> <td data-bbox="529 696 1357 2040"> <table border="1" data-bbox="566 831 1321 2000"> <thead> <tr> <th data-bbox="566 831 664 965">KAMS KNR KMTL</th> <th data-bbox="664 831 879 965">モード</th> <th data-bbox="879 831 1321 965">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="566 965 664 1368">注1</td> <td data-bbox="664 965 879 1368"> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD-DKスタンバイ・モード </td> <td data-bbox="879 965 1321 1368"> スキャン動作を中止します。 キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。 ○ 2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。 ○ 2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="566 1368 664 1592"></td> <td data-bbox="664 1368 879 1592"> テープDK スタンバイ・モード </td> <td data-bbox="879 1368 1321 1592"> スキャン動作を継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="566 1592 664 2000">注2</td> <td data-bbox="664 1592 879 2000">—</td> <td data-bbox="879 1592 1321 2000"> スキャン動作を中止します。 キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。 ○ 2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。 ○ 2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。 </td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="150 2040 341 2072"></td> <td data-bbox="341 2040 1382 2072"> 注1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき </td> </tr> </tbody> </table>	キー	説明	例 シーク 5 sec未満 5 sec未満 2 sec シーク キー操作 局 あ ME M1 (TP1) り 表示例 90.0 90.1 90.11CH 90.11CH 90.2 点減 点減 点減	(2) M2S=1のとき 初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。	M1 (TP1) ↓ M6	<table border="1" data-bbox="566 831 1321 2000"> <thead> <tr> <th data-bbox="566 831 664 965">KAMS KNR KMTL</th> <th data-bbox="664 831 879 965">モード</th> <th data-bbox="879 831 1321 965">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="566 965 664 1368">注1</td> <td data-bbox="664 965 879 1368"> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD-DKスタンバイ・モード </td> <td data-bbox="879 965 1321 1368"> スキャン動作を中止します。 キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。 ○ 2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。 ○ 2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="566 1368 664 1592"></td> <td data-bbox="664 1368 879 1592"> テープDK スタンバイ・モード </td> <td data-bbox="879 1368 1321 1592"> スキャン動作を継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="566 1592 664 2000">注2</td> <td data-bbox="664 1592 879 2000">—</td> <td data-bbox="879 1592 1321 2000"> スキャン動作を中止します。 キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。 ○ 2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。 ○ 2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。 </td> </tr> </tbody> </table>	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD-DKスタンバイ・モード 	スキャン動作を中止します。 キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。 ○ 2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。 ○ 2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。		テープDK スタンバイ・モード	スキャン動作を継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。	注2	—	スキャン動作を中止します。 キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。 ○ 2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。 ○ 2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。		注1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき
キー		説明																			
例 シーク 5 sec未満 5 sec未満 2 sec シーク キー操作 局 あ ME M1 (TP1) り 表示例 90.0 90.1 90.11CH 90.11CH 90.2 点減 点減 点減	(2) M2S=1のとき 初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。																				
M1 (TP1) ↓ M6	<table border="1" data-bbox="566 831 1321 2000"> <thead> <tr> <th data-bbox="566 831 664 965">KAMS KNR KMTL</th> <th data-bbox="664 831 879 965">モード</th> <th data-bbox="879 831 1321 965">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="566 965 664 1368">注1</td> <td data-bbox="664 965 879 1368"> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD-DKスタンバイ・モード </td> <td data-bbox="879 965 1321 1368"> スキャン動作を中止します。 キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。 ○ 2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。 ○ 2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="566 1368 664 1592"></td> <td data-bbox="664 1368 879 1592"> テープDK スタンバイ・モード </td> <td data-bbox="879 1368 1321 1592"> スキャン動作を継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="566 1592 664 2000">注2</td> <td data-bbox="664 1592 879 2000">—</td> <td data-bbox="879 1592 1321 2000"> スキャン動作を中止します。 キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。 ○ 2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。 ○ 2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。 </td> </tr> </tbody> </table>	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD-DKスタンバイ・モード 	スキャン動作を中止します。 キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。 ○ 2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。 ○ 2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。		テープDK スタンバイ・モード	スキャン動作を継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。	注2	—	スキャン動作を中止します。 キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。 ○ 2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。 ○ 2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。								
KAMS KNR KMTL	モード	動作																			
注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD-DKスタンバイ・モード 	スキャン動作を中止します。 キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。 ○ 2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。 ○ 2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。																			
	テープDK スタンバイ・モード	スキャン動作を継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。																			
注2	—	スキャン動作を中止します。 キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。 ○ 2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。 ○ 2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。																			
	注1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき																				

記号	説明
SCAN UP	
SCAN DWN	
<p>キー</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px;">M1 (TP1)</div> <p>シーク</p> <p>局</p> <p>キー操作</p> <p>あ</p> <p>り</p> <p>表示例</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="text-align: center; margin-right: 10px;">90.0</div> <div style="text-align: center; margin-right: 10px;"> 90.1 点減 </div> <div style="text-align: center; margin-right: 10px;"> 90.1 CH 点減 </div> <div style="text-align: center; margin-right: 10px;"> 90.2 ↓ M1の内容 </div> </div>	<p>説明</p> <p>例1. キーを2秒以内に離したとき</p> <p>キーを離れた時点で押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を受信し、スキャン動作を解除します。</p> <p>例2. キーを2秒以上押し続けたとき</p> <p>キーを押し続けて2秒後に、押したキーに対応するプリセット・メモリにホールド中の周波数を書き込みます。書き込み終了2秒後にホールド状態を解除し、次の放送局をサーチ（シーク動作）します。</p>

記号	説明											
<p>BAND</p>	<p>受信バンド切り替え用のキーです。</p> <p>ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時、有効になります。</p> <p>このキーを押すごとに次のようにシーケンシャルにバンドを切り替えます。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>← FM1 → FM2 → FM3 → MW1 → MW2 → LW →</p> </div> <p>ただし、受信地域を設定する初期設定ダイオードAREA1, AREA2, AREA3および受信バンドを設定する初期設定ダイオードENFM, DISFM3, ENMW2, DISLWにより禁止されたバンドは除いて切り替わります。</p> <p>同一バンド (FM, MW) 内のバンド切り替え (FM1 → FM2 → FM3, MW1 → MW2) 時はバンド表示とラスト・チャンネルが変化します。</p> <p>ラジオ・モードのVFバンド受信中に BAND キーを押すと、VFバンドを解除し、VFバンドを受信する前のバンドに復帰します。</p> <p>テープ・モード、CDモード、テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード、テープDKオン・モード、CD・DKオン・モード時、BAND キーは無効となります。</p>											
<p>ME</p>	<p>ラジオ・モードで周波数表示中はプリセット・メモリ書き込み可能状態設定用キーとして、時計表示中 (CE端子=ハイ・レベルであるとき) であれば、MAN UP、MAN DWN キーとともに用いて時計調整用キーとして使用します。</p> <p>初期設定ダイオードM2Sにより次のように動作が異なります。</p> <p>(1) M2S=0のとき</p> <p style="padding-left: 20px;">プリセット・メモリ書き込み可能状態および時計調整用キーとして動作します。</p> <p>(a) 周波数表示のとき</p> <p style="padding-left: 20px;">プリセット・メモリ書き込み可能状態設定用キーとして使用します。</p> <p style="padding-left: 20px;">このキーを押すと、押した時点から5秒間プリセット・メモリ書き込み可能状態となります。</p> <p style="padding-left: 20px;">プリセット・メモリ書き込み可能状態中は“CH”表示が1Hz (デューティ50%) で点滅します。またプリセット・メモリを受信中であれば、プリセット・メモリ・ナンバ表示も同様に点滅します。</p> <p style="padding-left: 20px;">シーク動作中 (スキャン時のシーク動作中も含む) はこのキーは無効となります。ただしプリセット・スキャンおよびスキャン動作中の5秒間のホールド時は有効になります。</p> <p style="padding-left: 20px;">プリセット・メモリ書き込み可能状態中の他のキーの動作は次のようになります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">キー</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SCAN UP</td> <td rowspan="8" style="vertical-align: middle; text-align: center;">プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除し、各キーの動作を行います。</td> </tr> <tr> <td>SCAN DWN</td> </tr> <tr> <td>SEEK UP</td> </tr> <tr> <td>SEEK DWN</td> </tr> <tr> <td>MAN UP</td> </tr> <tr> <td>MAN DWN</td> </tr> <tr> <td>VF</td> </tr> <tr> <td>P.SCAN</td> </tr> </tbody> </table>	キー	説明	SCAN UP	プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除し、各キーの動作を行います。	SCAN DWN	SEEK UP	SEEK DWN	MAN UP	MAN DWN	VF	P.SCAN
キー	説明											
SCAN UP	プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除し、各キーの動作を行います。											
SCAN DWN												
SEEK UP												
SEEK DWN												
MAN UP												
MAN DWN												
VF												
P.SCAN												

記号		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">ME</div>	キー	説明
	BAND	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除し, キーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープDKオン・モード, CD・DKオン・モード時 プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。無効キーとなります。</p>
	RDMONI	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープDKオン・モード, CD・DKオン・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除し, キーの動作を行います。</p> <p>(2) ラジオ・モード時 プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。無効キーとなります。</p>
	LOUD	プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。キーの動作を行います。
	POWER	
	LOC	<p>初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により, 次のように動作が異なります。</p> <p>(1) AUTOLOC=0のとき プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。キーの動作を行います。</p> <p>(2) AUTOLOC=1のとき プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。無効キーとなります。</p>
	MONO	プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。キーの動作を行います。

記号	説明																							
<p style="text-align: center;">ME</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">キー</th> <th colspan="2" style="width: 90%;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td colspan="2">初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="width: 40%;">モード</th> <th style="width: 40%;">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">注1</td> <td>●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●テープDKモード ●CD・DKモード ●CD・DKスタンバイ・モード</td> <td>キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。</td> </tr> <tr> <td>テープDKスタンバイ・モード</td> <td>プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注2</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。</td> </tr> </tbody> </table> </td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">M1 (TP1) ↓ M6</td> <td colspan="2">注1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき</td> </tr> </tbody> </table> <p>プリセット・メモリ書き込み可能状態中にラジオをオフし、再びオンすると（テープ、CDモード切り替えも含む）書き込み可能状態を解除します。</p> <p>(b) テープ表示または “[]” 表示のとき 無効となります。</p> <p>(c) 時計表示のとき 時計調整用のキーとして使用します。</p> <p style="text-align: center;">ME キーを押し続けている間に MAN UP , MAN DWN キーを押すことにより、それぞれ次のように分桁、時桁の調整を行います。</p> <p>●時間調整 MAN DWN キーを押すごとに1時間ずつ進みます。キーを0.5秒以上押し続けると、キーを離すまで4時間/秒（250 msに1時間）の速さで連続送りをします。 分桁および秒カウント値、運針動作には影響を与えません。</p> <p>●分桁調整 MAN UP キーを押すごとに1分ずつ進みます。キーを0.5秒以上押し続けると、キーを離すまで8分/秒（125 msに1分）の速さで連続送りをします。 時桁への繰り上げはありません。また調整するごとに秒カウントはリセットされます。</p>	キー	説明			初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="width: 40%;">モード</th> <th style="width: 40%;">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">注1</td> <td>●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●テープDKモード ●CD・DKモード ●CD・DKスタンバイ・モード</td> <td>キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。</td> </tr> <tr> <td>テープDKスタンバイ・モード</td> <td>プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注2</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。</td> </tr> </tbody> </table>	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●テープDKモード ●CD・DKモード ●CD・DKスタンバイ・モード	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。	テープDKスタンバイ・モード	プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。	注2	—	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。		M1 (TP1) ↓ M6	注1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき	
キー	説明																							
	初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。																							
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="width: 40%;">モード</th> <th style="width: 40%;">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">注1</td> <td>●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●テープDKモード ●CD・DKモード ●CD・DKスタンバイ・モード</td> <td>キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。</td> </tr> <tr> <td>テープDKスタンバイ・モード</td> <td>プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注2</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。</td> </tr> </tbody> </table>	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●テープDKモード ●CD・DKモード ●CD・DKスタンバイ・モード	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。	テープDKスタンバイ・モード	プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。	注2	—	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。												
KAMS KNR KMTL	モード	動作																						
注1	●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●テープDKモード ●CD・DKモード ●CD・DKスタンバイ・モード	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。																						
	テープDKスタンバイ・モード	プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。																						
注2	—	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。																						
M1 (TP1) ↓ M6	注1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき																							

記号	説明
<p style="text-align: center;">ME</p>	<p>(2) M2S = 1 のとき</p> <p>表示切り替えおよび時計調整用キーとして動作します。</p> <p>(a) 周波数表示, テープ表示, または “[]” 表示のとき</p> <p>初期設定ダイオード NOCLK = 1 のとき, 無効となります。</p> <p>また, テープ DK オン・モードまたは CD・DK オン・モードのときも無効となります。</p> <p>NOCLK = 0 のとき ME キーを押し離すと, 表示を切り替えます。表示切り替え動作については DISP キーの項を参照してください。</p> <p>(b) モードにかかわらず時計表示のとき</p> <p>時計調整用のキーとして使用します。</p> <p>ME キーを押し続けている間に MAN UP , MAN DWN キーを押すことにより, それぞれ次のように分桁, 時桁の調整を行います。</p> <p>●時間調整</p> <p>MAN DWN キーを押すごとに 1 時間ずつ進みます。キーを 0.5 秒以上押し続けると, キーを離すまで 4 時間/秒 (250 ms に 1 時間) の速さで連続送りをします。</p> <p>分桁および秒カウント値, 運針動作には影響を与えません。</p> <p>●分桁調整</p> <p>MAN UP キーを押すごとに 1 分ずつ進みます。キーを 0.5 秒以上押し続けると, キーを離すまで 8 分/秒 (125 ms に 1 分) の速さで連続送りをします。</p> <p>時桁への繰り上げはありません。また調整するごとに秒カウントはリセットされます。</p> <p>時計調整を行わずに ME キーを離すと表示を切り替えます。表示切り替え動作については DISP キーの項を参照してください。</p>

記号	説明									
<p>MAN UP</p> <p>MAN DWN</p>	<p>ラジオ・モード時に受信周波数のアップ/ダウン用キーとして、時計表示中は、ME キーとともに用いて時計調整用キーとして使用します。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープDKオン・モード, CD・DKオン・モード時 初期設定ダイオードAUTO500により次のように動作します。</p> <table border="1" data-bbox="381 427 1365 875"> <thead> <tr> <th data-bbox="381 427 529 472">AUTO500</th> <th data-bbox="529 427 1365 472">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="381 472 529 651">0</td> <td data-bbox="529 472 1365 651"> キーを1回押すごとに、周波数が1ステップ(1チャンネル・スペース)分アップ(MAN UP キー)またはダウン(MAN DWN キー)します。 キーを0.5秒以上押し続けると、早送りモードとなり50msステップの速さで連続送りします。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="381 651 529 875">1</td> <td data-bbox="529 651 1365 875"> キーを1回押すごとに、周波数が1ステップ(1チャンネル・スペース)分アップ(MAN UP キー)またはダウン(MAN DWN キー)します。 キーを0.5秒以上押し続けると、0.5秒たった時点でシーク動作(MAN UP キーならシーク・アップ, MAN DWN キーならシーク・ダウン)を始めます。このときのシーク動作はSEEK UP, SEEK DWN キーと同様になります。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1:ダイオードでショート 0:オープン)</p> <p>(2) テープ・モードの“TAPE”表示またはCDモード“[]”表示中 無効となります。</p> <p>(3) 時計表示中 時計表示中でかつME キーが先に押され続けているときに,MAN UP, MAN DWN キーを押すことにより、それぞれ分桁、時桁の調整が行えます。 分桁、時桁の調整方法についてはME キーの項を参照してください。</p>	AUTO500	説明	0	キーを1回押すごとに、周波数が1ステップ(1チャンネル・スペース)分アップ(MAN UP キー)またはダウン(MAN DWN キー)します。 キーを0.5秒以上押し続けると、早送りモードとなり50msステップの速さで連続送りします。	1	キーを1回押すごとに、周波数が1ステップ(1チャンネル・スペース)分アップ(MAN UP キー)またはダウン(MAN DWN キー)します。 キーを0.5秒以上押し続けると、0.5秒たった時点でシーク動作(MAN UP キーならシーク・アップ, MAN DWN キーならシーク・ダウン)を始めます。このときのシーク動作は SEEK UP , SEEK DWN キーと同様になります。			
AUTO500	説明									
0	キーを1回押すごとに、周波数が1ステップ(1チャンネル・スペース)分アップ(MAN UP キー)またはダウン(MAN DWN キー)します。 キーを0.5秒以上押し続けると、早送りモードとなり50msステップの速さで連続送りします。									
1	キーを1回押すごとに、周波数が1ステップ(1チャンネル・スペース)分アップ(MAN UP キー)またはダウン(MAN DWN キー)します。 キーを0.5秒以上押し続けると、0.5秒たった時点でシーク動作(MAN UP キーならシーク・アップ, MAN DWN キーならシーク・ダウン)を始めます。このときのシーク動作は SEEK UP , SEEK DWN キーと同様になります。									
<p>LOUD</p>	<p>LOUD (ラウドネス) コントロール用のキーです。 ラジオ, テープ, CDモードで有効となります。 このキーを押すごとにラウドネスのオン/オフ状態を切り替えます。 ラウドネス状態と“LOUD”表示状態およびLOUD端子の出力状態を次に示します。</p> <table border="1" data-bbox="381 1368 950 1503"> <thead> <tr> <th data-bbox="381 1368 573 1413">ラウドネス状態</th> <th data-bbox="573 1368 762 1413">“LOUD”表示</th> <th data-bbox="762 1368 950 1413">LOUD端子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="381 1413 573 1458">ON</td> <td data-bbox="573 1413 762 1458">点灯</td> <td data-bbox="762 1413 950 1458">ハイ・レベル</td> </tr> <tr> <td data-bbox="381 1458 573 1503">OFF</td> <td data-bbox="573 1458 762 1503">消灯</td> <td data-bbox="762 1458 950 1503">ロウ・レベル</td> </tr> </tbody> </table> <p>ラジオ, テープ, CDのモード切り替えを行ってもラウドネス状態は保持されます。</p>	ラウドネス状態	“LOUD”表示	LOUD端子	ON	点灯	ハイ・レベル	OFF	消灯	ロウ・レベル
ラウドネス状態	“LOUD”表示	LOUD端子								
ON	点灯	ハイ・レベル								
OFF	消灯	ロウ・レベル								

記号	説明												
<p>LOC</p>	<p>ローカル (LOCAL/DX) コントロール用のキーです。</p> <p>ラジオ・モード、CDラジオ・モニタ・モード、CD・DKスタンバイ・モード、CD・DKオン・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、テープDKスタンバイ・モード、テープDKオン・モードで初期設定ダイオード AUTOLOC=0のとき有効になります。</p> <p>キーを押すごとにLOCAL/DX状態を切り替えます。</p> <p>LOCAL/DX状態と“LOC”表示状態およびLOC端子の出力状態を次に示します。</p> <table border="1" data-bbox="377 472 945 607"> <thead> <tr> <th>LOCAL/DX状態</th> <th>“LOC”表示</th> <th>LOC端子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>LOCAL</td> <td>点灯</td> <td>ハイ・レベル^注</td> </tr> <tr> <td>DX</td> <td>消灯</td> <td>ロウ・レベル</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 ハイ・レベルを出力するのはオートチューニング時のみで、オートチューニング時以外はロウ・レベルを出力します。</p>	LOCAL/DX状態	“LOC”表示	LOC端子	LOCAL	点灯	ハイ・レベル ^注	DX	消灯	ロウ・レベル			
LOCAL/DX状態	“LOC”表示	LOC端子											
LOCAL	点灯	ハイ・レベル ^注											
DX	消灯	ロウ・レベル											
<p>MONO</p>	<p>MONO (モノラル) /STEREOコントロール用のキーです。</p> <p>ラジオ・モード、CDラジオ・モニタ・モード、CD・DKスタンバイ・モード、CD・DKオン・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、テープDKスタンバイ・モード、テープDKオン・モードで、FM, VFまたはMWバンド選択時有効になります (MWバンドは初期設定ダイオードMWS=1でステレオ放送対応時のみ有効になります)。</p> <p>キーを押すごとにMONO/STEREO状態を切り替えます。</p> <p>MONO/STEREO状態と“ST”表示状態、“MONO”表示状態、およびMONO/NR端子の出力状態を次に示します。</p> <table border="1" data-bbox="377 1099 1172 1234"> <thead> <tr> <th>MONO/STEREO状態</th> <th>“ST”表示</th> <th>“MONO”表示</th> <th>MONO/NR端子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MONO</td> <td>消灯</td> <td>点灯</td> <td>ハイ・レベル</td> </tr> <tr> <td>STEREO</td> <td>点灯</td> <td>消灯</td> <td>ロウ・レベル</td> </tr> </tbody> </table>	MONO/STEREO状態	“ST”表示	“MONO”表示	MONO/NR端子	MONO	消灯	点灯	ハイ・レベル	STEREO	点灯	消灯	ロウ・レベル
MONO/STEREO状態	“ST”表示	“MONO”表示	MONO/NR端子										
MONO	消灯	点灯	ハイ・レベル										
STEREO	点灯	消灯	ロウ・レベル										
<p>MTL</p>	<p>MTL (METAL) コントロール用のキーです。</p> <p>ラジオ・モード、テープDKスタンバイ・モード、テープDKオン・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モードで有効となります。このキーを押すごとにMETALのオン/オフ状態を切り替えます。</p> <p>METALのオン/オフ状態と“METAL”表示状態およびMETAL端子の出力状態を次に示します。</p> <table border="1" data-bbox="377 1458 945 1592"> <thead> <tr> <th>METAL状態</th> <th>“METAL”表示</th> <th>METAL端子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ON</td> <td>点灯</td> <td>ハイ・レベル</td> </tr> <tr> <td>OFF</td> <td>消灯</td> <td>ロウ・レベル</td> </tr> </tbody> </table>	METAL状態	“METAL”表示	METAL端子	ON	点灯	ハイ・レベル	OFF	消灯	ロウ・レベル			
METAL状態	“METAL”表示	METAL端子											
ON	点灯	ハイ・レベル											
OFF	消灯	ロウ・レベル											

記号	説明									
<p>NR</p>	<p>NR (ノイズ・リダクション) コントロール用のキーです。</p> <p>テープ・モード、テープDKスタンバイ・モード、テープDKオン・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モードで有効となります。このキーを押すごとにNRのオン/オフ状態を切り替えます。</p> <p>NRのオン/オフ状態と“NR”表示状態およびNR/MONO端子の出力状態を次に示します。</p> <table border="1" data-bbox="396 383 961 517"> <thead> <tr> <th>NR状態</th> <th>“NR”表示</th> <th>NR/MONO端子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ON</td> <td>点灯</td> <td>ハイ・レベル^注</td> </tr> <tr> <td>OFF</td> <td>消灯</td> <td>ロウ・レベル^注</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 テープDKオン・モードおよびテープ・ラジオ・モニタ・モードについてはNR/MONO端子はMONO/STEREO状態出力端子として動作しますので、MONO/STEREO状態に対応した出力レベルとなります。</p>	NR状態	“NR”表示	NR/MONO端子	ON	点灯	ハイ・レベル ^注	OFF	消灯	ロウ・レベル ^注
NR状態	“NR”表示	NR/MONO端子								
ON	点灯	ハイ・レベル ^注								
OFF	消灯	ロウ・レベル ^注								
<p>AMS</p>	<p>AMS (Auto Music Search) コントロール用のキーです。</p> <p>テープ・モード、テープDKスタンバイ・モード、テープDKオン・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モードで有効となります。このキーを押すごとにAMSのオン/オフ状態を切り替えます。</p> <p>AMSのオン/オフ状態と“AMS”表示状態およびAMS端子の出力状態を次に示します。</p> <table border="1" data-bbox="396 875 961 1010"> <thead> <tr> <th>AMS状態</th> <th>“AMS”表示</th> <th>AMS端子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ON</td> <td>点灯</td> <td>ハイ・レベル</td> </tr> <tr> <td>OFF</td> <td>消灯</td> <td>ロウ・レベル</td> </tr> </tbody> </table>	AMS状態	“AMS”表示	AMS端子	ON	点灯	ハイ・レベル	OFF	消灯	ロウ・レベル
AMS状態	“AMS”表示	AMS端子								
ON	点灯	ハイ・レベル								
OFF	消灯	ロウ・レベル								
<p>RDMONI</p>	<p>ラジオ・モニタ用のキーです。</p> <p>テープ・モード、テープDKスタンバイ・モード、テープDKオン・モード、CDモード、CD・DKスタンバイ・モード、CD・DKオン・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モードで有効となります。</p> <p>このキーを押すごとにラジオ・モニタ・モードを反転し、ラジオ・モニタ・モード中にはLCDパネルの“RDMONI”表示を点灯します。</p> <p>ラジオ・モニタ・モード中は、すべてのバンドのチューニング動作が可能となり、ラジオ・ミュート (RDMUTE端子) をオフし、オーディオ・ミュート (AMUTE端子) をオンします。</p> <p>なお、ラジオ・モニタ・モードは次の要因で状態が変化したときに解除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●TPSETスイッチ状態の変化 ●CDSETスイッチ状態の変化 ●CE端子のハイ・レベル→ロウ・レベルの変化 									

記号	説明																																
DISP	<p>表示の切り替えを行うためのキーです。</p> <p>初期設定ダイオードNOCLK=0（時計あり）のとき有効となります。</p> <p>ただし時計ありでもテープDKオン・モードおよびCD・DKオン・モードでは無効となります。</p> <p>表示の切り替えは次のように動作します。</p> <p>(1) ラジオ・モード時</p> <p>キーを押すごとに、周波数表示と時計表示を切り替えます。</p> <p>シーク・スキャン、オートプリセット・スキャン中は無効となります。</p> <p>初期設定ダイオードPRIO1, PRIO2により次のように動作します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">PRIO1</th> <th style="text-align: center;">PRIO2</th> <th style="text-align: center;">優先表示</th> <th style="text-align: center;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">なし</td> <td>DISP キーを押すごとに周波数表示と時計表示を切り替えます。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">周波数表示</td> <td>周波数表示中に DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で周波数表示に戻ります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">時計表示</td> <td>時計表示中に DISP キーを押すと、5秒間周波数表示になります。周波数表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1：ダイオードでショート 0：オープン)</p> <p>ラジオ・モードに切り替わったときは、周波数表示からスタートします。</p> <p>(2) テープ・モード時</p> <p>キーを押すごとに、“TAPE”表示と時計表示を切り替えます。</p> <p>初期設定ダイオードPRIO1, PRIO2により次のように動作します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">PRIO1</th> <th style="text-align: center;">PRIO2</th> <th style="text-align: center;">優先表示</th> <th style="text-align: center;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">なし</td> <td>DISP キーを押すごとに周波数表示と時計表示を切り替えます。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">“TAPE”表示</td> <td>“TAPE”表示中に DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で“TAPE”表示に戻ります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">時計表示</td> <td>時計表示中に DISP キーを押すと、5秒間“TAPE”表示になります。“TAPE”表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1：ダイオードでショート 0：オープン)</p> <p>テープ・モードに切り替わったときは、“TAPE”表示からスタートします。</p>	PRIO1	PRIO2	優先表示	説明	0	0	なし	DISP キーを押すごとに周波数表示と時計表示を切り替えます。	1	0	周波数表示	周波数表示中に DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で周波数表示に戻ります。	0	1	時計表示	時計表示中に DISP キーを押すと、5秒間周波数表示になります。周波数表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。	PRIO1	PRIO2	優先表示	説明	0	0	なし	DISP キーを押すごとに周波数表示と時計表示を切り替えます。	1	0	“TAPE”表示	“TAPE”表示中に DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で“TAPE”表示に戻ります。	0	1	時計表示	時計表示中に DISP キーを押すと、5秒間“TAPE”表示になります。“TAPE”表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。
PRIO1	PRIO2	優先表示	説明																														
0	0	なし	DISP キーを押すごとに周波数表示と時計表示を切り替えます。																														
1	0	周波数表示	周波数表示中に DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で周波数表示に戻ります。																														
0	1	時計表示	時計表示中に DISP キーを押すと、5秒間周波数表示になります。周波数表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。																														
PRIO1	PRIO2	優先表示	説明																														
0	0	なし	DISP キーを押すごとに周波数表示と時計表示を切り替えます。																														
1	0	“TAPE”表示	“TAPE”表示中に DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で“TAPE”表示に戻ります。																														
0	1	時計表示	時計表示中に DISP キーを押すと、5秒間“TAPE”表示になります。“TAPE”表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。																														

記号	説明																																
DISP	<p>(3) CDモード時</p> <p>キーを押すごとに、“[]”表示と時計表示を切り替えます。</p> <p>初期設定ダイオードPRIO1, PRIO2により次のように動作します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">PRIO1</th> <th style="width: 10%;">PRIO2</th> <th style="width: 15%;">優先表示</th> <th style="width: 65%;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">なし</td> <td>[DISP] キーを押すごとに “[]” 表示と時計表示を切り替えます。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">“[]” 表示</td> <td>“[]” 表示中に [DISP] キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度 [DISP] キーを押すと、その時点で “[]” 表示に戻ります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">時計表示</td> <td>時計表示中に [DISP] キーを押すと、5秒間 “[]” 表示となります。“[]” 表示中の5秒間に再度 [DISP] キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1:ダイオードでショート 0:オープン)</p> <p>CDモードに切り替わったときは、“[]”表示からスタートします。</p> <p>(4) テープ・ラジオ・モニタ・モード、テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>キーを押すごとに、“TAPE”表示と周波数表示と時計表示を切り替えます。</p> <p>初期設定ダイオードPRIO1, PRIO2により次のように動作します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">PRIO1</th> <th style="width: 10%;">PRIO2</th> <th style="width: 15%;">優先表示</th> <th style="width: 65%;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">なし</td> <td>[DISP] キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">“TAPE” 表示</td> <td>[DISP] キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div> 周波数表示または時計表示中に何の操作もなければ5秒後に“TAPE”表示に復帰します。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">時計表示</td> <td>[DISP] キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div> 周波数表示または“TAPE”表示中に何の操作もなければ5秒後に時計表示に復帰します。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1:ダイオードでショート 0:オープン)</p> <p>テープ・ラジオ・モニタ・モード、テープDKスタンバイ・モードに切り替わったときは周波数表示からスタートします。</p>	PRIO1	PRIO2	優先表示	説明	0	0	なし	[DISP] キーを押すごとに “[]” 表示と時計表示を切り替えます。	1	0	“[]” 表示	“[]” 表示中に [DISP] キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度 [DISP] キーを押すと、その時点で “[]” 表示に戻ります。	0	1	時計表示	時計表示中に [DISP] キーを押すと、5秒間 “[]” 表示となります。“[]” 表示中の5秒間に再度 [DISP] キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。	PRIO1	PRIO2	優先表示	説明	0	0	なし	[DISP] キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div>	1	0	“TAPE” 表示	[DISP] キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div> 周波数表示または時計表示中に何の操作もなければ5秒後に“TAPE”表示に復帰します。	0	1	時計表示	[DISP] キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div> 周波数表示または“TAPE”表示中に何の操作もなければ5秒後に時計表示に復帰します。
PRIO1	PRIO2	優先表示	説明																														
0	0	なし	[DISP] キーを押すごとに “[]” 表示と時計表示を切り替えます。																														
1	0	“[]” 表示	“[]” 表示中に [DISP] キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度 [DISP] キーを押すと、その時点で “[]” 表示に戻ります。																														
0	1	時計表示	時計表示中に [DISP] キーを押すと、5秒間 “[]” 表示となります。“[]” 表示中の5秒間に再度 [DISP] キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。																														
PRIO1	PRIO2	優先表示	説明																														
0	0	なし	[DISP] キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div>																														
1	0	“TAPE” 表示	[DISP] キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div> 周波数表示または時計表示中に何の操作もなければ5秒後に“TAPE”表示に復帰します。																														
0	1	時計表示	[DISP] キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div> 周波数表示または“TAPE”表示中に何の操作もなければ5秒後に時計表示に復帰します。																														

記 号	説 明																
DISP	<p>(5) CDラジオ・モニタ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時</p> <p>キーを押すごとに, “ [] ” 表示と周波数表示と時計表示を切り替えます。</p> <p>初期設定ダイオードPRIO1, PRIO2により次のように動作します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">PRIO1</th> <th style="width: 15%;">PRIO2</th> <th style="width: 20%;">優先表示</th> <th style="width: 50%;">説 明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">なし</td> <td> <p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p style="text-align: center;">→ “ [] ” → 周波数 → 時計 →</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">“ [] ”表示</td> <td> <p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p style="text-align: center;">→ “ [] ” → 周波数 → 時計 →</p> <p>周波数表示または時計表示中に何の操作もなければ5秒後に“ [] ” 表示に復帰します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">時計表示</td> <td> <p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p style="text-align: center;">→ “ [] ” → 周波数 → 時計 →</p> <p>周波数表示または“ [] ” 表示中に何の操作もなければ5秒後に時計表示に復帰します。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p> <p>CDラジオ・モニタ・モード, CD・DKスタンバイ・モードに切り替わったときは周波数表示からスタートします。</p>	PRIO1	PRIO2	優先表示	説 明	0	0	なし	<p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p style="text-align: center;">→ “ [] ” → 周波数 → 時計 →</p>	1	0	“ [] ”表示	<p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p style="text-align: center;">→ “ [] ” → 周波数 → 時計 →</p> <p>周波数表示または時計表示中に何の操作もなければ5秒後に“ [] ” 表示に復帰します。</p>	0	1	時計表示	<p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p style="text-align: center;">→ “ [] ” → 周波数 → 時計 →</p> <p>周波数表示または“ [] ” 表示中に何の操作もなければ5秒後に時計表示に復帰します。</p>
PRIO1	PRIO2	優先表示	説 明														
0	0	なし	<p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p style="text-align: center;">→ “ [] ” → 周波数 → 時計 →</p>														
1	0	“ [] ”表示	<p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p style="text-align: center;">→ “ [] ” → 周波数 → 時計 →</p> <p>周波数表示または時計表示中に何の操作もなければ5秒後に“ [] ” 表示に復帰します。</p>														
0	1	時計表示	<p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p style="text-align: center;">→ “ [] ” → 周波数 → 時計 →</p> <p>周波数表示または“ [] ” 表示中に何の操作もなければ5秒後に時計表示に復帰します。</p>														
POWER	<p>モメンタリ・キーによるラジオのオン/オフや, イルミネーション・コントロールを行う場合などに使用します。</p> <p>CE端子=ハイ・レベルで有効となります。</p> <p>このキーを押すことによりPOWER端子の出力を反転します。</p> <p>POWER端子の出力によってトランジスタ・スイッチのRDONをオン/オフさせることにより, ラジオのオン/オフが行えます。</p>																

3. モード遷移

μPD17012GF-011ではラジオのオン/オフを行う方法として、次の二通りの方法が使用できます。

- (1) 初期設定ダイオードRDONを1にして、CE端子状態の切り替えによるラジオのオン/オフを行う。
- (2) 初期設定ダイオードRDONを0にして、CE端子がハイ・レベルの状態でトランジスタまたはオルタネート・スイッチRDSETをオン/オフしてラジオのオン/オフを行う。

各動作時の状態遷移図をそれぞれ3.1, 3.2に示します。

3.1 初期設定ダイオードRDONが1のときのモード遷移 (CE端子状態の切り替えによるラジオのオン/オフ)

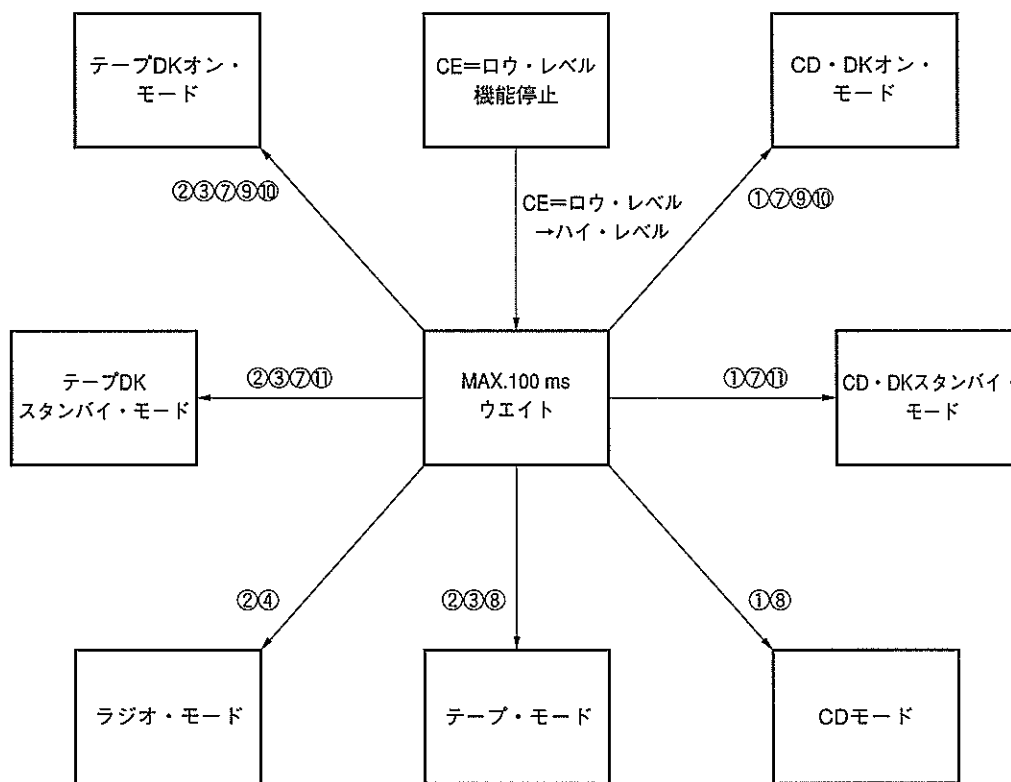
ラジオ・モードのオン/オフはCE端子状態を切り替えることにより行います。

TPSETおよびCDSETスイッチは、CE端子=ハイ・レベル時のみ有効となります。

RDSETスイッチは無効となります。

CE端子をロウ・レベルにすると、初期設定ダイオードNOCLKの状態にかかわらず時計表示は行いません。ただしNOCLK=0 (時計あり) の場合は時計の運針を行います。

(1) CE端子がロウ・レベル→ハイ・レベルに変化したときのモード遷移

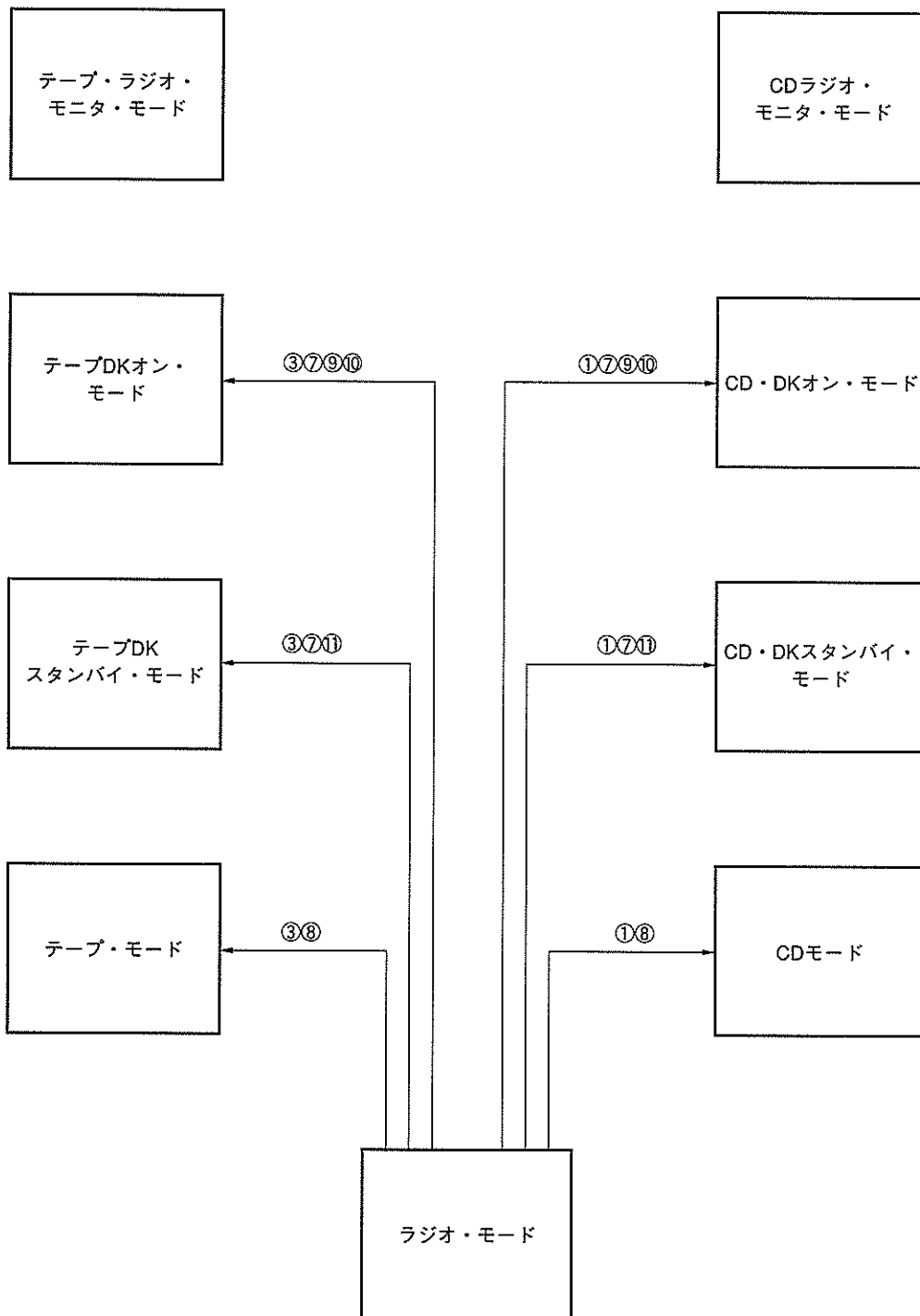


備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|--|--------------------------------------|---------------------------------------|
| ①: CDSETスイッチ・オン | ⑥: <input type="checkbox"/> VF キー・オン | ⑪: 放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②: CDSETスイッチ・オフ | ⑦: VFバンド受信 | ⑫: RDSETスイッチ・オン |
| ③: TPSETスイッチ・オン | ⑧: VFバンド以外受信 | ⑬: RDSETスイッチ・オフ |
| ④: TPSETスイッチ・オフ | ⑨: 交通情報局受信 | |
| ⑤: <input type="checkbox"/> RDMONI キー・オン | ⑩: DKスイッチ・オン | |

(2) CE端子がハイ・レベルのときのモード遷移

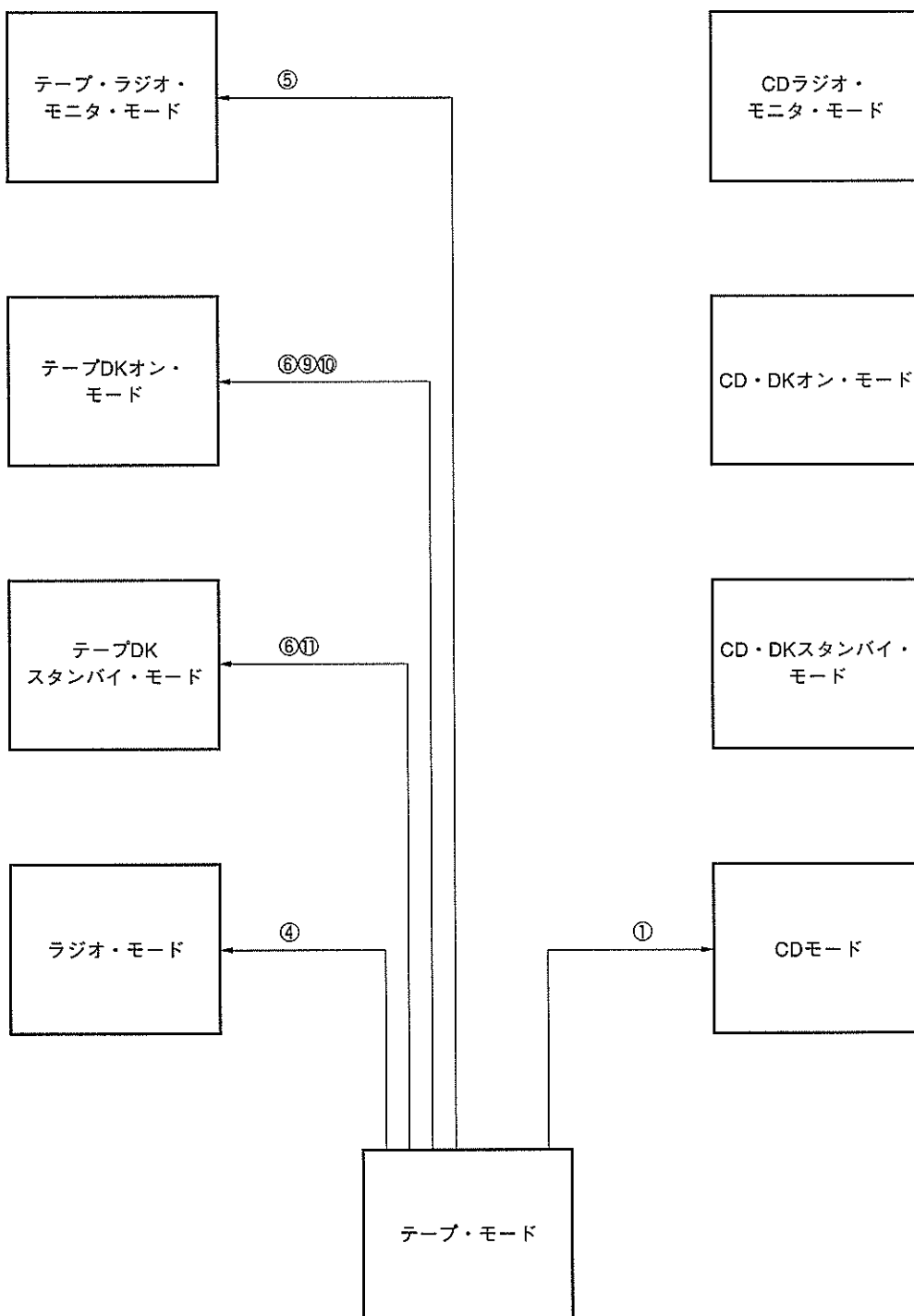
(a) ラジオ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

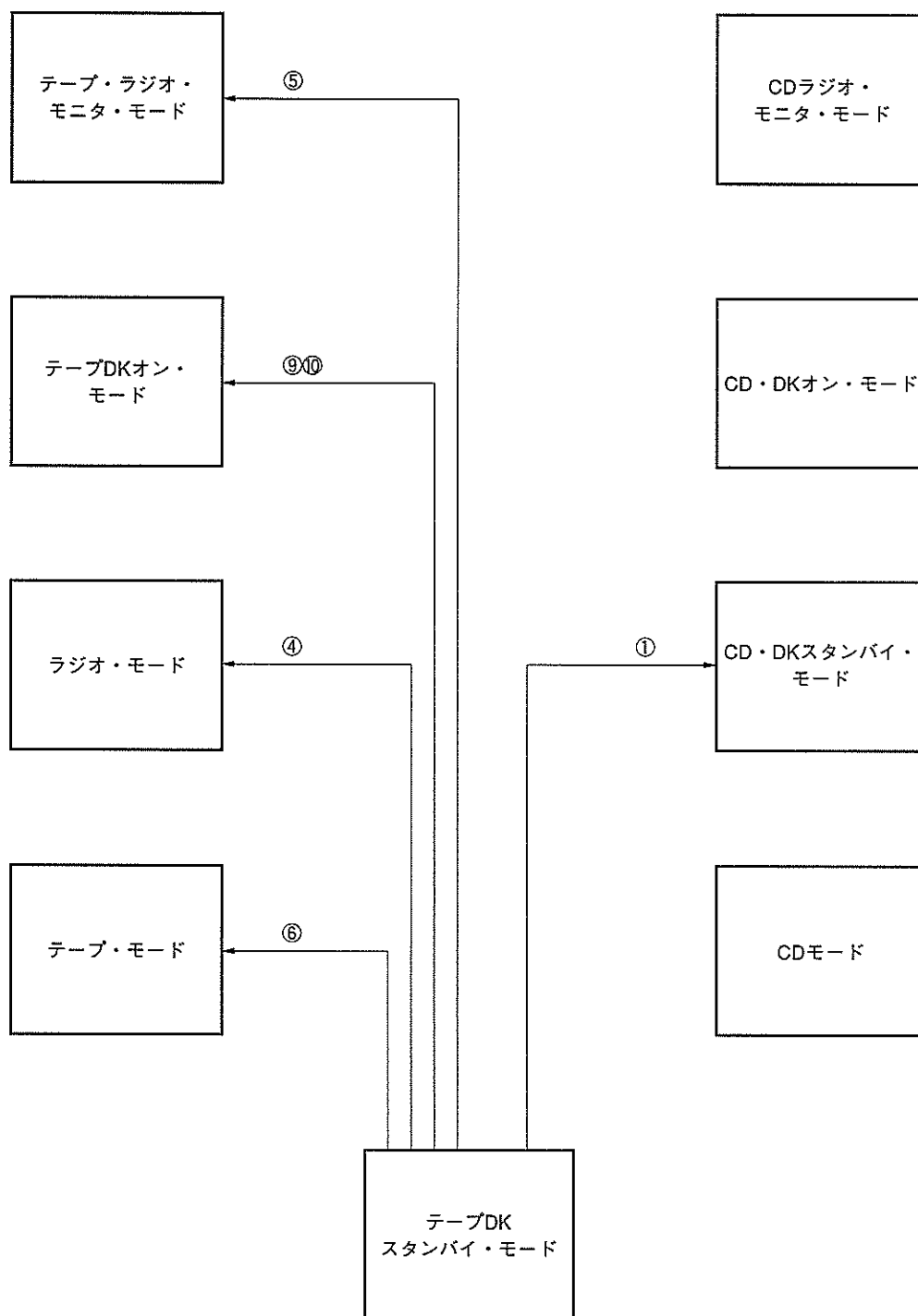
(b) テープ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|--|--------------------------------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥： <input type="checkbox"/> VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | |
| ⑤： <input type="checkbox"/> RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

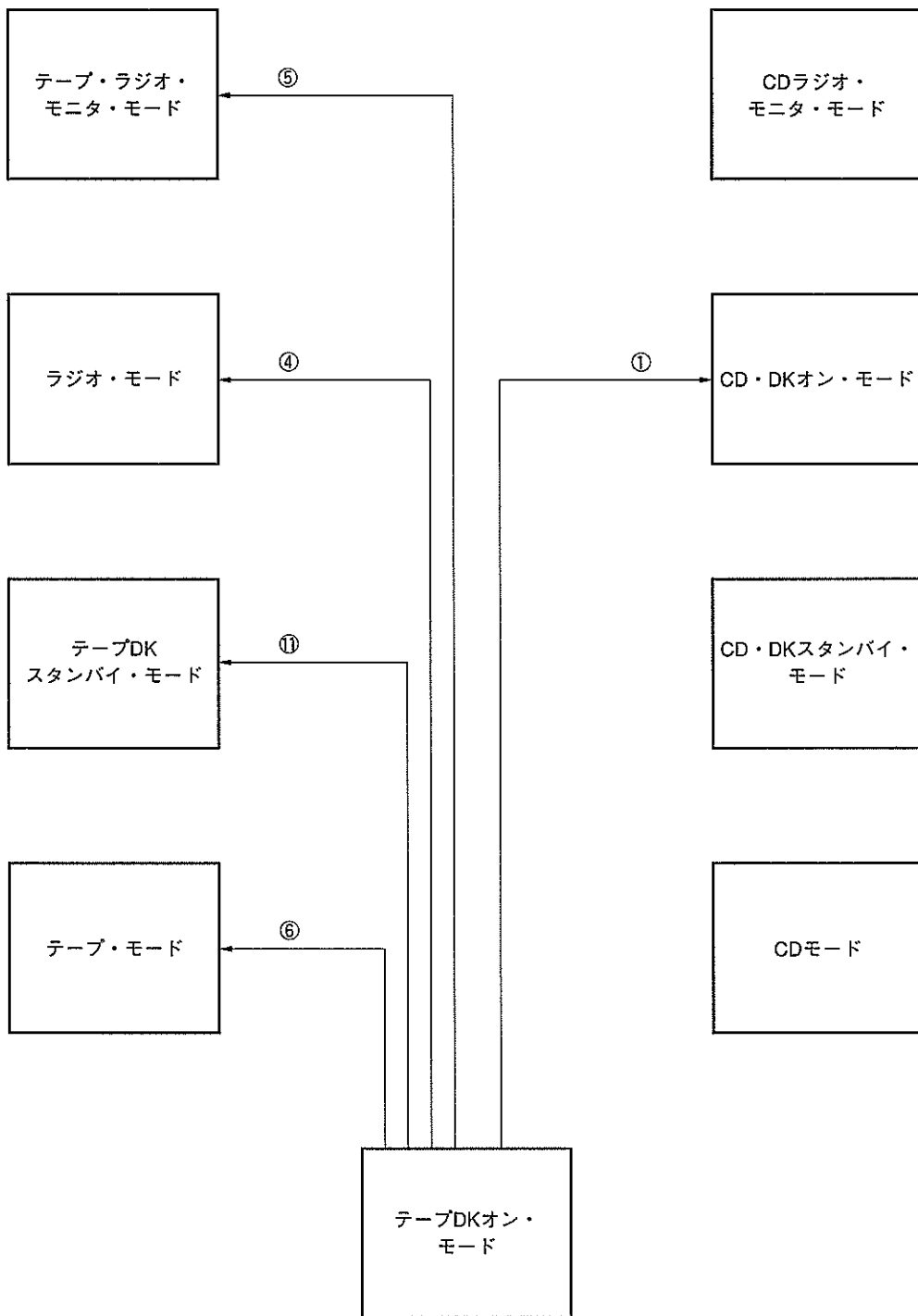
(c) テープDKスタンバイ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|----------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | SKスイッチ・オフ or |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | DKスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |

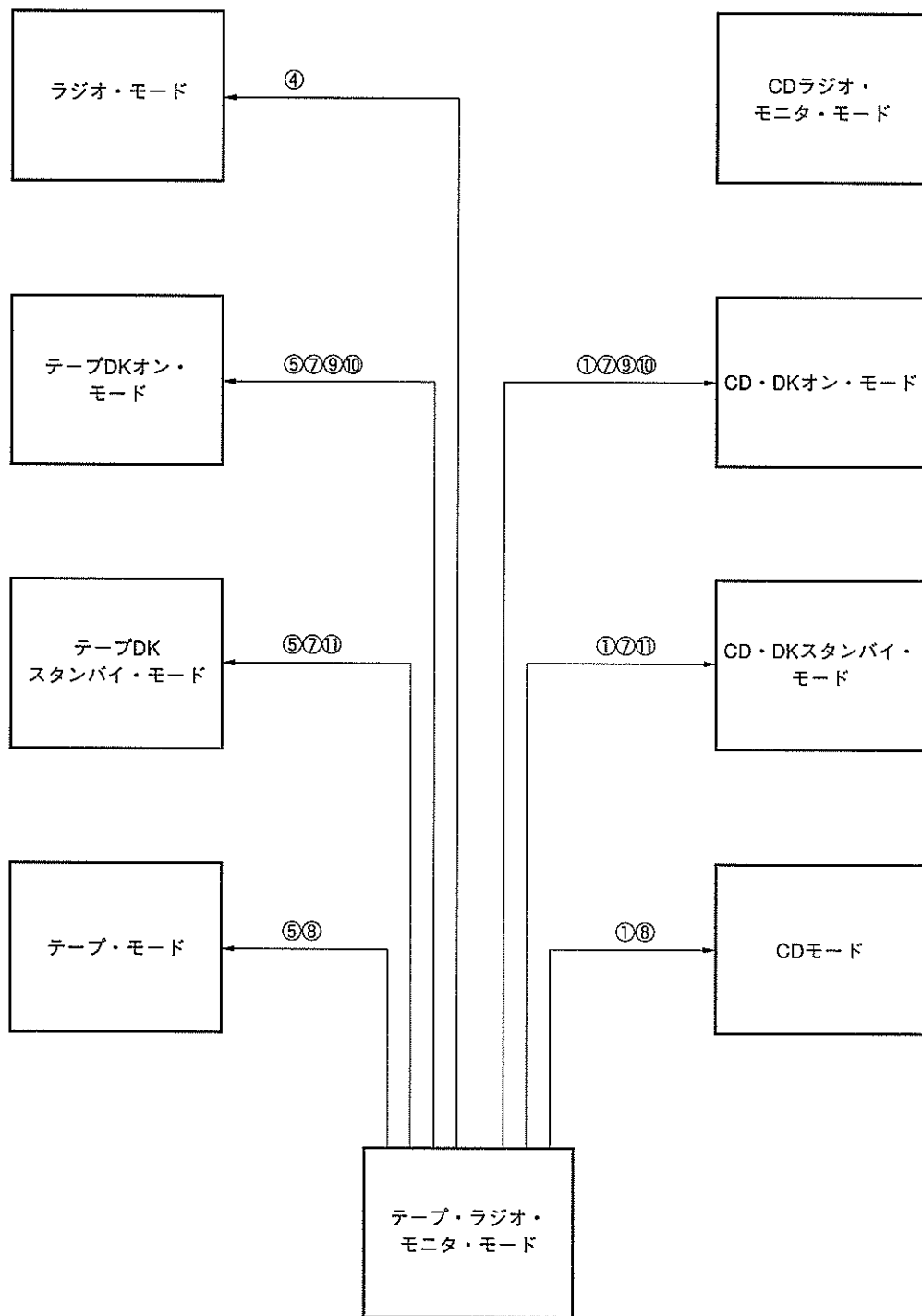
(d) テープDKオン・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or
SKスイッチ・オフ or
DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

(e) テープ・ラジオ・モニタ・モードから他モードへの移行



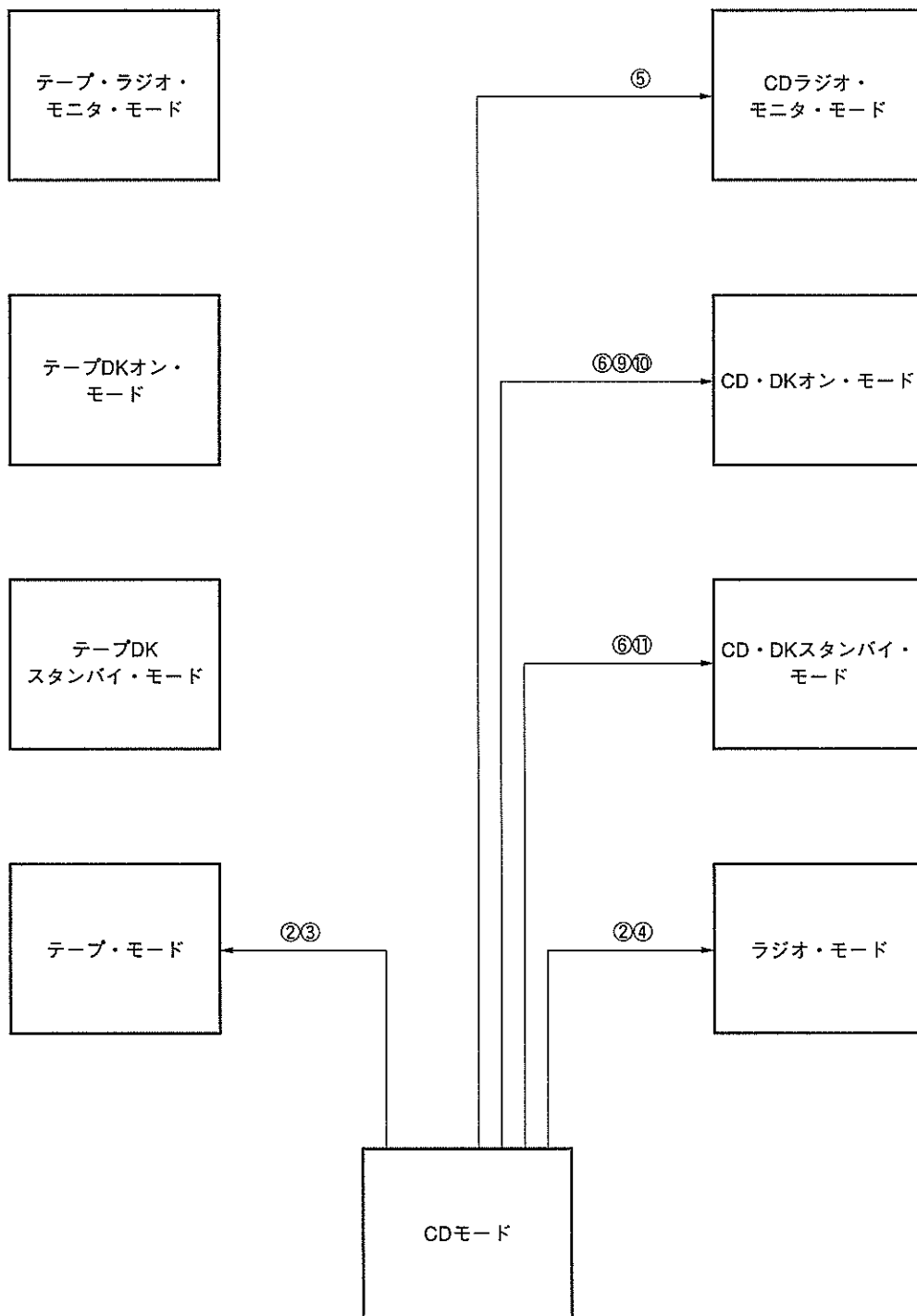
備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- ①：CDSETスイッチ・オン
- ②：CDSETスイッチ・オフ
- ③：TPSETスイッチ・オン
- ④：TPSETスイッチ・オフ
- ⑤：**RDMONI** キー・オン

- ⑥：**VF** キー・オン
- ⑦：VFバンド受信
- ⑧：VFバンド以外受信
- ⑨：交通情報局受信
- ⑩：DKスイッチ・オン

- ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ
- ⑫：RDSETスイッチ・オン
- ⑬：RDSETスイッチ・オフ

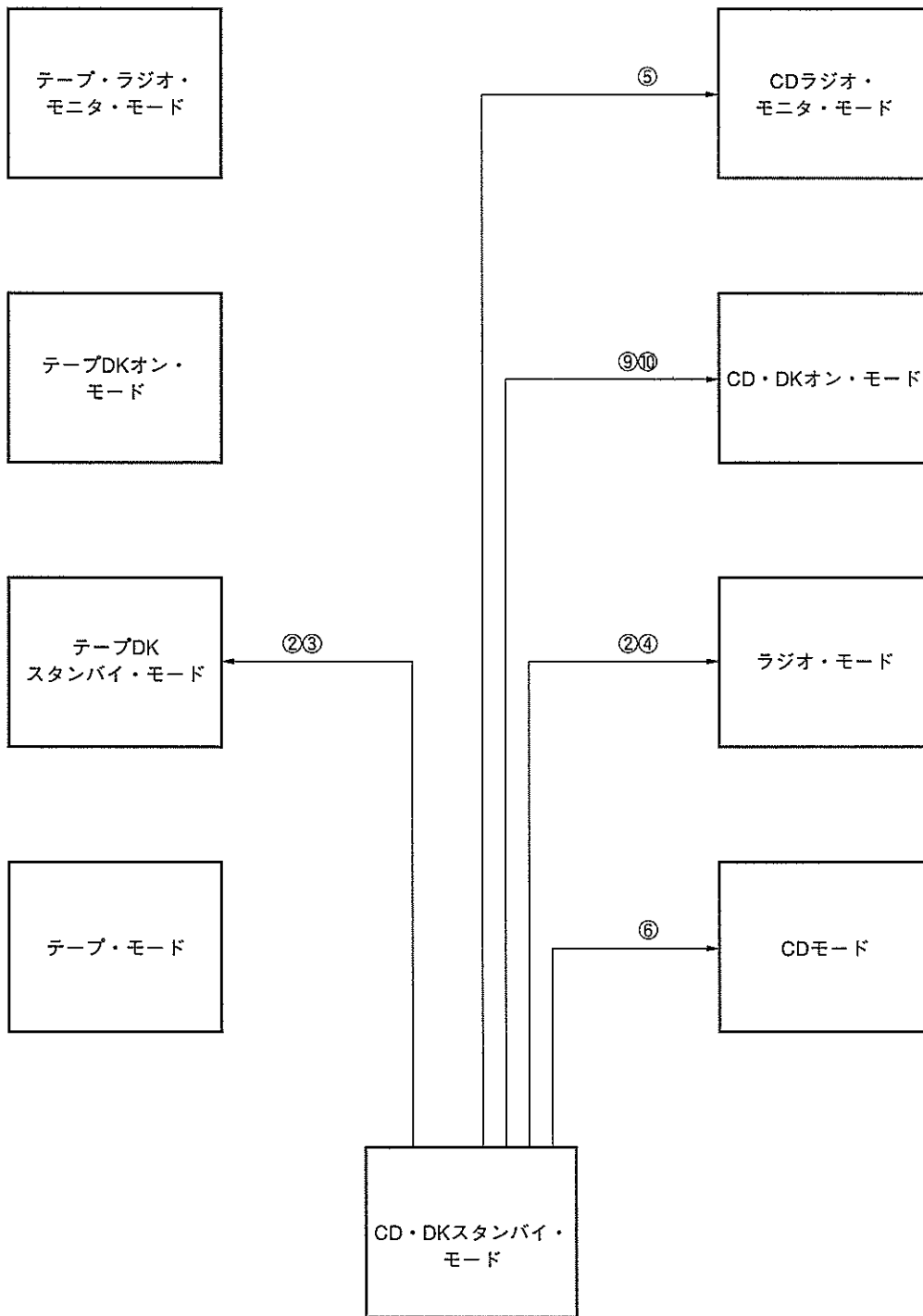
(f) CDモードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

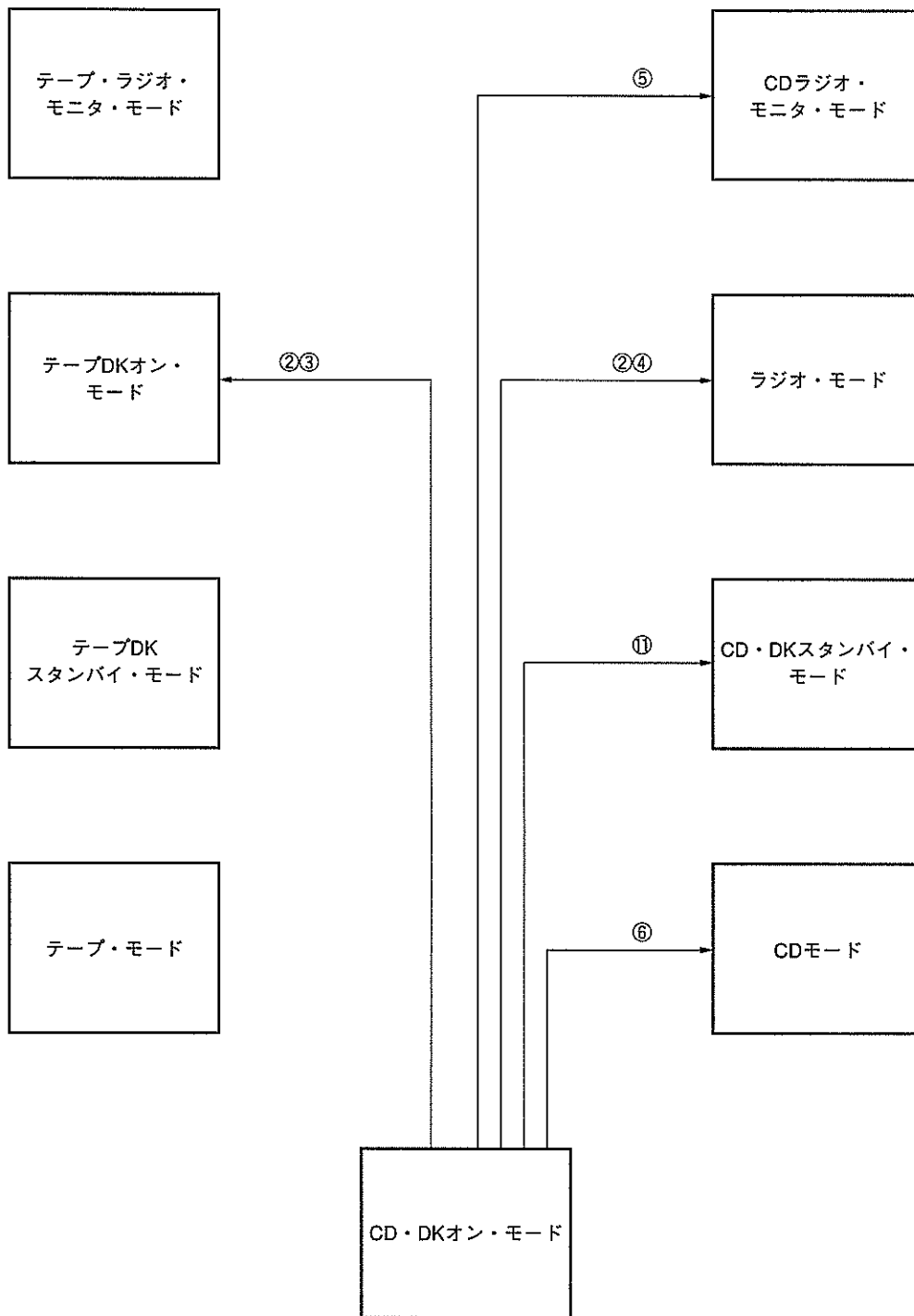
(g) CD・DKスタンバイ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

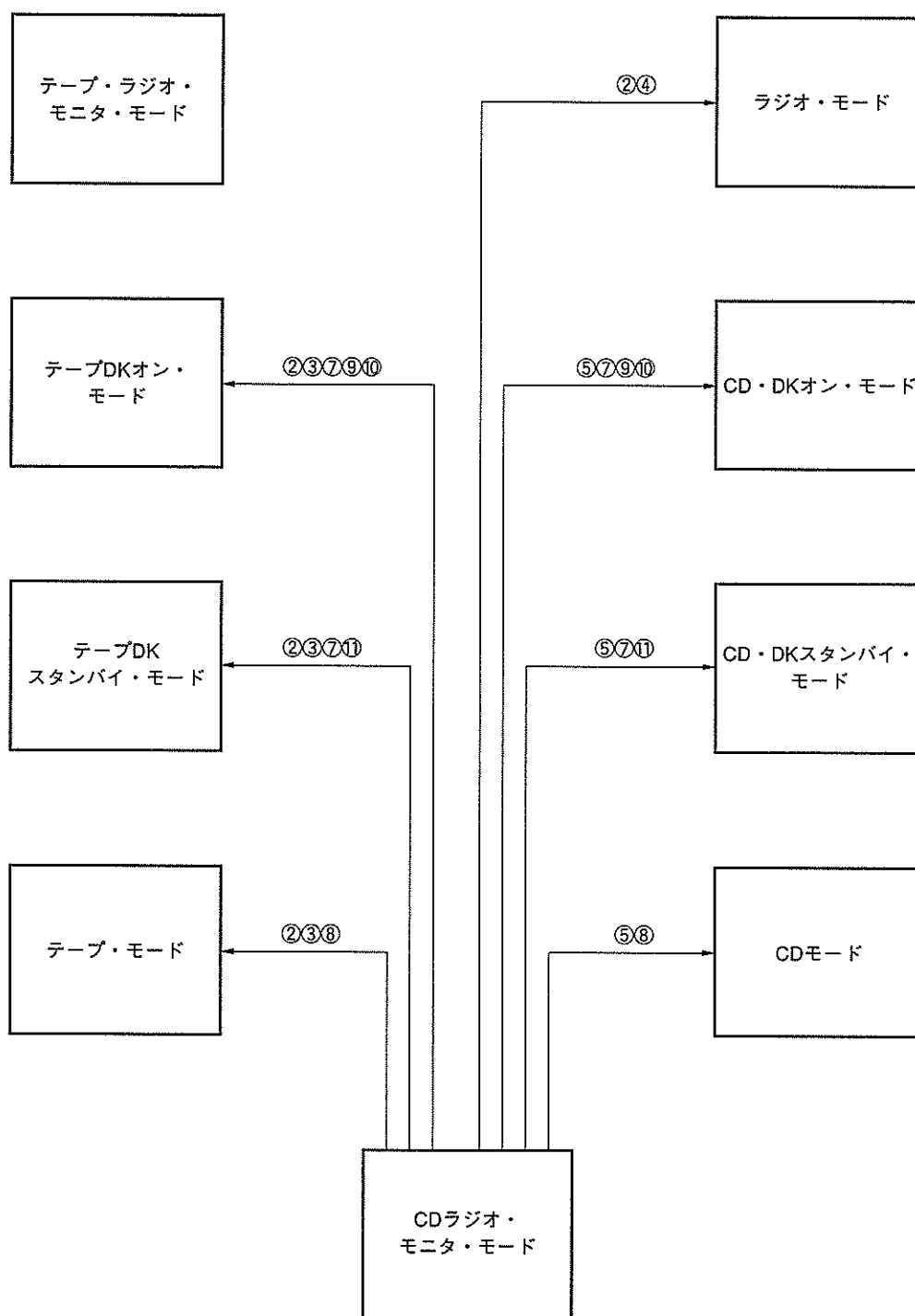
(h) CD・DKオン・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or
SKスイッチ・オフ or
DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

(i) CDラジオ・モニタ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

3.2 初期設定ダイオードRDONが0のときのモード遷移

(RDSETスイッチ状態の切り替えによるラジオのオン/オフ)

ラジオ・モードのオン/オフはRDSETスイッチ状態を切り替えることにより行います。

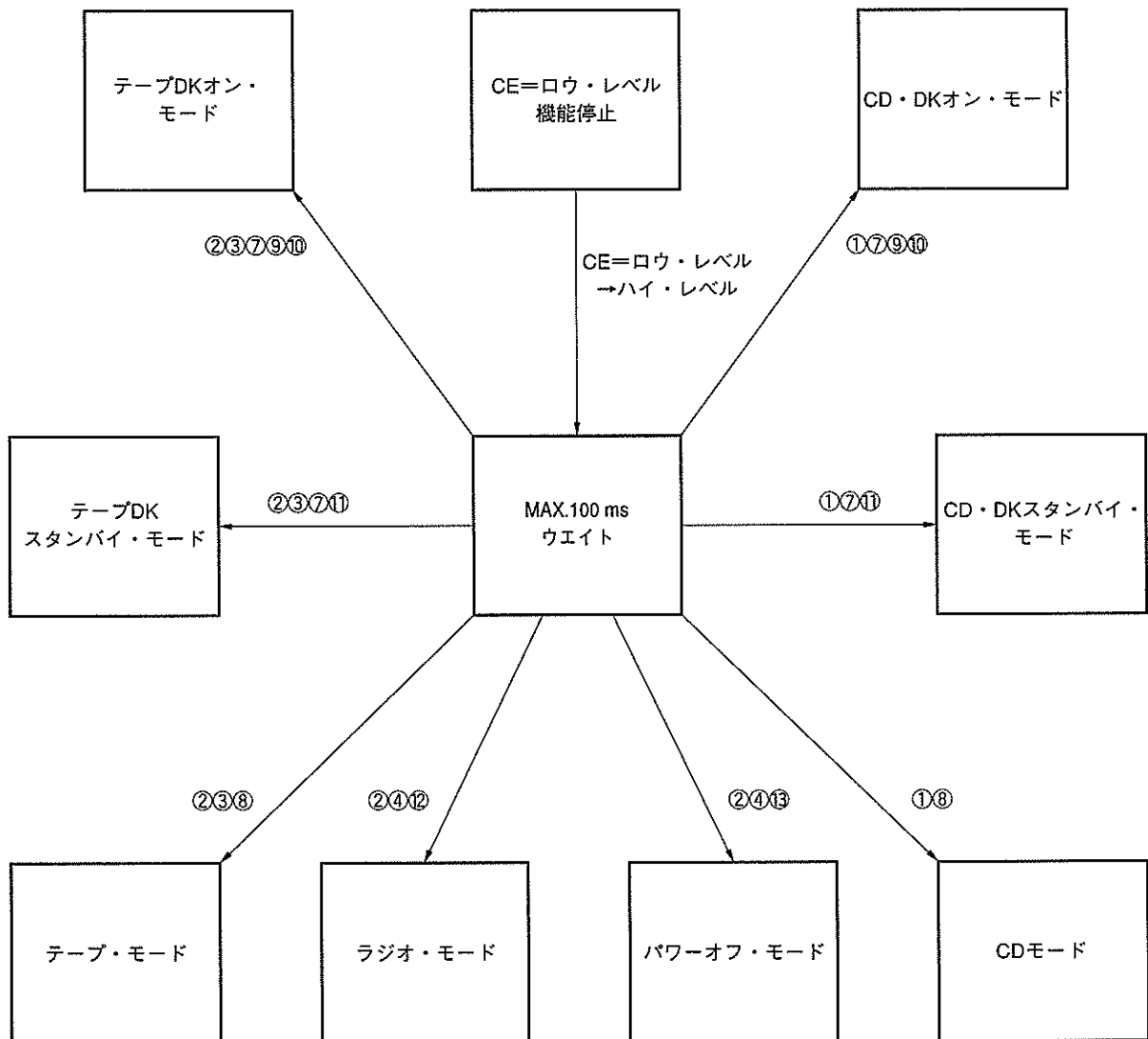
RDSET, TPSETおよびCDSETスイッチは、CE端子=ハイ・レベル時のみ有効となります。

CE端子をロウ・レベルにすると、初期設定ダイオードNOCLKの状態にかかわらず、時計表示は行いません。ただしNOCLK=0(時計あり)の場合は、時計の運針を行います。

(1) CE端子がロウ・レベル→ハイ・レベルに変化したときのモード遷移

ラジオ・モードのオン/オフはRDSETスイッチにより行います。

テープおよびCDモードへの切り替えはそれぞれTPSETおよびCDSETスイッチにより行います。

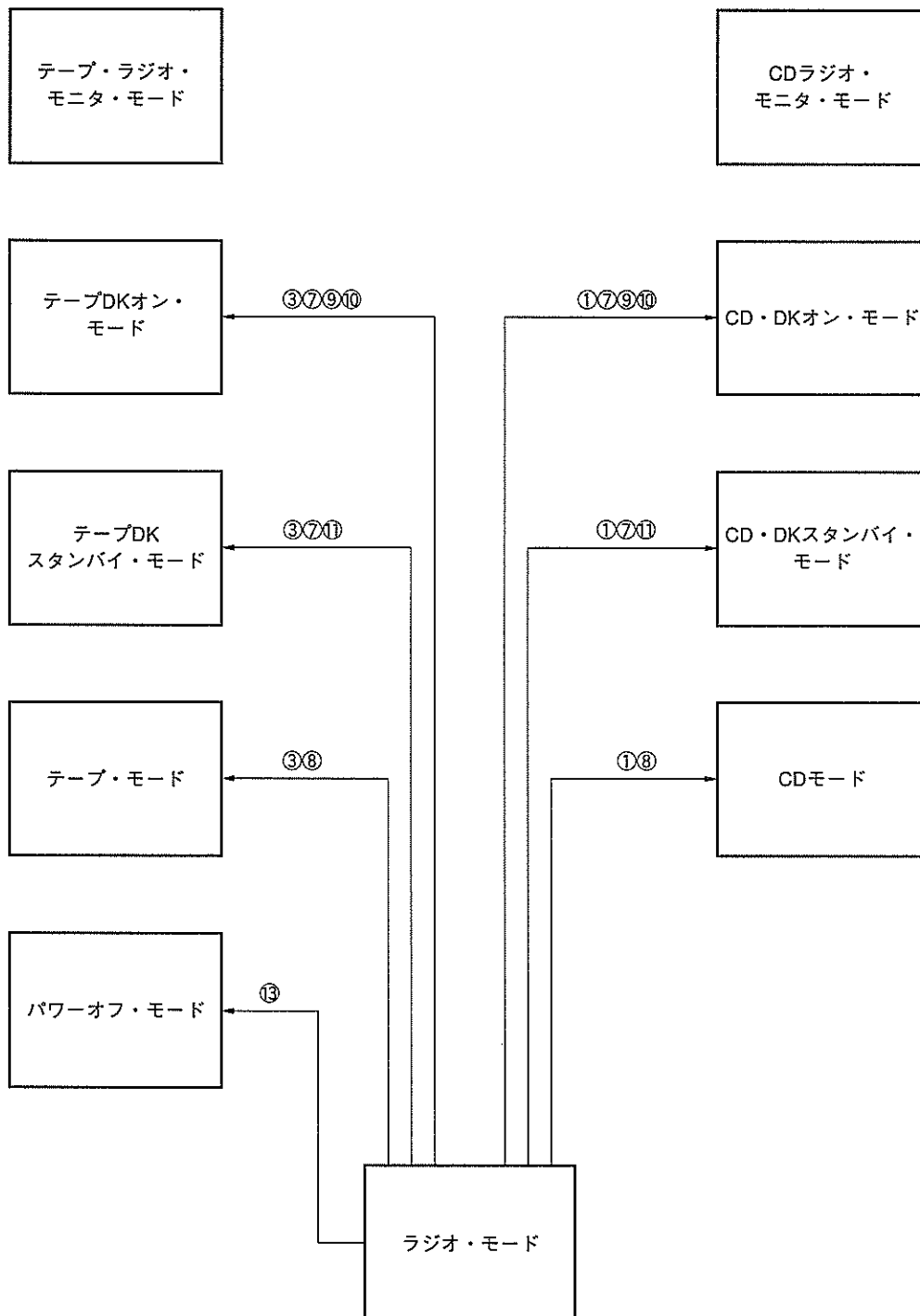


備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

(2) CE端子がハイ・レベルのときのモード遷移

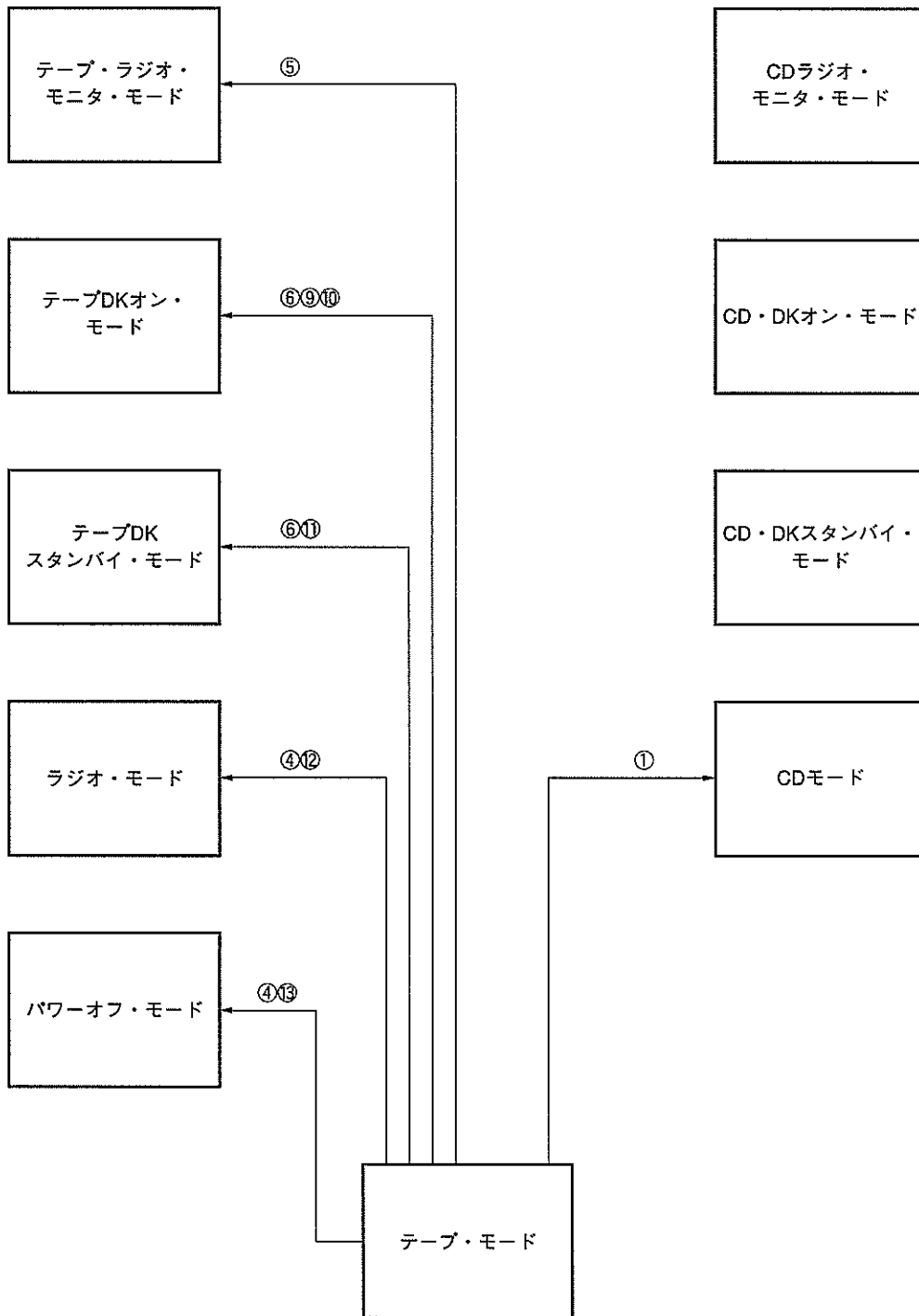
(a) ラジオ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

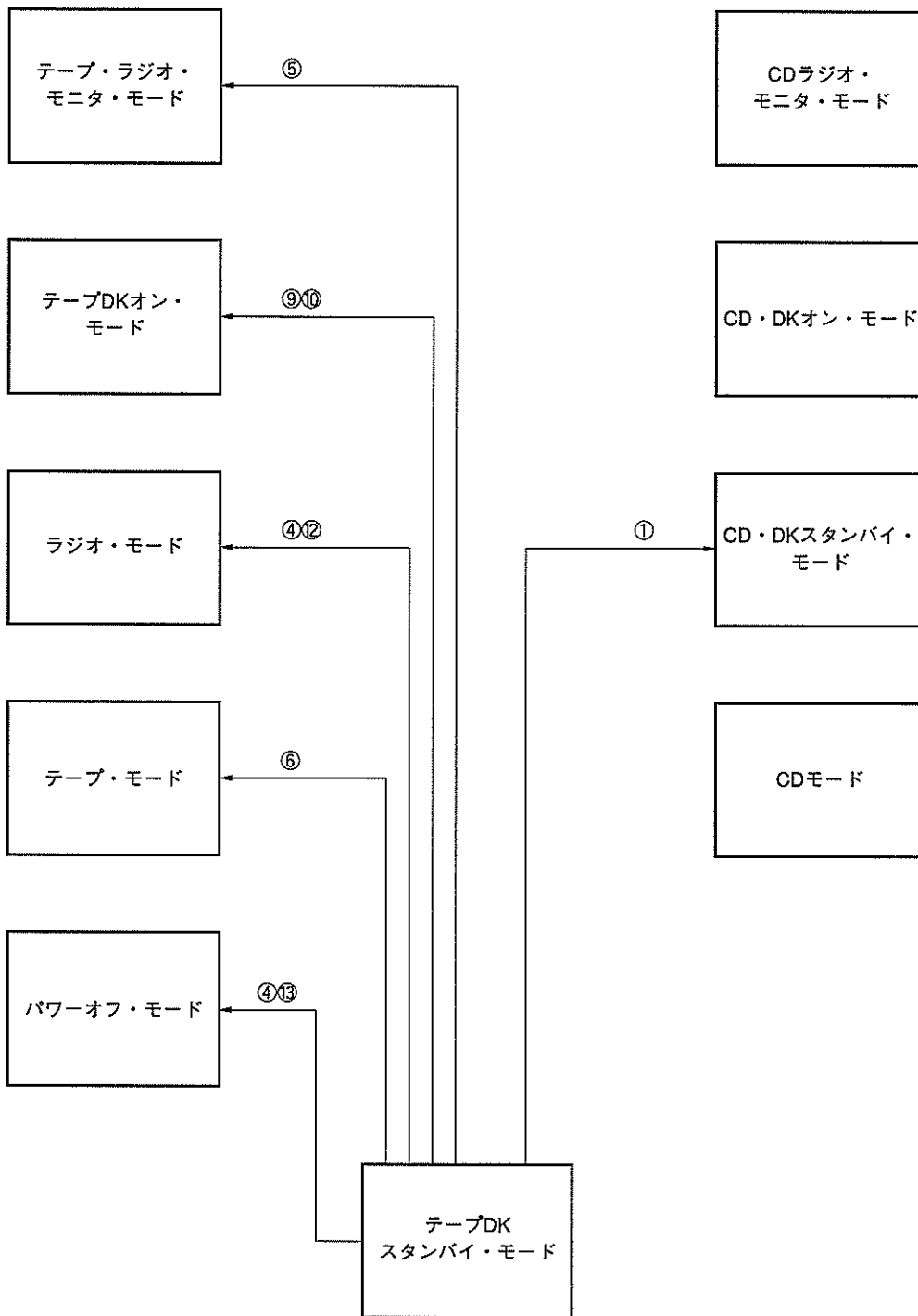
(b) テープ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|----------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | SKスイッチ・オフ or |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | DKスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |

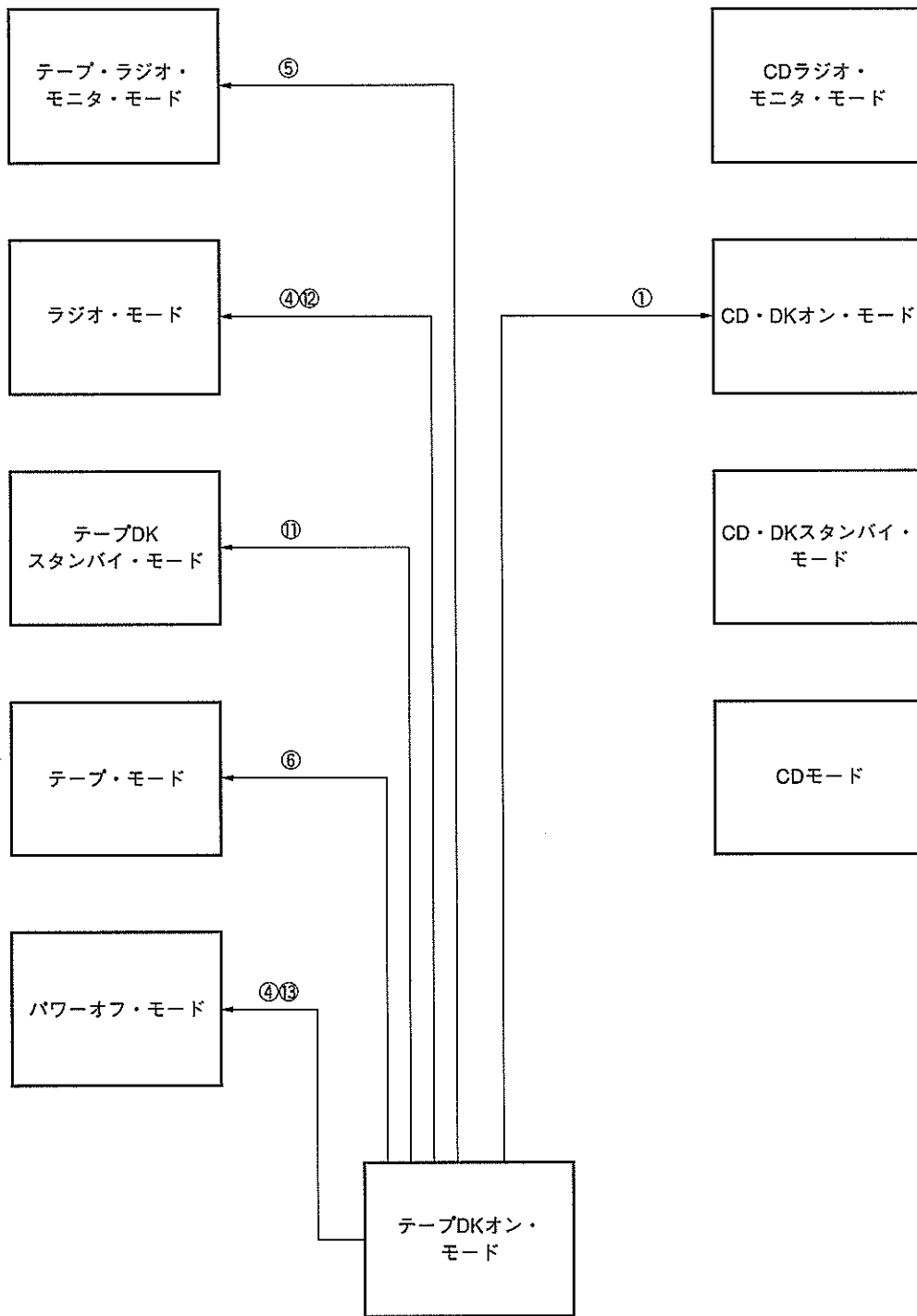
(c) テープDKスタンバイ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

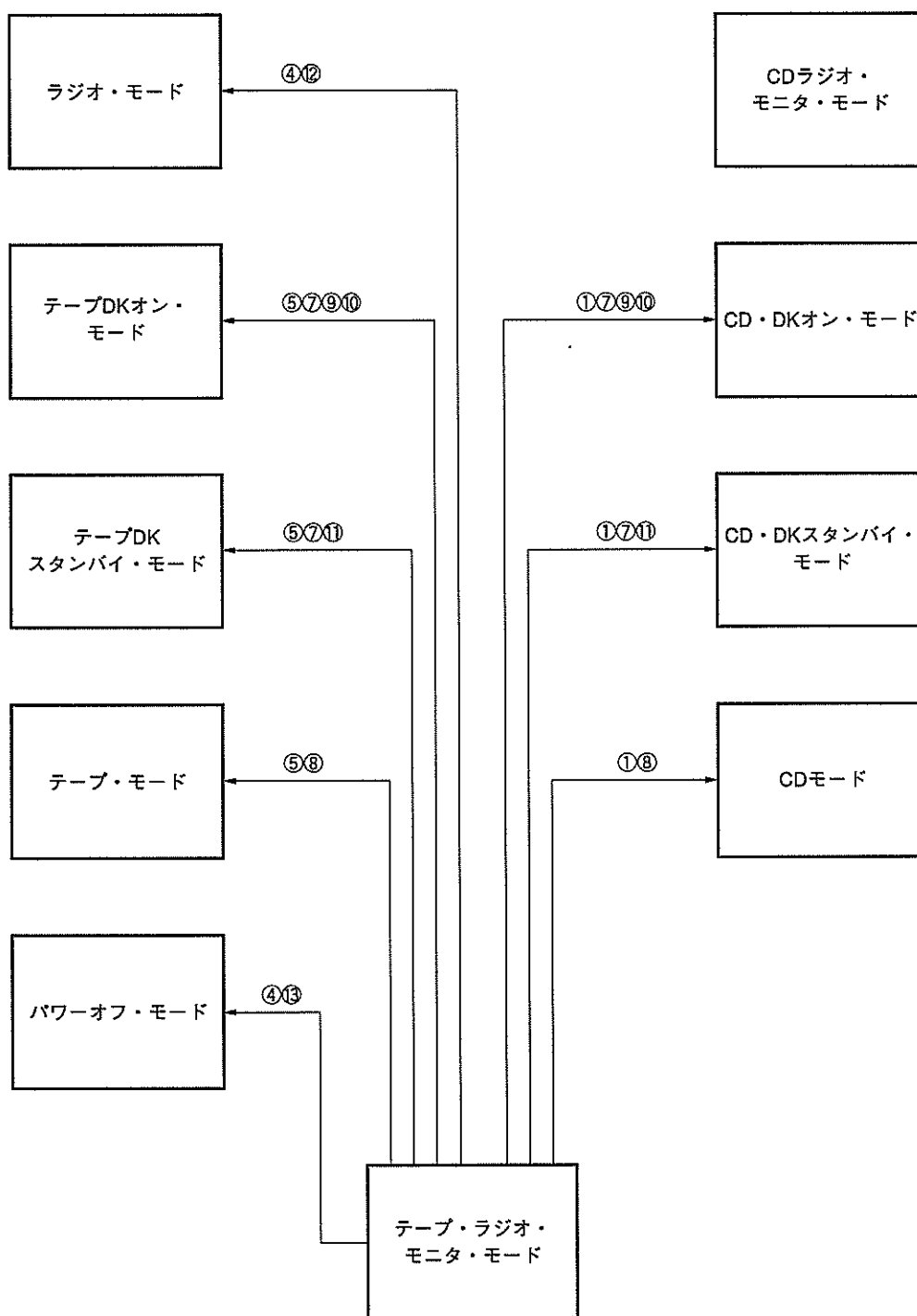
(d) テープDKオン・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

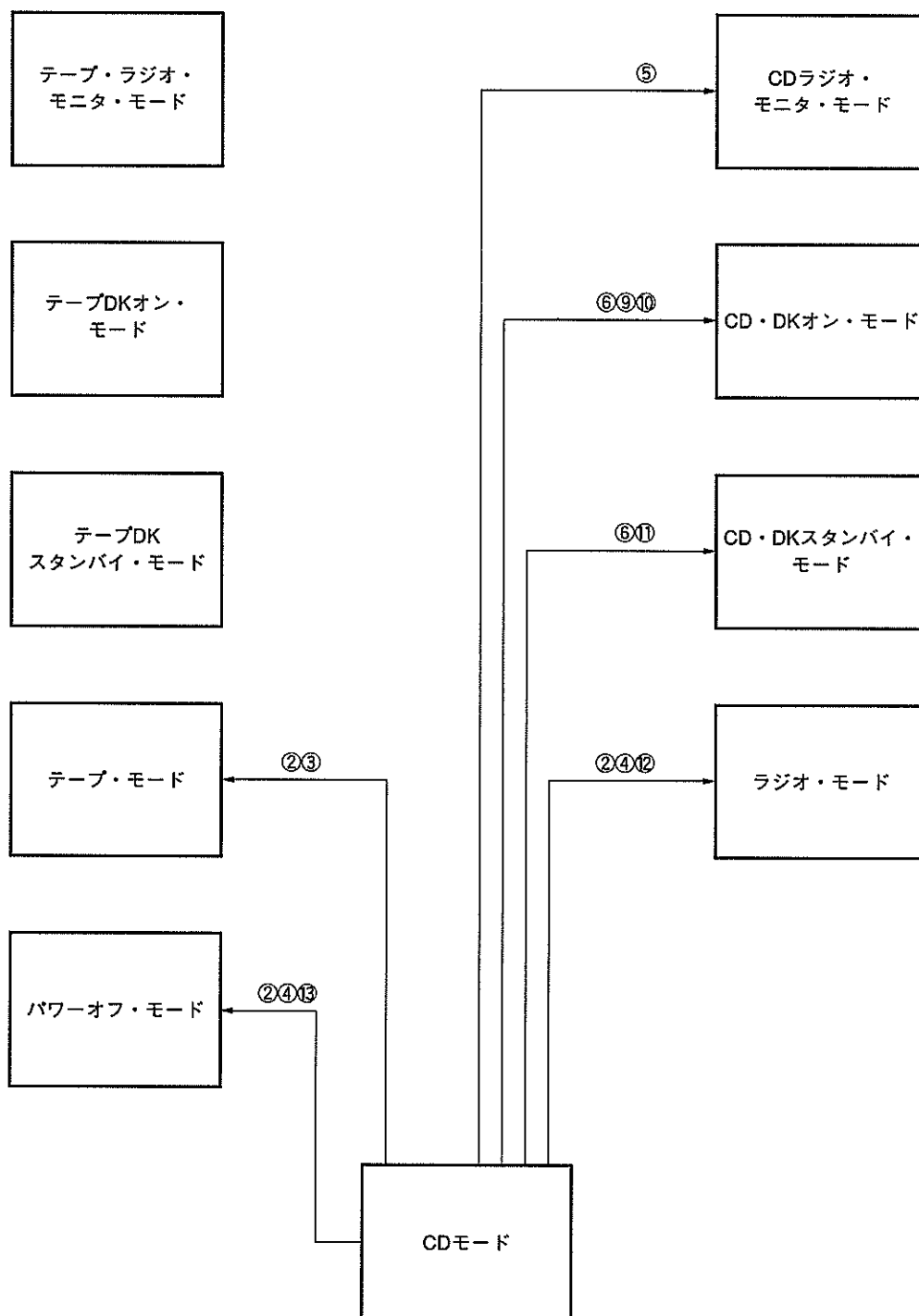
(e) テープ・ラジオ・モニタ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

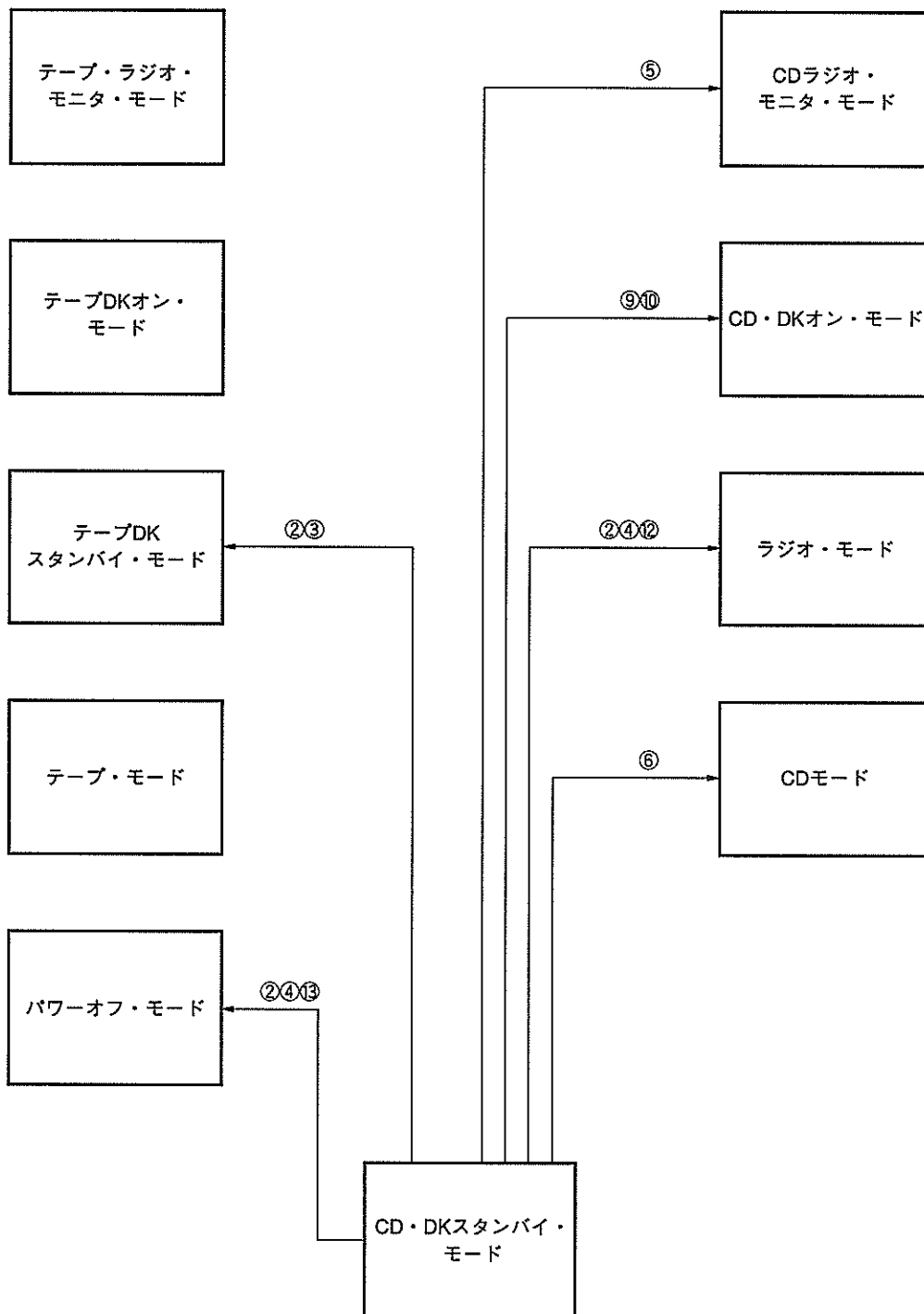
(f) CDモードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|--|--------------------------------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥： <input type="checkbox"/> VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | |
| ⑤： <input type="checkbox"/> RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

(g) CD・DKスタンバイ・モードから他モードへの移行



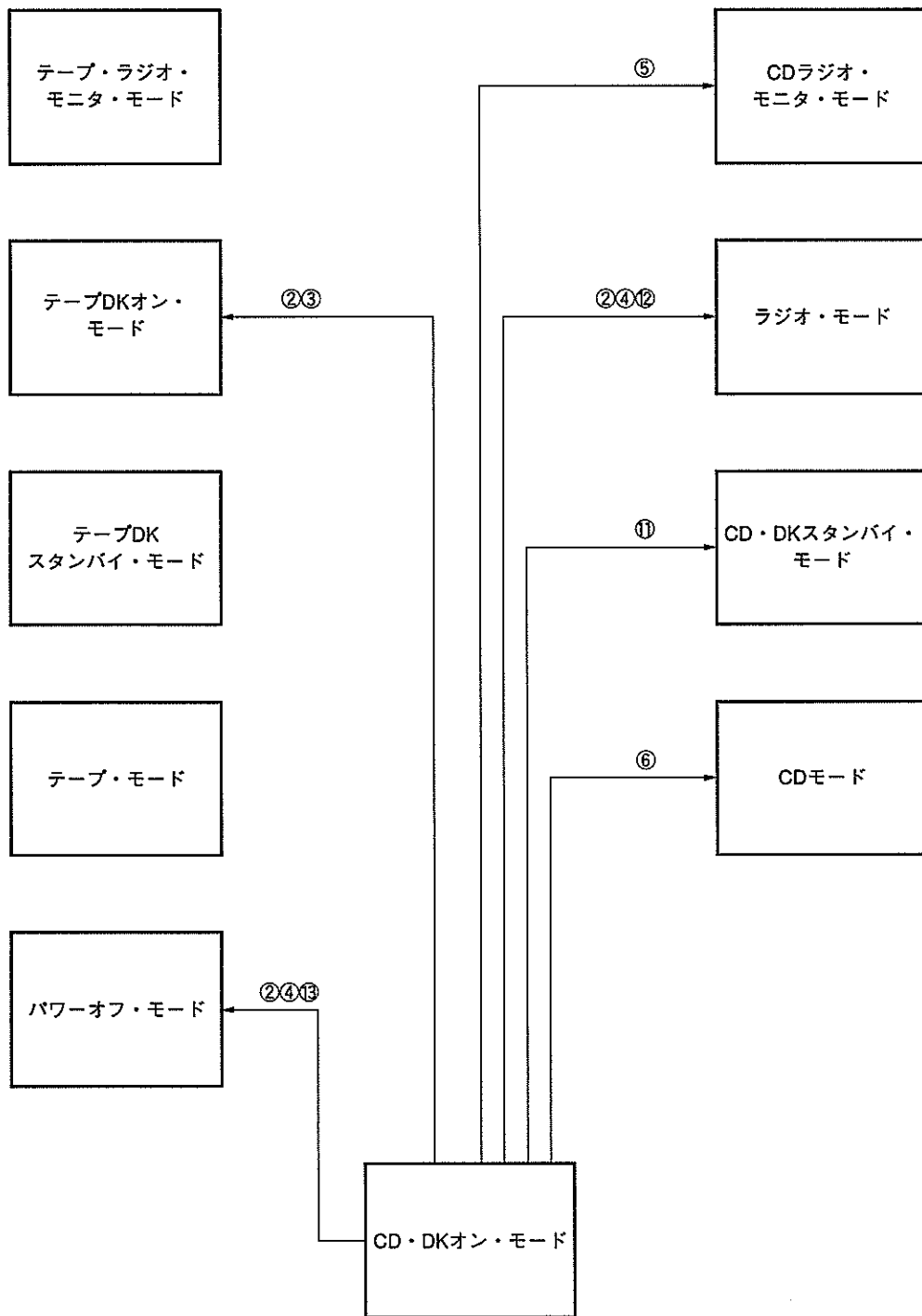
備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- ①：CDSETスイッチ・オン
- ②：CDSETスイッチ・オフ
- ③：TPSETスイッチ・オン
- ④：TPSETスイッチ・オフ
- ⑤：RDMONI キー・オン

- ⑥：VF キー・オン
- ⑦：VFバンド受信
- ⑧：VFバンド以外受信
- ⑨：交通情報局受信
- ⑩：DKスイッチ・オン

- ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ
- ⑫：RDSETスイッチ・オン
- ⑬：RDSETスイッチ・オフ

(h) CD・DKオン・モードから他モードへの移行



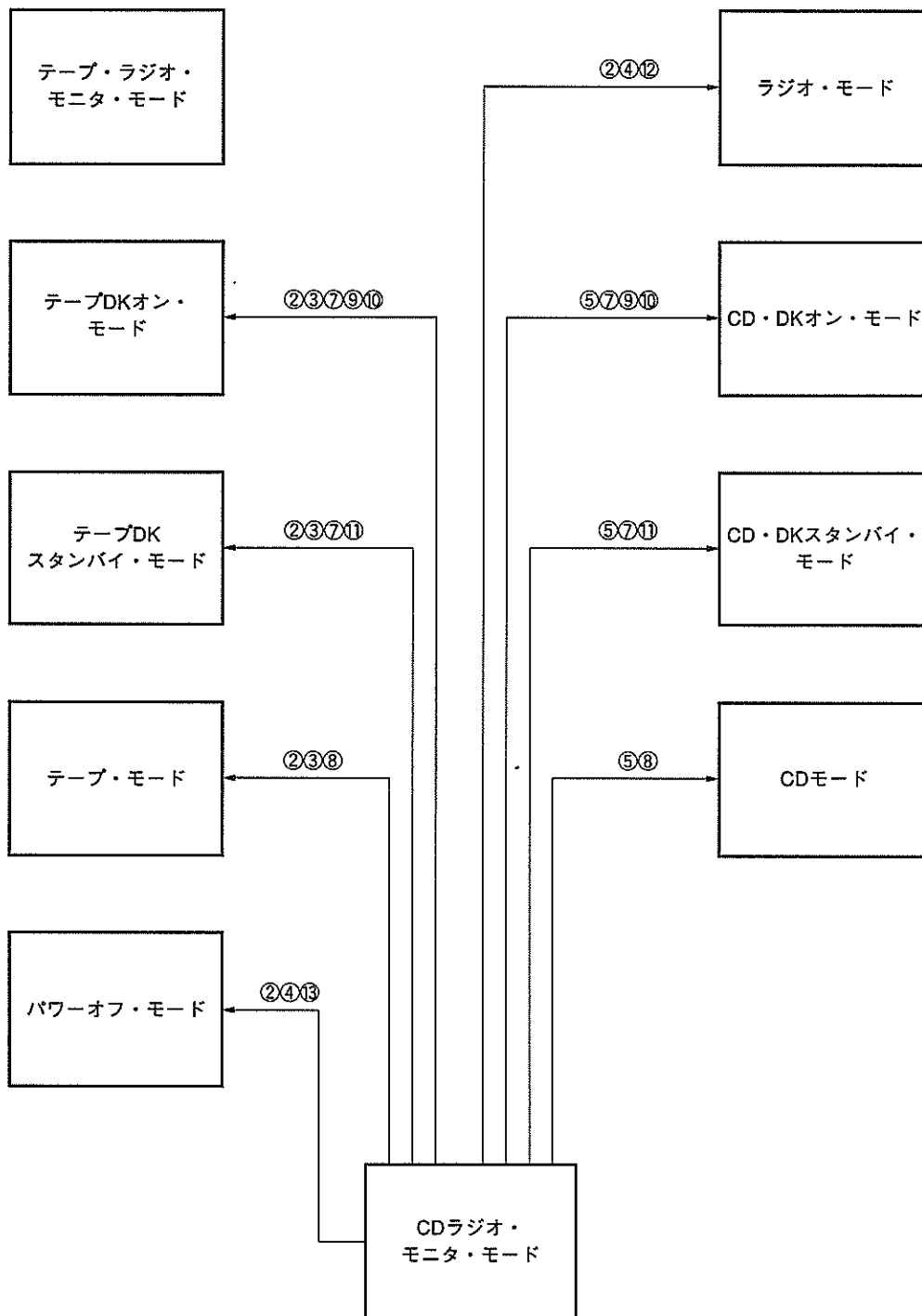
備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- ①：CDSETスイッチ・オン
- ②：CDSETスイッチ・オフ
- ③：TPSETスイッチ・オン
- ④：TPSETスイッチ・オフ
- ⑤：RDMONI キー・オン

- ⑥：VF キー・オン
- ⑦：VFバンド受信
- ⑧：VFバンド以外受信
- ⑨：交通情報局受信
- ⑩：DKスイッチ・オン

- ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ
- ⑫：RDSETスイッチ・オン
- ⑬：RDSETスイッチ・オフ

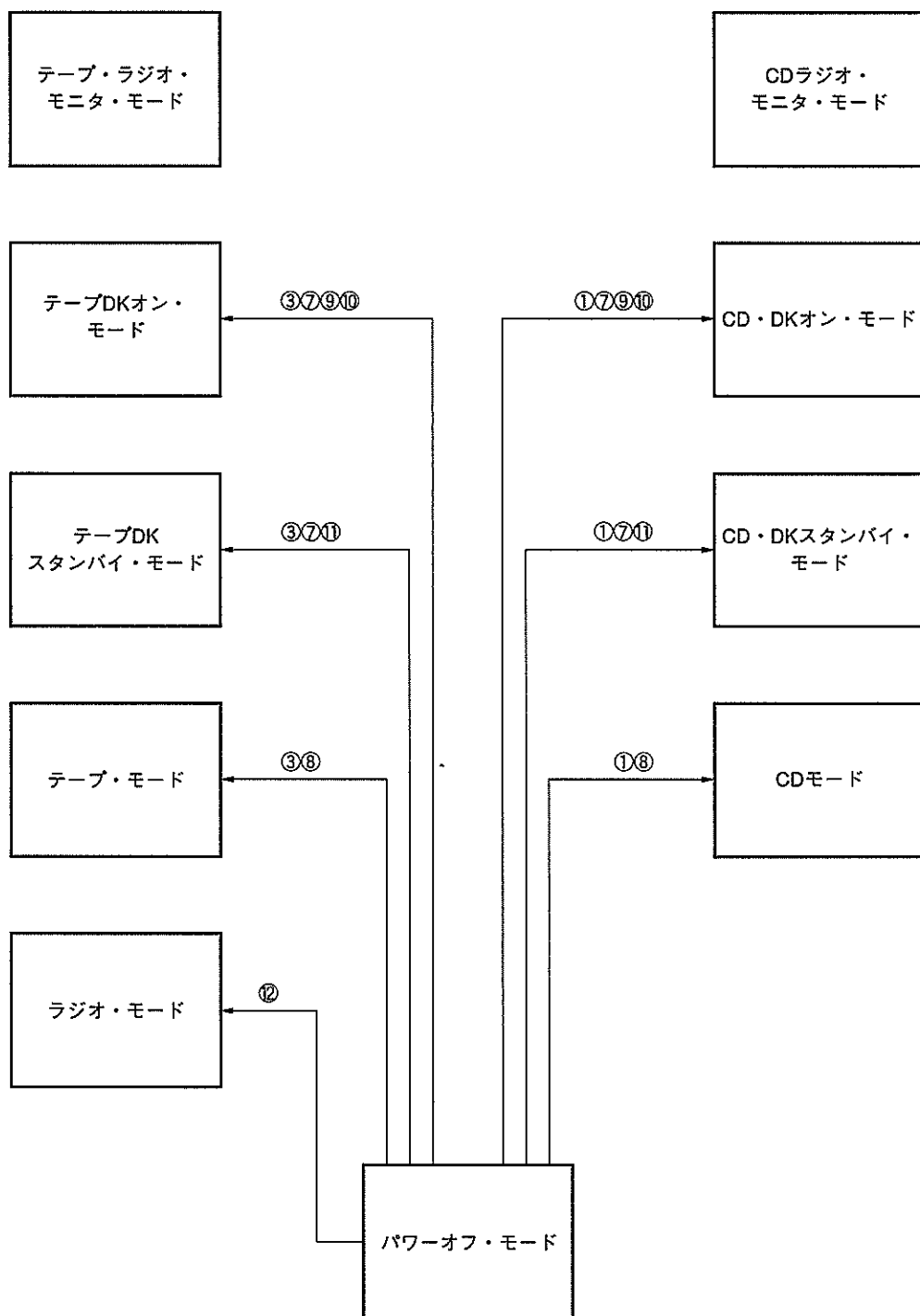
(i) CDラジオ・モニタ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|----------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | SKスイッチ・オフ or |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | DKスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |

(j) パワーオフ・モードから他モードへの移行

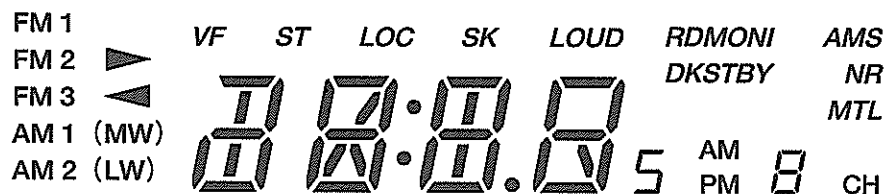


備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|---|---|--|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥： VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or
SKスイッチ・オフ or
DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | |
| ⑤： RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

4. 表 示

4.1 LCDパネル



LCDパネルに関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

〒581 大阪府八尾市北久宝寺1-4-33 ホシデン株式会社 表示体事業部管理課

電話 (代) 0729-93-1010

4.2 字 体



4.3 表 示 例

(1) テープ・モード



(2) CDモード



(3) オートストア






4.4 LCD割り当て

セグメント線 (端子番号) \ コモン線 (端子番号)	COM ₀ (37)	COM ₁ (36)	COM ₂ (35)
LCD ₀ (57)	ST	AM1 (MW)	FM1
LCD ₁ (56)	◀	AM2 (LW)	▶
LCD ₂ (55)	VF	FM3	FM2
LCD ₃ (54)	1d, g	1e	1a
LCD ₄ (53)	1k, h	1c	1b
LCD ₅ (52)	2l, i	2e	2f
LCD ₆ (51)	2g	2d	2a
LCD ₇ (50)	2j	2c	2b
LCD ₈ (49)	:	3e	3f
LCD ₉ (48)	3g	3d	3a
LCD ₁₀ (47)	3h, k	3c	3b
LCD ₁₁ (46)	.	4e	4f
LCD ₁₂ (45)	4g	4d	4a
LCD ₁₃ (44)	4j	4c	4b
LCD ₁₄ (43)	AM	PM	MONO
LCD ₁₅ (42)	5g	5e	5f
LCD ₁₆ (41)	5a, 5d	5c	5b
LCD ₁₇ (40)	RDMONI	CH	MTL
LCD ₁₈ (39)	5	NR	LOUD
LCD ₁₉ (38)	SK	AMS	LOC

4.5 表示説明

表 示	説 明
VF	VFバンドを選択していることを示す表示です。 (1) CDモード、テープ・モード時 消灯します。 (2) 上記モード以外 VFバンド選択時点灯します。
SK	交通情報放送局を受信していることを示す表示です。 (1) CDモード、テープ・モード時 消灯します。 (2) 上記モード以外 FMまたはVFバンド選択時、交通情報放送局受信状態のとき点灯します。 交通情報放送局受信状態とは、放送局受信状態でSKスイッチがオンしている状態です。
ST	ステレオ放送を受信していることを示す表示です。 (1) CDモード、テープ・モード時 消灯します。 (2) 上記モード以外 FM, VF およびMWバンド選択時、放送局受信状態でSTスイッチがオンでモノラル・オフ状態のとき点灯します (MWバンドは、初期設定ダイオードMWS = 1でステレオ受信機能ありのときのみST表示を点灯します)。 なお、選択バンドにかかわらずチューニング動作中は消灯します。
LOC	ローカル状態であることを示す表示です。 (1) CDモード、テープ・モード時 消灯します。 (2) 上記モード以外 ローカル状態のとき点灯します。
LOUD	ラウドネス・オン状態であることを示す表示です。 モードにかかわらず、ラウドネス・オン状態のとき点灯します。
MTL	メタル・オン状態であることを示す表示です。 (1) テープ・モード、テープDKスタンバイ・モード、テープDKオン・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード時 メタル・オン状態のとき、点灯します。 (2) 上記モード以外 消灯します。
NR	NRオン状態であることを示す表示です。 (1) テープ・モード、テープDKスタンバイ・モード、テープDKオン・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード時 NRオン状態のとき点灯します。 (2) 上記モード以外 消灯します。

表 示	説 明
MONO	<p>モノラル状態であることを示す表示です。</p> <p>(1) CDモード, テープ・モード時 消灯します。</p> <p>(2) 上記モード以外 FM, VF およびMWバンド選択時, モノラル・オフ状態で点灯します (MWバンドは, 初期設定ダイオードMWS = 1でステレオ受信機能ありのときのみモノラル表示を点灯します)。</p>
	<p>テープの走行方向を示す表示です。</p> <p>(1) テープ・モード, テープDKスタンバイ・モード, テープDKオン・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード時 RLスイッチの状態により走行方向を表示します。またFFスイッチがオンであれば点滅を行います。</p> <p>(2) 上記モード以外 消灯します。</p>
FM1 FM2 FM3 AM1 (MW) AM2 (LW)	<p>受信バンドを示す表示です。</p> <p>(1) CDモード, テープ・モード時 消灯します。</p> <p>(2) 上記モード以外 受信バンドを点灯します。</p>
	<p>受信周波数, “ATP”, “C II”, “TAPE” および時計を表示します。</p>
AMS	<p>AMS (Auto Music Search) 状態であることを示す表示です。</p> <p>(1) テープ・モード, テープDKスタンバイ・モード, テープDKオン・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード時 AMSオン状態のとき, 点灯します。</p> <p>(2) 上記モード以外 消灯します。</p>
AM PM	<p>12時間制の時間表示の午前 (AM), 午後 (PM) 表示です。</p>
	<p>プリセット・メモリ・ナンバを示す表示です。</p> <p>プリセット・メモリの書き込み, 呼び出しを行うと, 対応するプリセット・メモリ・ナンバと “CH” 表示を点灯します。</p> <p>周波数表示中に点灯し, 時計表示中は消灯します。</p> <p>プリセット・メモリ書き込み可能状態の時, “CH” 表示が1 Hzで点滅します。</p> <p>プリセット・メモリ・スキャン中は対応するプリセット・メモリ・ナンバが1 Hzで点滅します。</p>

5. リモート・コントロール

リモコン送信機用ICにはμPD6121Gを使用します。このICにはカスタム・コードがあり、このカスタム・コードが正しく設定されていないとμPD17012GF-011をリモコンでコントロールすることはできません。

μPD17012GF-011を動作させるカスタム・コードは8604Hで、送信機用IC（μPD6121G）のキー・マトリクス上にダイオードとプルアップ抵抗を接続して設定します（5.4 μPD6121G-002を用いたリモコン回路例参照）。

5.1 リモコン・キーの配置（μPD6121Gを使用した場合）

入力端子 (端子番号) 出力端子 (端子番号)	KI ₀ (1)	KI ₁ (2)	KI ₂ (3)	KI ₃ (4)
KI/O ₀ (19)	M1 (TP1)	M2 (TP2)	M3 (TP3)	M4
KI/O ₁ (18)	M5	M6	SEEK UP	SEEK DWN
KI/O ₂ (17)	SCAN UP	SCAN DWN	P. SCAN	BAND
KI/O ₃ (16)	VF	LOC	MONO	POWER
KI/O ₄ (15)	DISP	LOUD	RDMONI	—
KI/O ₅ (14)	ME	MAN UP	MAN DWN	—
KI/O ₆ (13)	AMS	NR	MTL	—
KI/O ₇ (12)	—	—	—	—

5.2 リモコン・キーの説明

μPD17012GF-011のモメンタリ・キーと同様の動作をします。

5.3 リモコン・データ・コード一覧

○単押し時

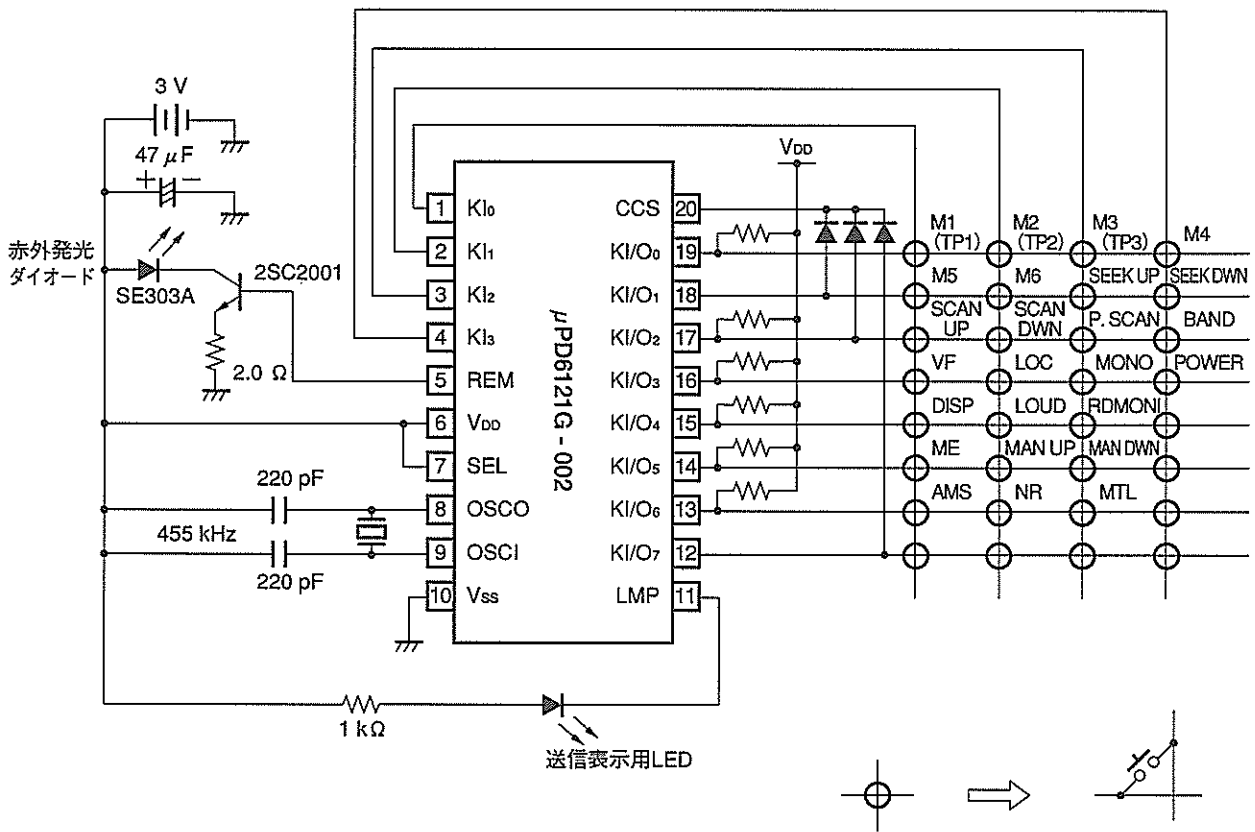
リモコン・キー	データ・コード							
	D0	D1	D2	D3	D4	D5	D6	D7
M1 (TP1)	0	0	0	0	0	0	0	0
M2 (TP2)	1	0	0	0	0	0	0	0
M3 (TP3)	0	1	0	0	0	0	0	0
M4	1	1	0	0	0	0	0	0
M5	0	0	1	0	0	0	0	0
M6	1	0	1	0	0	0	0	0
SEEK UP	0	1	1	0	0	0	0	0
SEEK DWN	1	1	1	0	0	0	0	0
SCAN UP	0	0	0	1	0	0	0	0
SCAN DWN	1	0	0	1	0	0	0	0
P. SCAN	0	1	0	1	0	0	0	0
BAND	1	1	0	1	0	0	0	0
VF	0	0	1	1	0	0	0	0
LOC	1	0	1	1	0	0	0	0
MONO	0	1	1	1	0	0	0	0
POWER	1	1	1	1	0	0	0	0

リモコン・キー	データ・コード							
	D0	D1	D2	D3	D4	D5	D6	D7
DISP	0	0	0	0	1	0	0	0
LOUD	1	0	0	0	1	0	0	0
RDMONI	0	1	0	0	1	0	0	0
—	1	1	0	0	1	0	0	0
ME	0	0	1	0	1	0	0	0
MAN UP	1	0	1	0	1	0	0	0
MAN DWN	0	1	1	0	1	0	0	0
—	1	1	1	0	1	0	0	0
AMS	0	0	0	1	1	0	0	0
NR	1	0	0	1	1	0	0	0
MTL	0	1	0	1	1	0	0	0
—	1	1	0	1	1	0	0	0
—	0	0	1	1	1	0	0	0
—	1	0	1	1	1	0	0	0
—	0	1	1	1	1	0	0	0
—	1	1	1	1	1	0	0	0

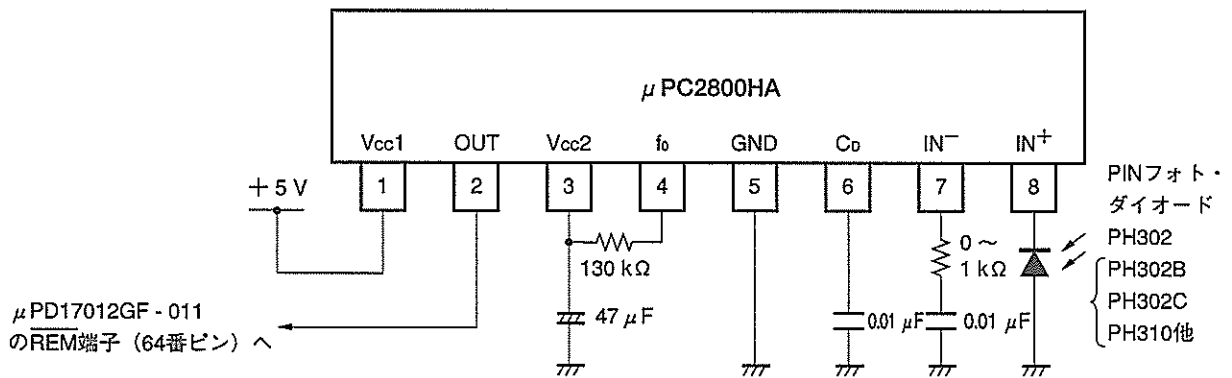
○2重押し時

リモコン・キー	データ・コード							
	D0	D1	D2	D3	D4	D5	D6	D7
ME + MAN UP	1	0	1	0	1	1	0	0
ME + MAN DWN	0	1	1	0	1	1	0	0

5.4 μPD6121G-002を用いたリモコン回路例



5.5 μPC2800HAを用いたリモコン・プリアンプ回路例



6. ミュート出力タイミング・チャート

この項のタイミング・チャートの中の①-⑥は、次のことを示しています。

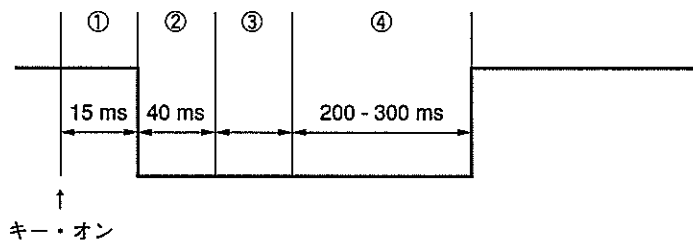
- ①：キー・オン・チャタリング防止
- ②：ミュート先出しおよびビープ出力
- ③：分周比設定および表示内容の更新
- ④：ミュート後出し
- ⑤：スキャン時間
- ⑥：PLLのロック待ち

6.1 ラジオ・ミュート (RDMUTE端子) 出力タイミング・チャート

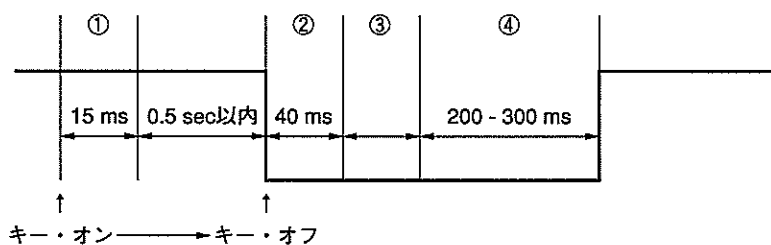
(1) マニュアル・アップ/ダウン

(a) 1チャンネル・アップ/ダウン

(i) AUTO500スイッチ=0のとき



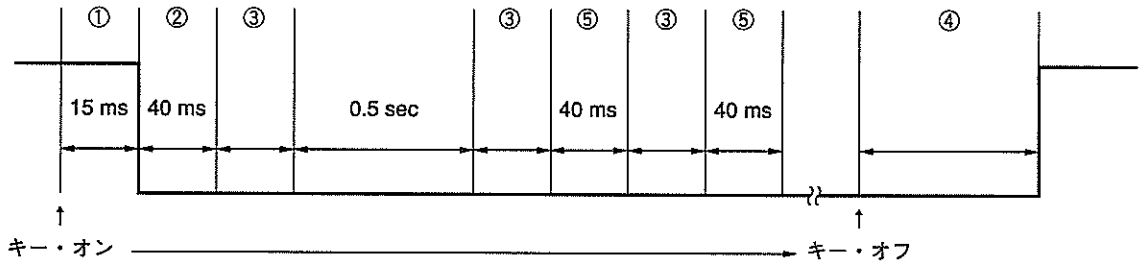
(ii) AUTO500スイッチ=1のとき



(i), (ii) ともにバンド・エッジ (最低周波数 ⇄ 最高周波数) では④の時間は600 - 700 msとなります。

(b) 連続アップ/ダウン

(i) AUTO500スイッチ=0のとき



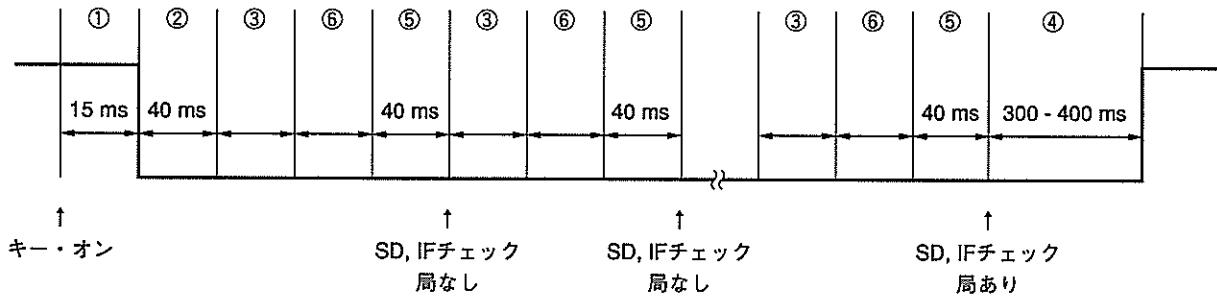
バンド・エッジでは⑤の時間は500 msとなり、④の時間は600 - 700 msとなります。

(ii) AUTO500スイッチ=1のとき

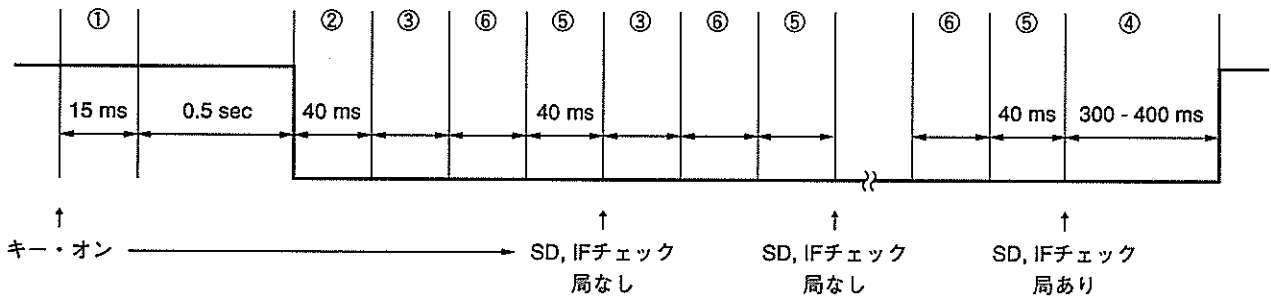
キーを0.5秒以上押し続けることによりオートチューニングとなるため、連続アップ/ダウンは行いません。

(2) オートアップ/ダウン

(a) **SEEK UP** , **SEEK DWN** , **SCAN UP** , **SCAN DWN** キー



(b) AUTO500スイッチ=1のときに **MAN UP** , **MAN DWN** キーを0.5秒以上押し続けた場合

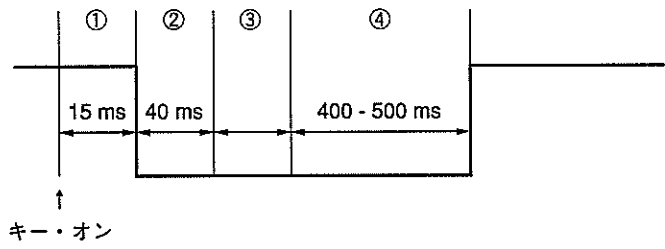


(a) , (b) とともにバンド・エッジでは⑤の時間が540 msとなります。

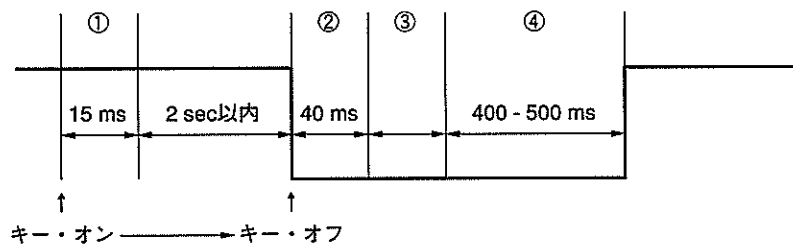
IFチェックは、FASTモードとSLOWモードで2回行います。

(3) プリセット・メモリ呼び出し

(a) M2Sスイッチ=0のとき

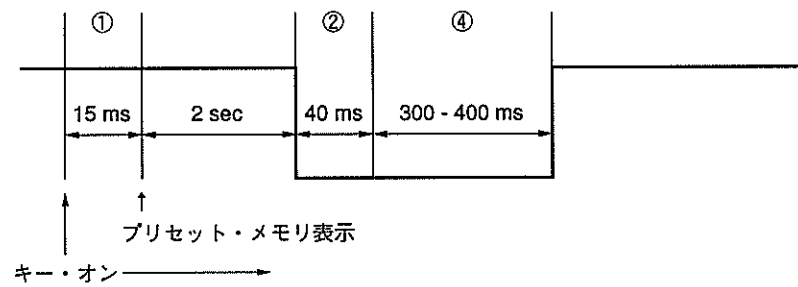


(b) M2Sスイッチ=1のとき



(4) プリセット・メモリ書き込み

(a) M2Sスイッチ=0のとき

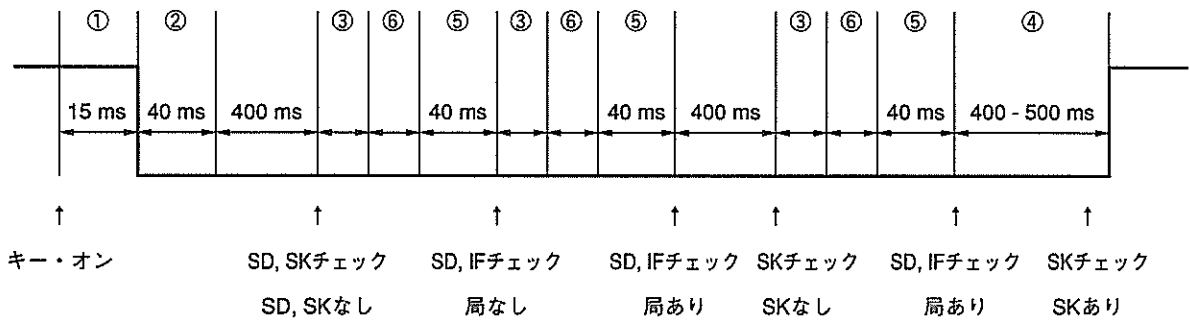


(b) M2Sスイッチ=1のとき

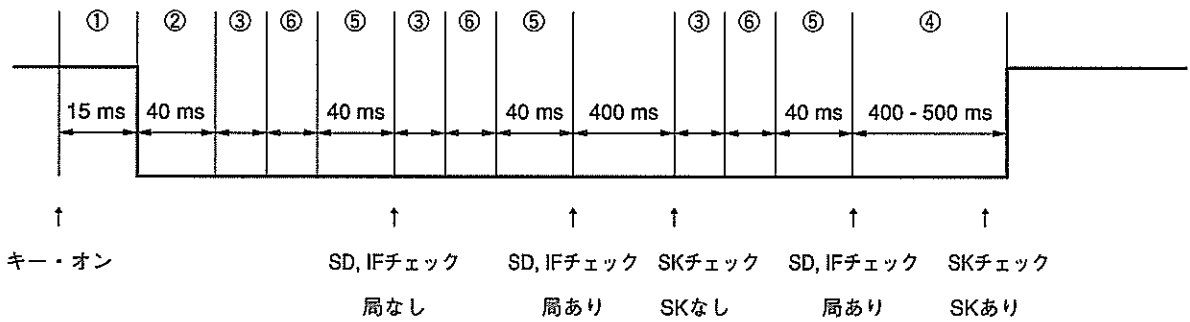
ミュートは出力しません。

(5) VFモード

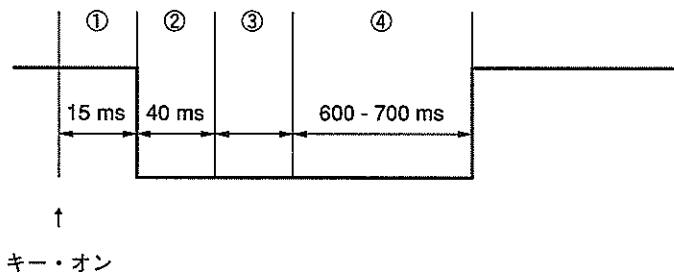
(a) VF キー・オンでVFモードとなったとき



(b) VFモード中のシークおよびスキャン動作

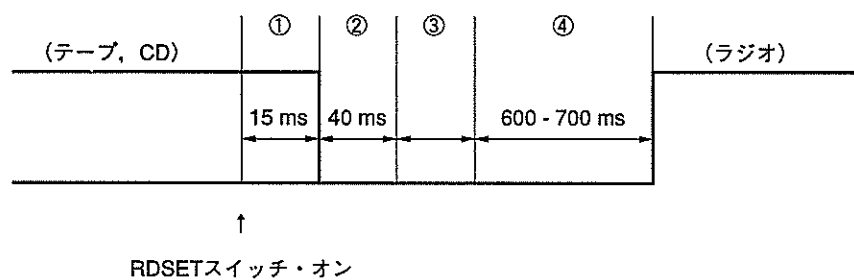


(6) バンド切り替え

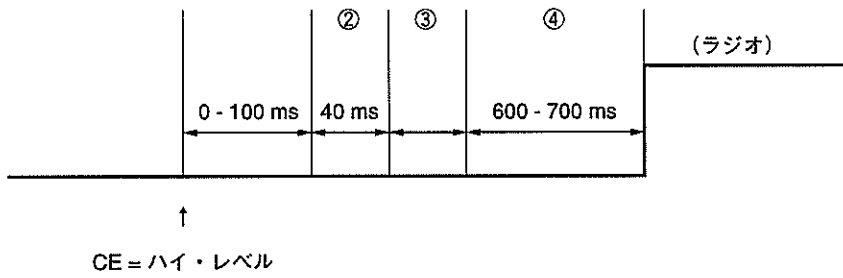


(7) ラジオのオフ → オン

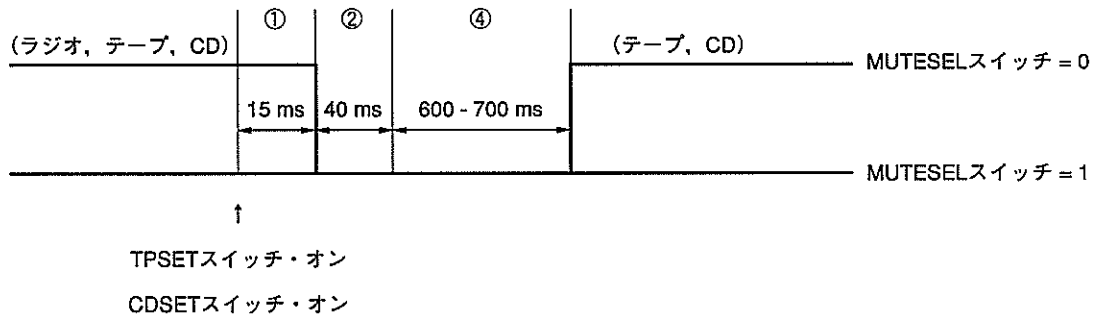
(a) RDSETスイッチの場合



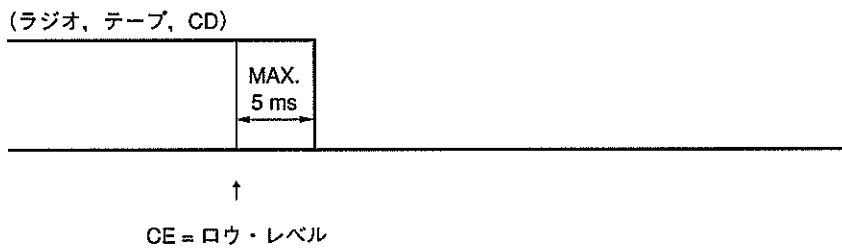
(b) RDONスイッチ=1によるCE=ロウ・レベル→ハイ・レベル



(8) テープまたはCDのオフ → オン

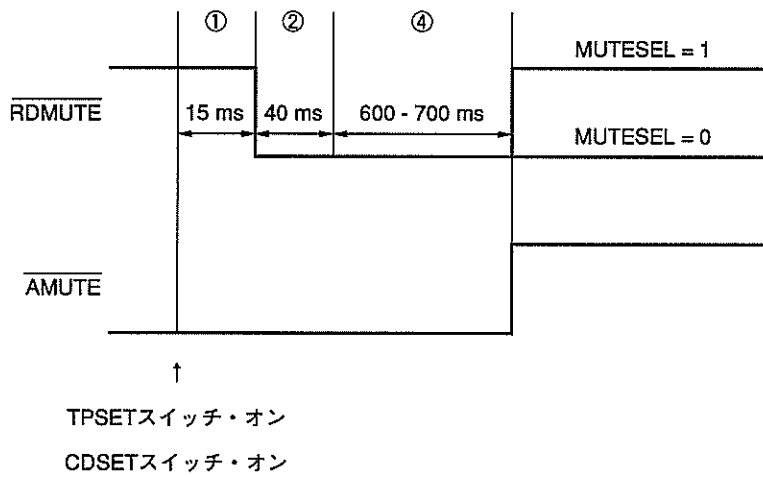


(9) CE端子のハイ・レベル → ロウ・レベル

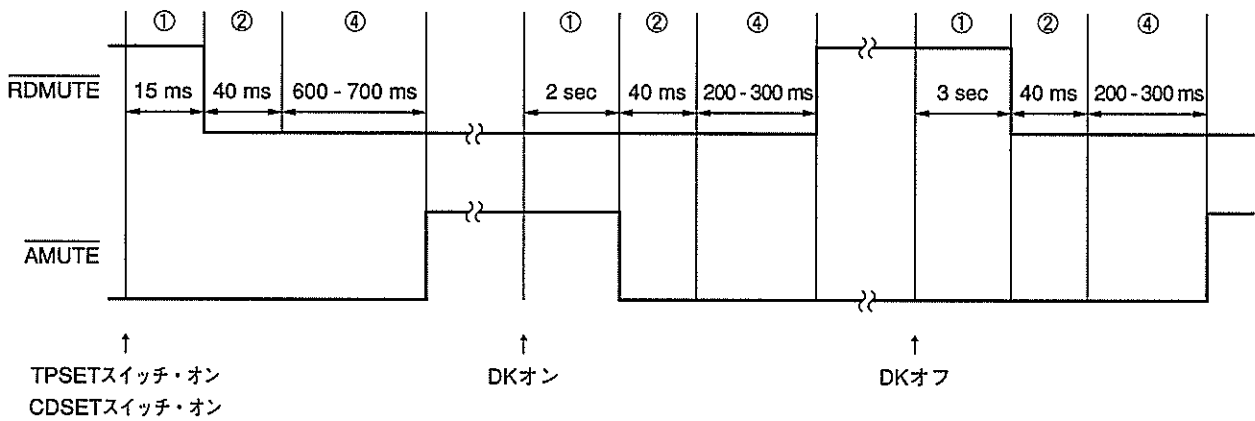


6.2 ラジオ・ミュート (RDMUTE端子) とオーディオ・ミュート (AMUTE端子) 出力タイミング・チャート

(1) ラジオ・モードからテープ, CDモードになったとき

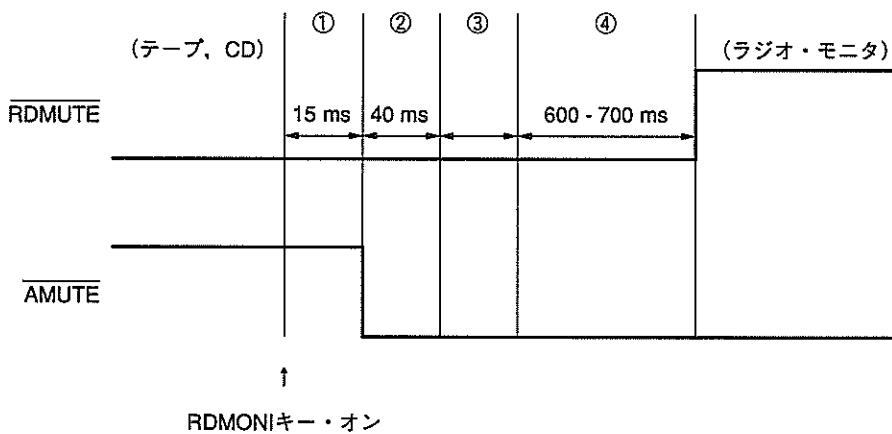


(2) VFバンドからテープ, CDモードになったとき (MUTESELは0にしてください)

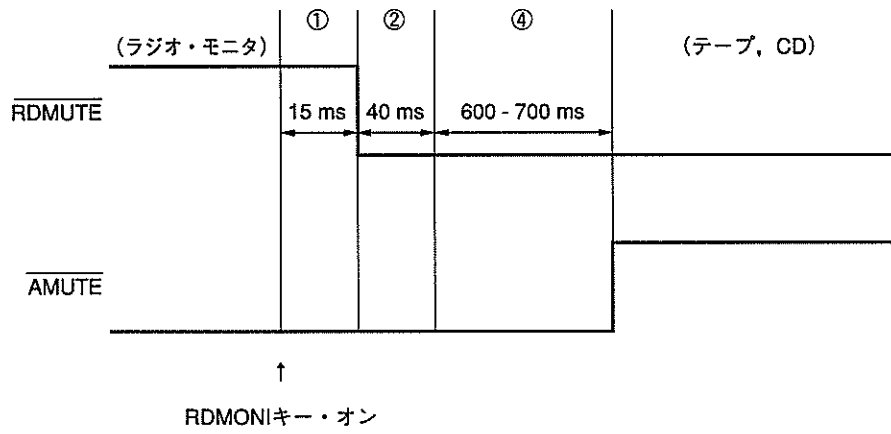


(3) ラジオ・モニタ時 (MUTESELは0にしてください)

(a) ラジオ・モニタ・オフ → オン



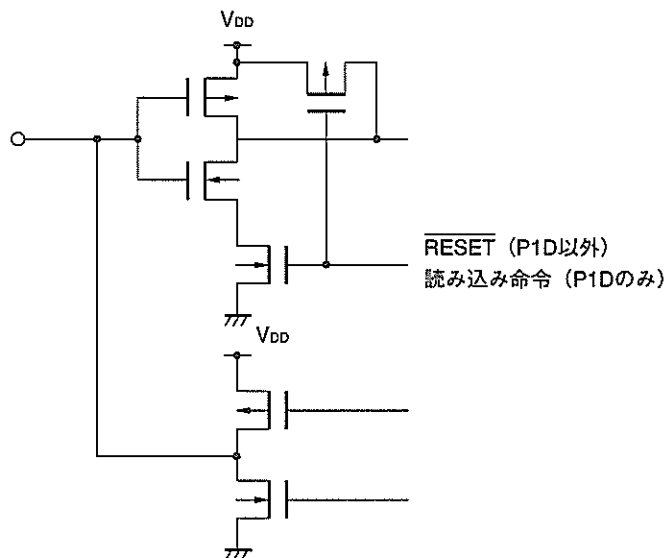
(b) ラジオ・モニタ・オン→オフ



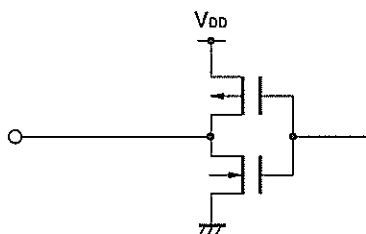
7. 端子の入出力回路

μPD17012GF-011の各端子の入出力回路を一部簡略した形式を用いて示します。

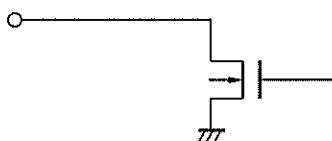
- (1) P0A (P0A₀/LOUD)
 - P0B (P0B₃/SK, P0B₂/DK, P0B₁/BEEP/MODE2, P0B₀/KEYS₄)
 - P1A (P1A₂/METAL, P1A₁/MONO/NR, P1A₀/AMS)
 - P1D (P1D₃/MODE, P1D₂/POWER, P1D₁/BAND₁, P1D₀/BAND₂)
- (入出力)



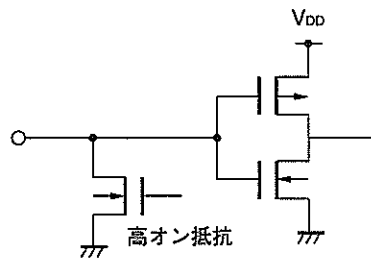
- (2) P1C (P1C₃/AGCC, P1C₂/LOC, P1C₁/ $\overline{\text{AMUTE}}$, P1C₀/ $\overline{\text{RDMUTE}}$)
 - LCD₁₉/P2H₀, LCD₁₈/POUT/P2G₀, LCD₁₇/P2F₀, LCD₁₆/ $\overline{\text{LCD CS}}$ /P2E₀
 - LCD₁₅ - LCD₉
 - LCD₈/KS₈ - LCD₀/KS₀
- (出力)



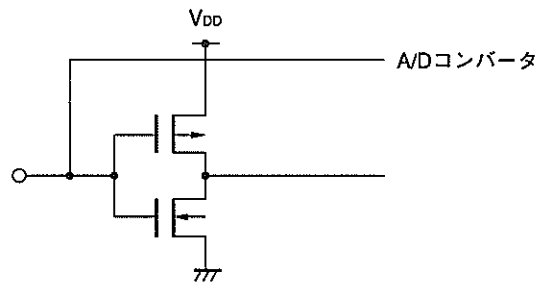
- (3) P0C (P0C₃/KEYS₃ - P0C₀/KEYS₀) (出力)



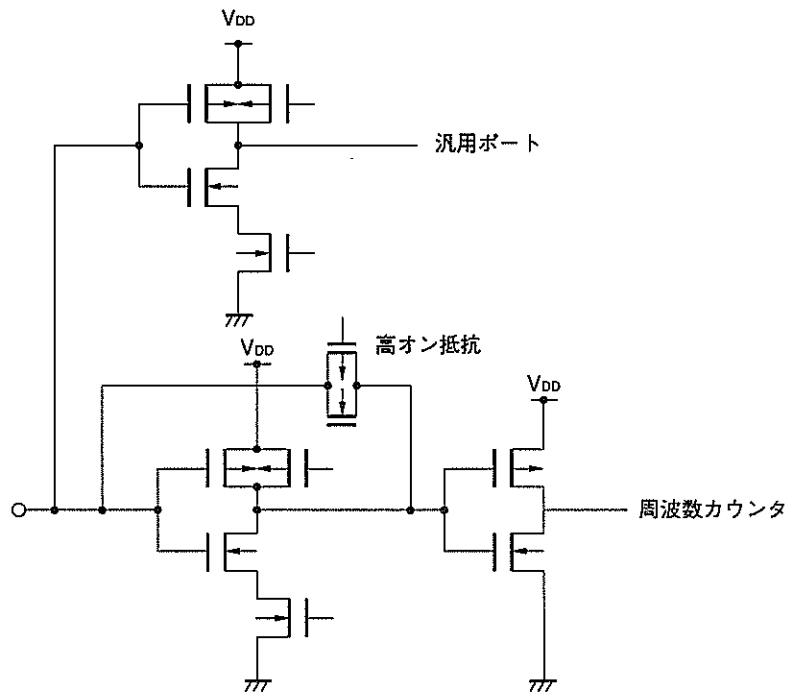
(4) K₃ - K₀ (入力)



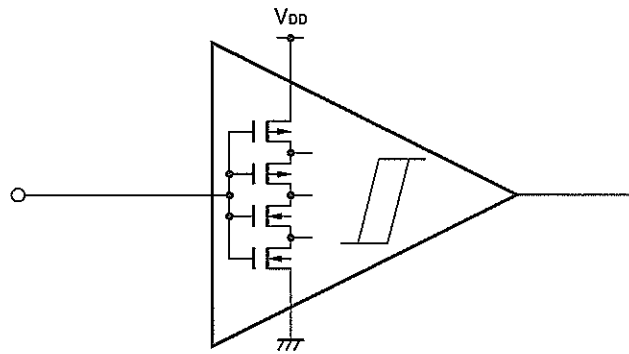
(5) KY - IN, SD (入力)



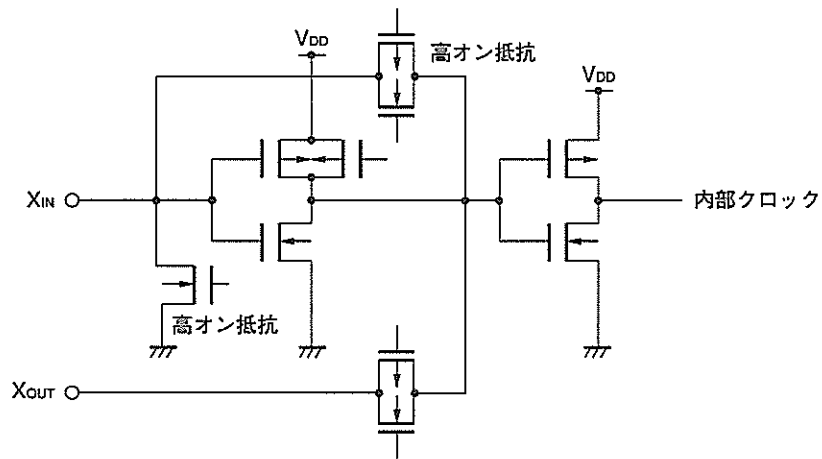
(6) FMIFC, AMIFC (入力)



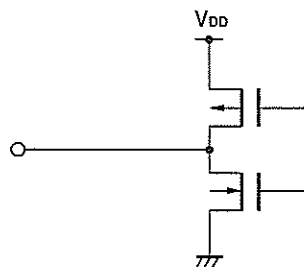
(7) CE } (シュミット・トリガ入力)
 INT/REM }



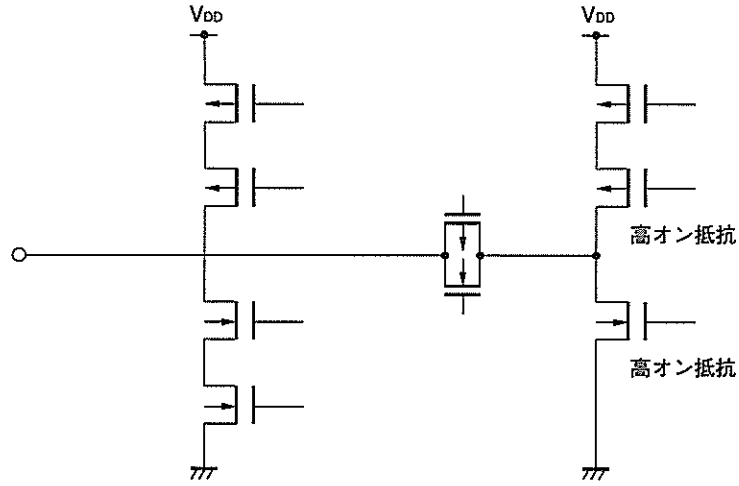
(8) X_{OUT} (出力), X_{IN} (入力)



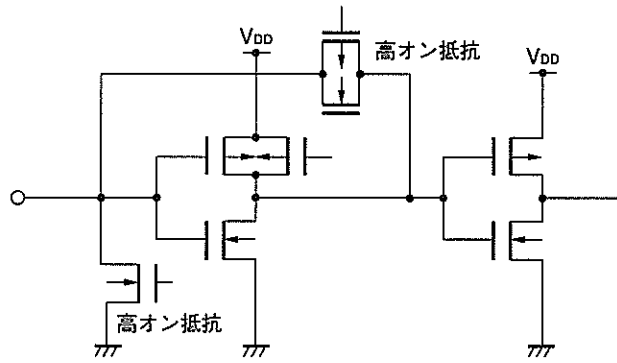
(9) EO (出力)



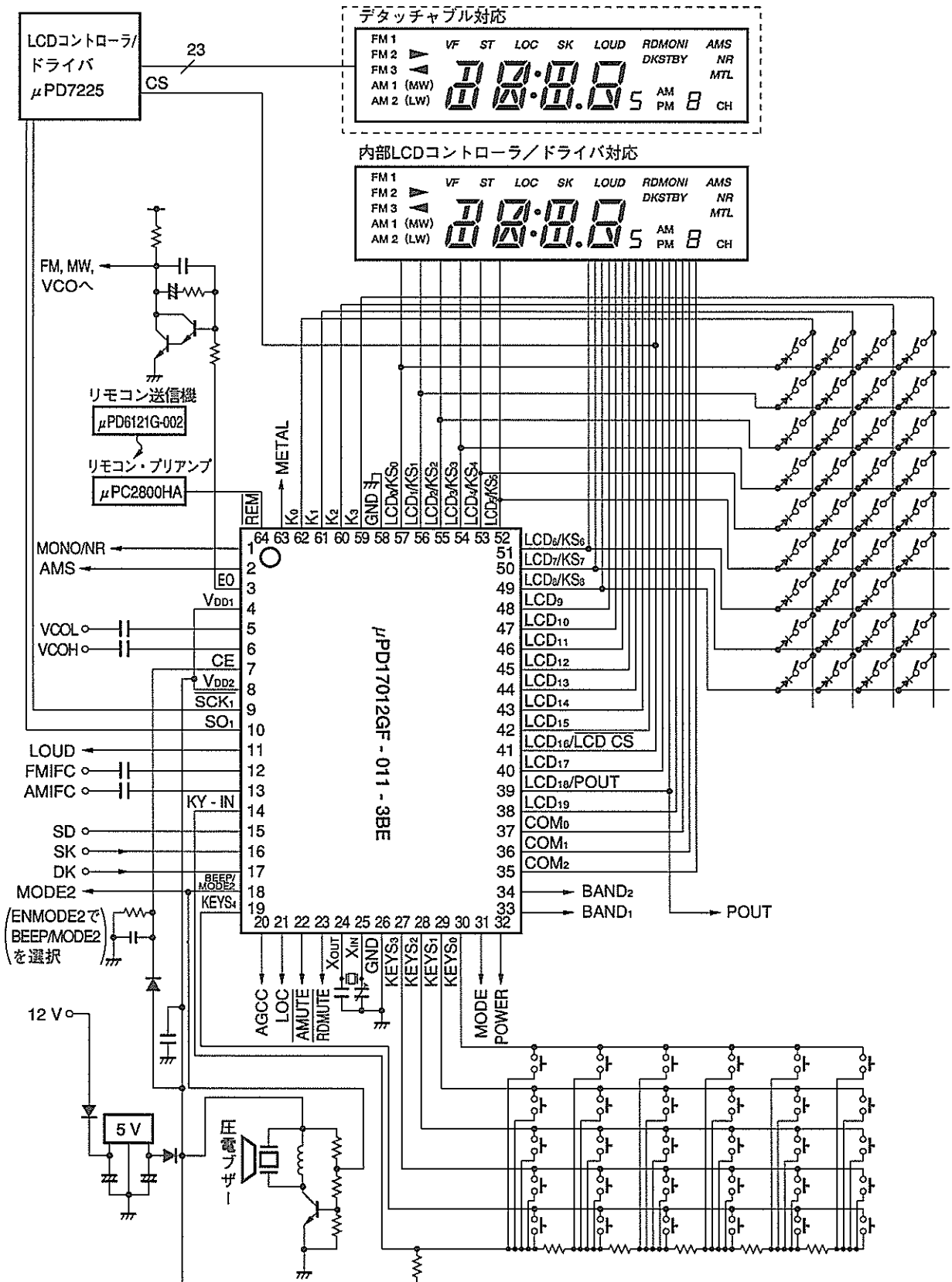
(10) COM₀, COM₁, COM₂ (出力)



(11) VCOH } (入力)
VCOL }



8. 応用回路例



9. 電氣的特性 (暫定)

絶対最大定格 (Ta = 25 °C)

項目	略号	条件	定格	単位
電源電圧	V _{DD}		-0.3 ~ +6.0	V
入力電圧	V _I		-0.3 ~ V _{DD} + 0.3	V
出力電圧	V _O	P0C ₀ - P0C ₃ を除く	-0.3 ~ V _{DD} + 0.3	V
高レベル出力電流	I _{OH}	1端子	-12.0	mA
		全端子合計	-20.0	mA
低レベル出力電流	I _{OL}	1端子	15.0	mA
		全端子合計	30.0	mA
出力耐圧	V _{BDS}	P0C ₀ - P0C ₃	10.0	V
全損失	P _t		400	mW
動作温度	T _{opt}	全機能動作時	-40 ~ +85	°C
保存温度	T _{stg}		-55 ~ +125	°C

注意 各項目のうち1項目でも、また一瞬でも絶対最大定格を越えると、製品の品質を損なう恐れがあります。つまり絶対最大定格とは、製品に物理的な損傷を与えかねない定格値です。必ずこの定格値を越えない状態で、製品をご使用ください。

推奨動作範囲 (Ta = -40 ~ +85 °C)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
電源電圧	V _{DD1}	全機能動作	4.5	5.0	5.5	V
	V _{DD2}	CPU動作、PLL停止時	3.5	5.0	5.5	V
データ保持電圧	V _{DDR}	水晶発振停止時	2.3		5.5	V
出力耐圧	V _{BDS}	P0C ₀ - P0C ₃			9.0	V
電源電圧立ち上がり時間	t _{iso}	V _{DD} : 0 → 4.5 V			500	ms

DC特性 (Ta = -40 ~ +85 °C, VDD = 5 V ± 10%)

項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位
電源電流	I _{DD1}	CPU動作, PLL停止, X _{IN} 端子正弦波入力 (f _{IN} = 4.5 MHz, V _{IN} = V _{DD})			2.0	3.0	mA
	I _{DD2}	CPU動作, PLL停止, X _{IN} 端子正弦波入力 (f _{IN} = 4.5 MHz, V _{IN} = V _{DD}) HALT命令使用			0.5	1.0	mA
データ保持電圧	V _{DDR1}	水晶発振時	タイマFFによる停電検出使用	3.5			V
	V _{DDR2}	水晶発振停止時	タイマFFによる停電検出使用	2.3			V
	V _{DDR3}		データ・メモリ保持	2.0			V
データ保持電流	I _{DDR1}	水晶発振停止時	V _{DD} = 5 V, Ta = 25 °C		2.0	4.0	μA
	I _{DDR2}			2.0	20.0	μA	
	I _{DDR3}		V _{DD} = 2.3 V, Ta = 25 °C		1.0	2.0	μA
	I _{DDR4}		V _{DD} = 2.3 V		1.0	10.0	μA
中間レベル出力電圧	V _{OM}	COM ₀ - COM ₂	V _{DD} = 5.0 V	2.3		2.7	V
高レベル入力電圧	V _{IH1}	P0A ₁ , P0B ₀ - P0B ₃ , P1A ₀ - P1A ₂ , P1B ₀ - P1B ₃ , P1D ₀ - P1D ₃		0.7 V _{DD}		V _{DD}	V
	V _{IH2}	P0A ₀ , P0A ₂ , CE, INT		0.8 V _{DD}		V _{DD}	V
	V _{IH3}	P0D ₀ - P0D ₃		0.6 V _{DD}		V _{DD}	V
低レベル入力電圧	V _{IL1}	P0A ₁ , P0B ₀ - P0B ₃ , P0D ₀ - P0D ₃ , P1A ₀ - P1A ₂ , P1B ₀ - P1B ₃ , P1D ₀ - P1D ₃				0.2 V _{DD}	V
	V _{IL2}	P0A ₀ , P0A ₂ , CE, INT				0.2 V _{DD}	V
高レベル出力電流	I _{OH1}	P0A ₀ - P0A ₂ , P0B ₀ - P0B ₃ , P1A ₀ - P1A ₂ , P1C ₀ - P1C ₃ , P1D ₀ - P1D ₃		V _{OH} = V _{DD} - 1 V	-1.0		mA
	I _{OH2}	LCD ₀ - LCD ₁₉ , EO		V _{OH} = V _{DD} - 1 V	-1.0		mA
低レベル出力電流	I _{OL1}	P0A ₀ - P0A ₂ , P0B ₀ - P0B ₃ , P1A ₀ - P1A ₂ , P1C ₀ - P1C ₃ , P1D ₀ - P1D ₃		V _{OL} = 1 V	1.0		mA
	I _{OL2}	LCD ₀ - LCD ₁₉ , EO		V _{OL} = 1 V	1.0		mA
	I _{OL3}	P0C ₀ - P0C ₃		V _{OL} = 1 V	10		mA
高レベル入力電流	I _{IH1}	VCOH端子プルダウン時		V _{IH} = V _{DD}	0.1		mA
	I _{IH2}	VCOL端子プルダウン時		V _{IH} = V _{DD}	0.1		mA
	I _{IH3}	X _{IN} 端子プルダウン時		V _{IH} = V _{DD}	0.1		mA
	I _{IH4}	P0D ₀ - P0D ₃ プルダウン時		V _{IH} = V _{DD}	10	150	μA
出力オフ・リーク電流	I _{L1}	P0C ₀ - P0C ₃		V _{OH} = 9 V		1.0	μA
	I _{L2}	EO		V _{OH} = V _{DD} , V _{CL} = 0 V		±1.0	μA

AC特性 (Ta = -40 ~ +85 °C, VDD = 5 V ± 10%)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
動作周波数	f _{IN1}	VCOL端子 MFモード 正弦波入力V _{IN} = 0.3 V _{P-P}	0.58		30	MHz
	f _{IN2}	VCOL端子 HFモード 正弦波入力V _{IN} = 0.3 V _{P-P}	5		40	MHz
	f _{IN3}	VCOH端子 VHFモード 正弦波入力V _{IN} = 0.3 V _{P-P}	30		250	MHz
	f _{IN4}	AMIFC端子, FMIFC端子 AMIFカウント・モード 正弦波入力V _{IN} = 0.3 V _{P-P}	0.3		1.0	MHz
	f _{IN5}	AMIFC端子 AMIFカウント・モード 正弦波入力V _{IN} = 0.1 V _{P-P}	0.44		0.46	MHz
	f _{IN6}	FMIFC端子 FMIFカウント・モード 正弦波入力V _{IN} = 0.3 V _{P-P}	5		15	MHz
	f _{IN7}	FMIFC端子 FMIFカウント・モード 正弦波入力V _{IN} = 0.1 V _{P-P}	10.5		10.9	MHz

A/Dコンバータ特性 (Ta = -40 ~ +85 °C, VDD = 5 V ± 10%)

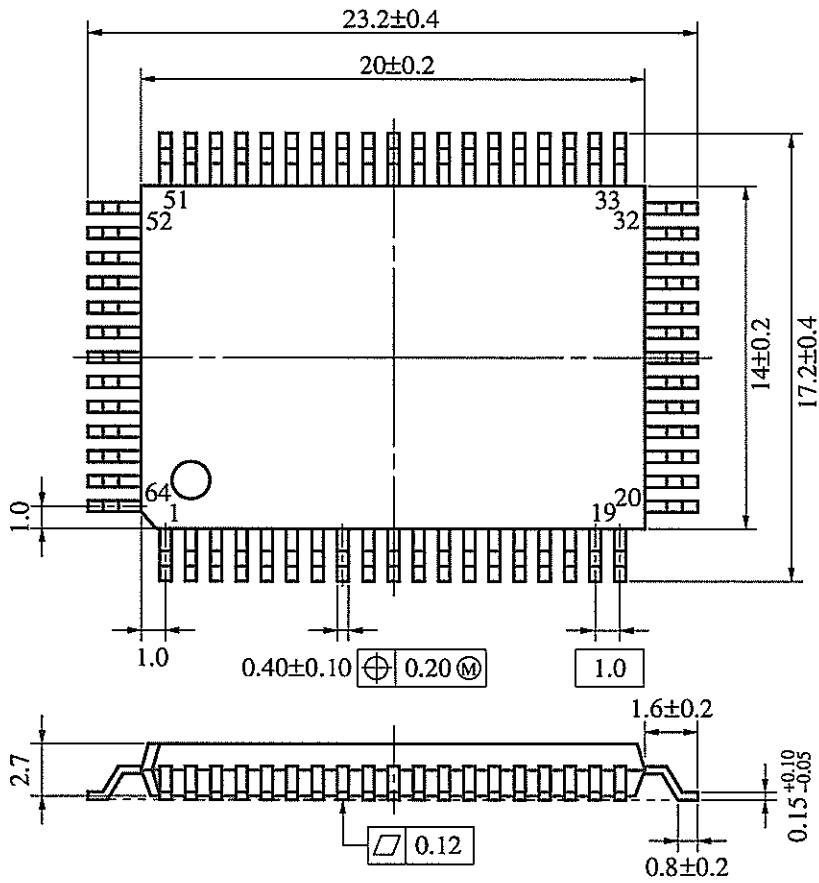
項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
A/D変換分解能					6	bit
A/D変換総合誤差		Ta = -10 ~ +50 °C		± 1.0	± 1.5	LSB

参考特性 (Ta = +25 °C, VDD = 5.0 V)

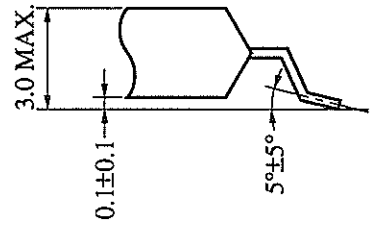
項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
電源電流	I _{DD3}	CPUおよびPLL動作, VCOH端子正弦波入力 (f _{IN} = 130 MHz, V _{IN} = 0.3 V _{P-P})		15		mA
	I _{DD4}	CPUおよびPLL動作, VCOH端子正弦波入力 (f _{IN} = 250 MHz, V _{IN} = 0.3 V _{P-P})		18		mA
高レベル出力電流	I _{OH3}	COM ₀ - COM ₂ V _{OH} = V _{DD} - 1 V		- 300		μA
低レベル出力電流	I _{OL4}	COM ₀ - COM ₂ V _{OL} = 1 V		300		μA
中間レベル出力電流	I _{OM1}	COM ₀ - COM ₂ V _{OH} = V _{DD} - 1 V		- 25		μA
	I _{OM2}	COM ₀ - COM ₂ V _{OL} = 1 V		25		μA

10. 外形図

64ピン・プラスチック QFP (14×20) 外形図 (単位: mm)



端子先端形状詳細図



S64GF-100-3B8,3BE-1

(x ㄷ)

CMOSデバイスの一般的注意事項

①静電気対策（MOS全般）

注意 MOSデバイス取り扱いの際は静電気防止を心がけてください。

MOSデバイスは強い静電気によってゲート絶縁破壊を生じることがあります。運搬や保存の際には、NECが出荷梱包に使用している導電性のトレーやマガジン・ケース、または導電性の緩衝材、金属ケースなどを利用し、組み立て工程にはアースを施してください。プラスチック板上に放置したり、端子を触ったりしないでください。

また、MOSデバイスを実装したボードについても同様の扱いをしてください。

②未使用入力の処理（CMOS特有）

注意 CMOSデバイスの入力レベルは固定してください。

バイポーラやNMOSのデバイスと異なり、CMOSデバイスの入力に何も接続しない状態で動作させると、ノイズなどに起因する中間レベル入力が生じ、内部で貫通電流が流れて誤動作を引き起こす恐れがあります。プルアップかプルダウンによって入力レベルを固定してください。また、未使用端子が出力となる可能性（タイミングは規定しません）を考慮すると、個別に抵抗を介してV_{DD}またはGNDに接続することが有効です。

資料中に「未使用端子の処理」について記載のある製品については、その内容を守ってください。

③初期化以前の状態（MOS全般）

注意 電源投入時、MOSデバイスの初期状態は不定です。

分子レベルのイオン注入量等で特性が決定するため、初期状態は製造工程の管理外です。電源投入時の端子の出力状態や入出力設定、レジスタ内容などは保証しておりません。ただし、リセット動作やモード設定で定義している項目については、これらの動作ののちに保証の対象となります。

リセット機能を持つデバイスの電源投入後は、まずリセット動作を実行してください。

○文書による当社の承諾なしに本資料の転載複製を禁じます。

○本資料に記載された製品の使用もしくは本資料に記載の情報の使用に際して、当社は当社もしくは第三者の知的所有権その他の権利に対する保証または実施権の許諾を行うものではありません。上記使用に起因する第三者所有の権利にかかわる問題が発生した場合、当社はその責を負うものではありませんのでご了承ください。

○当社は品質、信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生します。当社半導体製品の故障により結果として、人身事故、火災事故、社会的な損害等を生じさせない冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等安全設計に十分ご注意ください。

○当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「特別水準」およびお客様に品質保証プログラムを指定して頂く「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認の上ご使用願います。

標準水準：コンピュータ、OA機器、通信機器、計測機器、AV機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット

特別水準：輸送機器（自動車、列車、船舶等）、交通用信号機器、防災/防犯装置、各種安全装置、生命維持を直接の目的としない医療機器

特定水準：航空機器、航空宇宙機器、海底中継器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器、生命維持のための装置またはシステム等

当社製品のデータ・シート/データ・ブック等の資料で、特に品質水準の表示がない場合は標準水準製品であることを表します。当社製品を上記の「標準水準」の用途以外でご使用をお考えのお客様は、必ず事前に当社販売窓口までご相談頂きますようお願い致します。

○この製品は耐放射線設計をしております。

M4 94.11

本資料に掲載の応用回路および回路定数は、例示的に示したものであり、量産設計を対象とするものではありません。

○文書による当社の承諾なしに本資料の転載複製を禁じます。

○この製品を使用したことにより、第三者の工業所有権等にかかわる問題が発生した場合、当社製品の構造製法に直接かかわるもの以外につきましては、当社はその責を負いませんのでご了承ください。

○当社は、航空宇宙機器、海底中継器、原子力制御システム、生命維持のための医療用機器などに推奨できる製品を標準的には用意しておりません。当社製品をこれらの用途にご使用をお考えのお客様、および、『標準』品質水準品を当社が意図した用途以外にご使用をお考えのお客様は、事前に販売窓口までご連絡頂きますようお願い致します。

当社推奨の用途例

標準：コンピュータ、OA機器、通信機器、計測機器、工作機械、産業用ロボット、AV機器、家電等

特別：輸送機器（列車、自動車等）、交通信号機器、防災/防犯装置等

○この製品は耐放射線設計をしております。

M4 92.6

— お問い合わせは、最寄りのNECへ —

【営業関係お問い合わせ先】

コンシューマ半導体販売事業部 OA半導体販売事業部 インダストリ半導体販売事業部	〒108-01 東京都港区芝五丁目7番1号 (NEC本社ビル)	東京 (03)3454-1111 (大代表)
中部支社 半導体販売部	〒460 名古屋市中区栄四丁目14番5号 (松下中目ビル)	名古屋 (052)242-2755
半導体第一販売部 関西支社 半導体第二販売部 半導体第三販売部	〒540 大阪市中央区城見一丁目4番24号 (NEC関西ビル)	大阪 (06) 945-3178 大阪 (06) 945-3200 大阪 (06) 945-3208
北海道支社 札幌 (011)231-0161 東北支社 仙台 (022)261-5511 岩手支店 盛岡 (0196)51-4344 山形支店 山形 (0236)23-5511 郡山支店 郡山 (0249)23-5511 いわき支店 いわき (0246)21-5511 長岡支店 長岡 (0258)36-2155 水戸支店 水戸 (0292)26-1717 神奈川支店 横浜 (045)324-5511 群馬支店 高崎 (0273)26-1255 太田支店 太田 (0276)46-4011 宇都宮支店 宇都宮 (0286)21-2281	小山支店 小山 (0285)24-5011 長野支店 長野 (0262)35-1444 松本支店 松本 (0263)35-1666 上諏訪支店 上諏訪 (0266)53-5350 甲府支店 甲府 (0552)24-4141 埼玉支店 埼玉 (048)641-1411 立川支店 立川 (0425)26-5981 千葉支店 千葉 (043)238-8116 静岡支店 静岡 (054)255-2211 沼津支店 沼津 (0559)63-4455 浜松支店 浜松 (053)452-2711 北陸支店 金沢 (0762)23-1621	福井支店 福井 (0776)22-1866 富山支店 富山 (0764)31-8461 京都支店 京都 (075)344-7824 神戸支店 神戸 (078)332-3311 中国支店 広島 (082)242-5504 鳥取支店 鳥取 (0857)27-5311 岡山支店 岡山 (086)225-4455 四国支店 高松 (0878)36-1200 新居浜支店 新居浜 (0897)32-5001 松山支店 松山 (0899)45-4111 九州支店 福岡 (092)271-7700 北九州支店 北九州 (093)541-2887

【本資料に関する技術お問い合わせ先】

コンシューマ半導体販売事業部 AVシステム技術部	〒210 川崎市幸区塚越三丁目484番地	川崎 (044)548-8886	半導体 インフォメーションセンター FAX(044)548-7900 (FAXにてお願い致します)
半導体応用技術本部	〒460 名古屋市中区栄四丁目14番5号 (松下中目ビル)	名古屋 (052)242-2762	
中部応用システム技術部	〒460 名古屋市中区栄四丁目14番5号 (松下中目ビル)	名古屋 (052)242-2762	
半導体応用技術本部 西日本応用システム技術部	〒540 大阪市中央区城見一丁目4番24号 (NEC関西ビル)	大阪 (06) 945-3383	